

## はじめに

令和4年度事業報告の館報をお届けします。

県政100周年記念事業として当館の前身である愛知県陶磁資料館の建設が決定から50周年という年であった令和4年は、未だ続くコロナ禍の中でありました。それでもコロナ禍だからこそ求められる心の安らぎや豊かさの場であり続けるために、新型コロナウイルス感染症対策を進めつつ、美術館の活動は少しずつ、しかし確実に前に進み始めた一年となりました。

当館は「見るゾーン」としての本館、「(愛知を)知るゾーン」としての南館、「作るゾーン」としての陶芸館・古窯館・復元古窯からなっています。それぞれゾーン毎に、時には複合しながら、展示や教育普及、資料収集やそれらすべてを支える研究活動、作陶体験やアウトリーチ活動、さらには館からの情報発信での様々な取り組みを行ってきました。この館報ではそれらの活動を報告いたします。

そうした活動の中から、当館の今後に大きな意味があると感じた活動をひとつご紹介しておきましょう。特別展「ホモ・ファーベルの断片 一人とものづくりの未来」の開催です。国際芸術祭「あいち2022」の連携企画として開催されたものであったということ。そして本館1階、地下1階に古窯館、芝生広場、さらには南館にまで展開するというこれまでにはなかった規模で行われた展覧会であったということ。この二つの点からこの展覧会の開催は当館がより大きな可能性を持っていることを示すものとなりました。

全国でも最大規模の陶磁専門の美術館として、愛知の、東海の、日本の、そして世界のみなさまに楽しんでいただける館となること。それを目標として活動し、積み重ね、そしてこれからも変わってまいります。これまで同様、どうぞ御支援、御指導のほどよろしくお願いいたします。

令和5年7月

愛知県陶磁美術館

総長 伊藤嘉章

## 目 次

I	事業及び施設の概要	3
II	令和4年度事業	5
1	本館展示	6
	(1) 特別展・企画展      6                      /                      (2) 常設展示・特集展示等      14	
	(3) テーマ展              16                      /                      (4) ロビー展示                      17	
2	南館展示	18
	(1) 常設展示              18                      /                      (2) テーマ展                      18	
3	館外展示	20
4	共催展示	21
5	所蔵資料	22
	(1) 資料収集              22                      /                      (2) 資料活用                      27	
6	調査・研究	36
	(1) 研究紀要              36                      /                      (2) 研究論文等                      36	
	(3) 研究発表等              37                      /                      (4) 審査員、委員等              38	
7	教育・普及事業	39
	(1) 学校連携事業              39                      /                      (2) 地域の大学との連携      40	
	(3) 館内実施講座              41                      /                      (4) 館外実施講座・講義      43	
	(5) ボランティア              44                      /                      (6) 図書室                      45	
8	地域連携	46
	(1) 愛知県内              46                      /                      (2) 広域                      49	
9	陶芸館	50
	(1) 事業内容              50                      /                      (2) 定例事業                      51	
	(3) 地域連携              56	
10	現代陶芸魅力発信事業	57
11	魅力向上推進事業	59
12	広報・宣伝活動	60
13	事業活性化の取組	62
14	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について	64
III	参考資料	65
1	組織及び事務分掌	65
2	決算額（令和4年度）	66
3	愛知県陶磁美術館運営会議（令和4年度）	67
4	愛知県陶磁美術館資料委員会（令和4年度）	68
5	利用者の状況	69
6	施設の規模と配置	74
7	沿革	76

# I 事業及び施設の概要

## 1 事業の概要

愛知県陶磁美術館は、美術的、歴史的、産業的に貴重な陶磁資料の保存を図り、陶磁文化の普及・向上と陶磁器産業の振興に寄与するため、陶磁器及び陶磁器に関する資料の収集、保存、展示及び調査研究並びに県民のやきものづくり体験の事業を行っている。

愛知県陶磁美術館条例（抜粋）

（設置）

第一条 陶磁文化の振興及び陶磁器に関する文化財の保存並びに住民の陶芸に対する教養の向上を図り、併せて陶磁器産業の発展に寄与するため、愛知県陶磁美術館（以下「美術館」という。）を瀬戸市に設置する。

愛知県陶磁美術館基本理念

「土」という自然素材を焼くことにより生み出されたやきものは、原始時代から現代まで、世界中の人々の生活に不可欠なものとして、暮らしと産業を支えてきました。同時にやきものの特徴である文様や造形、土や釉薬の輝きや色などは、我々の美的感性や創造性を刺激し、現在も多くの芸術作品が生み出されています。

当館は、こうしたかけがえのない歴史的な文化財や芸術作品など、様々な魅力を湛えたやきものを中心とした美術館として、多くの人々に鑑賞、制作、学習等の機会を提供することにより、人々の知性と感性を高め、創造的で多様性のある心豊かな地域社会の実現を目指します。

### （1） 展示

陶磁文化の普及・向上のため、各種の展示活動を実施している。

本館では美術的、歴史的陶磁資料を中心に、古代から現代までの日本及び世界の陶磁の常設展示を開催している。さらに特別展や企画展では、さまざまなテーマによって、時間的、空間的、分野的に幅広い種類の陶磁作品を紹介している。本館のシンボリックな展示となっている「リ・デザイン・狛犬」は郷土の民俗文化財である狛犬を紹介している。

南館では愛知のやきものをテーマに、現在の瀬戸・常滑・名古屋周辺・高浜周辺を取り上げ、愛知の陶磁史も併せて紹介している。古窯館では、実際に発掘された古窯を保存・展示している。

### （2） 資料

日本陶磁史の全体像を系統的に理解できるよう、全国の主要な窯業地の陶磁器、海外の代表的な窯業地の陶磁器、国内外の現代陶芸作品、陶磁器産業資料及び窯業関連資料の収集を図ることを基本方針としている。

### （3） 調査・研究

学会への参加・研究発表を行い、国内外の美術館、博物館、研究機関と交流している。

### （4） 教育・普及

陶磁文化の普及・向上を目指し、展覧会の理解をより深めるための講演会、ギャラリートーク、ワークショップなどを開催している。また、小中学校、高校、特別支援学校や大学など学校教育との連携事業や、地域の施設、団体との連携事業に取り組んでいる。

### （5） 広報活動

館の活動を紹介するため、広報宣伝用印刷物の作成と配布、公式 WEB ページや SNS での情報提供など広報活動を行っている。

### （6） 陶芸館

教育・普及事業の一環として、陶芸実習の希望者に対し通年で陶芸指導を行うとともに、例年の陶芸教室や古窯焼成実験、展示と連携したワークショップなどを開催している。

## 2 施設の概要

### (1) 所在地

愛知県瀬戸市南山口町 234 番地

### (2) 規模

・ 敷地	280,480.47 m <sup>2</sup>		
・ 建築面積／延床面積／基本構造			
総計	10,228.88 m <sup>2</sup>	／	20,968.60 m <sup>2</sup>
本館	6,387.00 m <sup>2</sup>	／	14,792.45 m <sup>2</sup> 地上3階地下1階建 鉄骨鉄筋コンクリート造り
南館	1,475.42 m <sup>2</sup>	／	1,519.39 m <sup>2</sup> 平屋一部2階建 鉄骨鉄筋コンクリート造り
西館	275.50 m <sup>2</sup>	／	232.75 m <sup>2</sup> 平屋建 鉄筋コンクリート造り
陶芸館	1,442.25 m <sup>2</sup>	／	3,541.41 m <sup>2</sup> 地上1階地下2階建 鉄筋コンクリート造り
古窯館	360.79 m <sup>2</sup>	／	344.00 m <sup>2</sup> 平屋建 鉄骨造り
茶室	160.36 m <sup>2</sup>	／	148.23 m <sup>2</sup> 平屋建 鉄筋コンクリート造り
その他	127.56 m <sup>2</sup>	／	390.37 m <sup>2</sup>

### (3) 開館時期

本館	昭和 54 年 10 月 13 日	(工期 昭和 52 年 12 月 23 日 ~ 昭和 54 年 3 月 20 日)
	平成 6 年 7 月 6 日 [増築開館]	(工期 平成 3 年 10 月 16 日 ~ 平成 5 年 11 月 30 日)
南館	昭和 53 年 6 月 1 日	(工期 昭和 51 年 12 月 25 日 ~ 昭和 53 年 3 月 20 日)
西館	昭和 57 年 12 月 4 日	(工期 昭和 57 年 6 月 30 日 ~ 昭和 57 年 12 月 4 日)
陶芸館	昭和 61 年 4 月 12 日	(工期 昭和 60 年 10 月 3 日 ~ 昭和 61 年 3 月 20 日)
	平成 6 年 4 月 1 日 [増築開館]	(工期 平成 3 年 10 月 16 日 ~ 平成 5 年 11 月 30 日)
古窯館	平成 6 年 4 月 1 日	(工期 平成 4 年 9 月 29 日 ~ 平成 5 年 3 月 18 日)
茶室	昭和 56 年 11 月 26 日	(工期 昭和 56 年 5 月 1 日 ~ 昭和 56 年 11 月 26 日)

### (4) 博物館法、文化財保護法上の位置付け

博物館相当施設 (博物館法第 31 条)

重要文化財公開承認施設 (文化財保護法第 53 条)



本館



南館



西館 (休館中)



陶芸館



古窯館



茶室

## Ⅱ 令和4年度事業

古代から現代までの日本及び世界の陶磁、あるいは国内外の優れた陶芸家の作品などを、様々なテーマによって幅広く紹介した。

<令和4年度展示一覧>

展示種別	展示名称 / 会期	掲載頁	
本館展示	企画展「酒のうつわーその美、こだわり…」 会期：4月9日(土)ー7月3日(日)	6ー7頁	
	特別展「ホモ・ファーベルの断片 一人とものづくりの未来ー」 会期：7月16日(土)ー10月2日(日)	8ー9頁	
	特別展「平安のやきものーその姿、うつろいゆく」 会期：10月29日(土)ー令和5年1月15日(日)	10ー11頁	
	特別展「アーツ・アンド・クラフツとデザイン ウィリアム・モリスからフランク・ロイド・ライトまで」 会期：令和5年1月28日(土)ー3月26日(日)	12ー13頁	
	常設展「日本と世界のやきもの」 会期：4月1日(金)ー令和5年3月31日(金)	14頁	
	常設展「現代の陶芸」 会期：4月1日(金)ー7月5日(火)、10月11日(火)ー令和5年3月31日(金)		
	特集展示「茶器濟濟」 会期：4月1日(金)ー令和5年3月31日(金)	15頁	
	特集陳列「呂宋 近世瀬戸の鮮やかなやきもの」 会期：4月1日(金)ー12月4日(日)		
	特集陳列「伊万里の変形小皿」 会期：12月6日(火)ー令和5年3月19日(日)		
	特集陳列「青磁の色はなぜいろいろ」 会期：令和5年3月21日(火)ー6月18日(日) (次年度継続展示)		
	テーマ展示	「〈織部を焼こう〉の軌跡ー復元古窯による実験焼成の成果ー」 会期：4月9日(土)ー5月15日(日)	16頁
		「初代諏訪蘇山ー初代蘇山の遺した石膏型を次代へー」 会期：5月21日(土)ー6月26日(日)	17頁
	ロビー展示	「瀬戸・常滑作家コーナー」 会期：4月1日(金)ー令和5年3月31日(金)	17頁
	南館	「もっと伝えたい、愛知のやきもの」 会期：4月1日(金)ー6月25日(土)、10月19日(水)ー令和5年3月31日(金)	18頁
「ウイスキーボトルとピアマグコレクション」 会期：3月29日(火)ー6月25日(土)			
「瀬戸ノベルティ de フラワーガーデン」 会期：10月19日(水)ー12月25日(日)		19頁	
館外展示	「名古屋絵付って何？その① 凸盛り&油溶き技法」 会期：令和5年1月5日(木)ー4月2日(日)	20頁	
	愛知県美術館・愛知県陶磁美術館 令和4年度移動美術館「もじもえもじも」 会期：9月17日(土)ー11月27日(日)		
	サテライト展示「民藝運動とやきもの」 会期：4月1日(金)ー令和5年3月31日(金)		
共催展示	愛知用水関連資料特別展示 会期：4月1日(金)ー令和5年3月31日(金)	21頁	
	企画展「戦時下のせとやきー近代後期の瀬戸窯と美濃窯ー」 会期：11月5日(土)ー12月18日(日)		
	日本工芸会東海支部「東海伝統工芸の今ー第53回東海伝統工芸展より」 会期：令和5年1月17日(土)ー1月22日(日)		

## 1 本館展示

### (1) 特別展・企画展

#### ① 企画展「酒のうつわ—その美、こだわり…」

古から現在に至るまで人々は好みの酒器を使い、様々な思いを込めて酒のうつわを楽しんできた。そこには日本人の豊かな感性が生み出した面白き「うつわ使い」の世界を垣間見ることが出来る。本展では、3つのテーマから酒のうつわにスポットをあて、日本の器使いの面白さ、やきもの酒器の美しさと豊かさを紹介した。

会期	4月9日(土) - 7月3日(日)
開館日数	74日
会場	本館1階第1・第2展示室
主催	愛知県陶磁美術館
後援	愛知県教育委員会、愛知高速交通株式会社(リニモ)
担当	学芸員 宮川菜々子、学芸課長 大槻倫子
出品件数	163件
観覧者数	5,191人
図録等	展覧会リーフレット(20.0×22.0cm、19ページ) 執筆・構成: 宮川菜々子、大槻倫子 ポスター-B2版、チラシ-A4版
展示構成	第一章「酒器の美と造形」 第二章「コレクターズ・ <sup>アイ</sup> 眼—こだわりの酒器」 (1) 陶芸家・辻 清明のコスモポリタンな酒器コレクション (2) 企業人・司 忠のさかずきコレクション (3) 茶人・木村定三の数奇なコレクション 第三章「 <sup>かわいい</sup> 愉しみの酒器—KAWAII」



A4 チラシ

#### ◇関連展示

南館テーマ展「瀬戸ノベルティのウイスキーボトルと麒麟・ピアマグ・コレクション」  
※詳細は18ページ 南館テーマ展に掲載

#### ◇豊橋市図書館との連携展示

「司文庫でみる焼き物の世界～壮麗な美術書めぐり～」  
会期: 4月23日(土) - 6月19日(日)  
会場: 豊橋市中央図書館 2階展示コーナー

#### 関連行事

##### ◇開催記念「酒のうつわトーク 私の好きな盃」

講師: 太田和彦 (アートディレクター・作家)  
聞き手: 大槻倫子  
日時: 6月12日(日) 13:30-15:00  
参加者数: 97人  
会場: 本館地下1階講堂

##### ◇担当学芸員によるスペシャルギャラリーツアー

日時: ①4月30日(土)、②5月7日(土)、③5月21日(土)、④6月18日(土)  
各日とも 13:30-14:30  
会場: 本館1階第1・第2展示室  
解説: ①②宮川菜々子、③④大槻倫子  
参加者数: ①28人、②17人、③18人、④22人

◇ワークショップ「土くらべ・のみくらべ」(2回シリーズ)

磁土、瀬戸の白土、常滑の朱泥、異なる土を用いてぐい呑み/さかずきを制作。  
触感や土の性質によって飲み物の味には、どのような違いが現れるのかを体験した。

担当：宮川菜々子、大槻倫子

陶芸指導員 岩淵 寛、吉田庄吾

日程：1日目 土くらべ・制作 5月8日(日) 10:00-12:00

2日目 のみくらべ・体験 6月5日(日) 10:00-12:00

会場：陶芸館

参加者数：60人

◇朝日カルチャーセンター講座

「酒のうつわ その美に酔いしれる」

(講義) 5月11日(水) 10:30-12:00 講師：学芸員 宮川菜々子

(鑑賞) 5月18日(水) 10:30-12:00

主要掲載記事

◇テレビ

「村上佳菜子の週刊愛ちっち」(東海テレビ5月12日放映)

◇新聞

「かくも多様な酒のうつわ 愛知県陶磁美術館」陶業時報第1912号(陶業時報社5月1日)

『地域創造レター』6月号地域通信欄(一般財団法人地域創造)

◇雑誌等

『目の眼』2022年6月号(株式会社目の眼)

宮川菜々子、大槻倫子「企画展「酒のうつわーその美、こだわり…」

(日本陶磁器産業振興協会『JAPPI NEWSLETTER』No.276 5月1日)

アサヒトセトイベントニュース3月号、ひまわりくらぶ3月号、リプル3月号

名古屋フリモ緑区版3月号、ポトス尾張旭・瀬戸版3/24号、月刊なごや5月号等

◇インターネット、SNS

朝日新聞デジタル版イベントバンク、SAKETIMES、美術館・博物館情報サイトアートアジェンダ  
ント等

定性評価ー自己評価ー

本展はやきものを使い、楽しむことを伝える展覧会として酒器に焦点を当てた。日本の飲酒文化と歴史を紹介し、老若男女誰もが楽しめる展覧会を目指す一方で、若い層にやきものを使う楽しさを伝えることに注力した。そのためポスター、チラシ等の広報物に華やかな色合いでアニメ的な要素を取り入れた。また「KAWAII(かわいい)」をキーワードにした展示パートを設定し、楽しんで読めるや  
やくだけた表現の解説パネルを付けたり、からくり酒器の動画を作成して展示室で公開した。

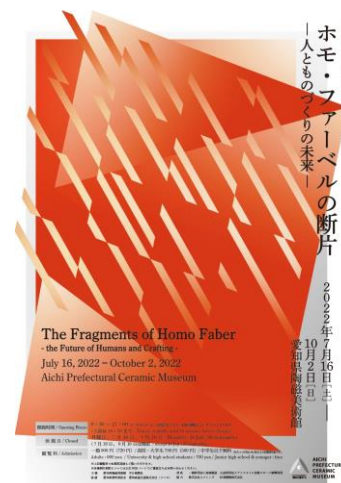
アンケート集計によると、20歳代が21%を占め主要入館者層となり(令和3年度展覧会の20歳代入館率は平均7.5%)目的は達成できたと考える。酒のうつわトークやギャラリートーク、ワークショップなどの関連行事は全て盛況で、いずれも若年層の参加が多かった。また本展では、国内外のやきものを名品から日常器まで所蔵する当館の幅広いコレクションを活かした、陶磁美術館ならではの展覧会となった。

反省点としては総入館者数が目標を大きく下回ったことである。今回得たアンケート意見やメディア関係者の意見、キーワードにつながる関心事などを反映しながら、展示テーマの設定、展示構成、展覧会タイトルの付け方、メディアへのアプローチ方法などを検討していく必要がある。

## ② 特別展 「ホモ・ファーベルの断片 一人とものづくりの未来」

本展は国際芸術祭あいち2022の連携企画事業として、フランスの哲学者ベルクソンの提唱した「ホモ・ファーベル」の概念を手がかりに、東海地域の現代陶芸を多角的に捉える試みであった。人間国宝から若手まで、全36名の作家を南館・芝生広場・本館1階・本館地下1階・古窯館など敷地全体を使いながら紹介した。

会期	7月16日(土)－10月2日(日)
開催日数	68日間
会場	南館、芝生広場、本館1階第1・第2・第8展示室、本館地下1階第7展示室、古窯館
作家	【第Ⅰ章】 植松永次、奥直子、加藤清之、桑田卓郎、柴田真理子、田中陽子、田中良和、横田典子、吉川正道、渡邊太一郎 【第Ⅱ章】 伊藤雅風、伊藤秀人、井戸真伸、小形こず恵、加藤孝造、清水潤、鈴木藏、田上知之介、樽田裕史、長江重和、林恭助、前田正剛、松永圭太、水野教雄、森克徳、山浦陽介 【第Ⅲ章】 安藤正子、伊藤慶二、岩村遠内、内田鋼一、川田知志、酒井智也、戸田守宣、中田ナオト、松藤孝一
主催	愛知県陶磁美術館、中日新聞社
後援	愛知県教育委員会、愛知高速交通株式会社(リニモ)
助成	一般財団法人地域創造、公益財団法人アイスタイル芸術スポーツ振興財団
協力	株式会社エクシズ、杉浦製陶株式会社
担当	学芸員 入澤聖明、佐久間真子
出品件数	225件
観覧者数	4,929人
図録等	図録(A4変形判 112頁) ポスターB2版、チラシA4版



A4 チラシ



図録表紙

### 関連行事

#### ◇記念シンポジウム

7月16日(土) 13:00－14:30 本館地下1階講堂  
 パネラー：片岡真実氏(森美術館館長/国際芸術祭「あいち2022」芸術監督)  
 内田鋼一氏(陶芸家/造形作家/アートディレクター、本展参加作家)  
 館長 佐藤一信

#### ◇出品作家による対談「伊藤慶二×加藤清之」

9月17日(土) 13:30－14:30 本館地下1階講堂  
 講師：伊藤慶二氏(陶芸家)、加藤清之氏(陶芸家)

#### ◇出品作家によるいけばな実演「使うを通してつくる」

7月23日(土) 13:30－14:30 本館1階ロビー  
 講師：加藤清之氏(陶芸家)

#### ◇出品作家によるアーティストトーク

8月27日(土) 13:30－14:30  
 講師：川田知志氏、山浦陽介氏  
 9月10日(土) 13:30－14:30  
 講師：田中良和氏、酒井智也氏、田中陽子氏、樽田裕史氏

#### ◇担当学芸員によるスライドトーク

8月11日(木・祝)、13日(土)、9月11日(日)、18日(日)、10月2日(日)各回 13:30－14:30 展示説明室

◇ワークショップ「観賞と体感ー移動する静物」

8月11日(木・祝)、8月13日(土)、8月27日(土)、9月11日(日)、9月24日(土)  
いずれも 15:00-16:00 南館展示室

◇ワークショップ「かたちに描くー陶板×フレスコ画ー」

7月31日(日)「レクチャー&陶板づくり」 13:30-15:30

8月21日(日)「漆喰塗り&描画」 10:00-15:30

会場：陶芸館第2実習室・本館特別展会場・古窯館

講師：川田知志氏(美術作家/本展参加作家) 担当：学芸員 入澤聖明、陶芸指導員 岩淵 寛

参加人数：30人

◇中日文化センター講座

「東海の現代陶芸の今を見る・知る 愛知県陶磁美術館特別展 ホモ・ファーベルの断片ー人とも  
のづくりの未来ー」展から

(講義) 8月30日(火) 10:30-12:00 栄中日文化センター

(鑑賞) 9月6日(火) 10:30-12:00 愛知県陶磁美術館

主要関連記事

◇新聞

入澤聖明「現代陶芸からものづくりを展望する ホモ・ファーベルの断片-人ともものづくりの未来」  
(新美術新聞 7月21日)

入澤聖明「ホモ・ファーベルの断片-人ともものづくりの未来-上」(中日新聞 8月2日朝刊)

入澤聖明「ホモ・ファーベルの断片-人ともものづくりの未来-下」(中日新聞 8月3日朝刊)

宮川まどか「現代陶芸の素材や技に光 瀬戸・陶磁美術館で「ホモ・ファーベル」展」(中日新聞  
8月17日朝刊)

松崎晃子「ホモ・ファーベルの断片-人ともものづくりの未来-」(中日新聞 9月9日朝刊)

◇雑誌

入澤聖明「ホモ・ファーベルの断片-人ともものづくりの未来-」(『陶説』831号)

入澤聖明「ホモ・ファーベルの断片-人ともものづくりの未来-」(『炎芸術』151号)

高橋秀治「国際芸術祭「あいち 2022」連携企画事業 ホモ・ファーベルの断片-人ともものづくり  
の未来-」(『芸術批評誌リア 49号』12月30日刊行)

井上隆生「東海の陶芸展 ホモ・ファーベルの断片-人ともものづくりの未来-1」(『陶説』832号)

井上隆生「東海の陶芸展 ホモ・ファーベルの断片-人ともものづくりの未来-2」(『陶説』833号)

◇ウェブサイト

「陶芸の創造性を36名の作家から問い直す。愛知県陶磁美術館で「ホモ・ファーベルの断片-人  
ともものづくりの未来-」が開催中」(美術手帖 8月6日から掲載)

ひろすぎやま「ホモ・ファーベルの断片-人ともものづくりの未来-」(インターネットミュージアム8  
月8日から掲載)

「気鋭の現代陶芸作家36名が競演！愛知県陶磁美術館で特別展「ホモ・ファーベルの断片-人とも  
のづくりの未来-」が開催中」(TOKYO ART BEAT 9月6日から掲載)

井上昇治「特別展「ホモ・ファーベルの断片-人ともものづくりの未来-」愛知県陶磁美術館(瀬戸  
市)で7月16日-10月2日」(OutermostNAGOYA 7月22日から掲載)

定性評価ー自己評価ー

本展は国際芸術祭「あいち 2022」の連携企画事業として、東海地域の現代陶芸の現状を、ベルクソンの提唱した「ホモ・ファーベル」の概念を援用しつつ捉え直す試みであった。いわゆる器・オブジェといった作品の形態に囚われず、やきもの人が当地域でどのように関わられるのか、という部分を描き出すことを目的とした。具体的には、人間国宝から若手作家まで、幅広い年代・ジャンルのつくり手を「素材」「人」「場所」の3つのテーマで紹介した。

また、展示空間は国際芸術祭のメイン会場である愛知県美術館と同規模の敷地面積を確保し、南館、芝生広場、本館、古窯館の複数施設にまたがって展開したことで、当館の新たな可能性を提示できた。

一方で、夏季開催のため複数施設をまたぐ展示は鑑賞者への負担が大きかったことや、テーマ設定・作家選定に吟味すべき余地があったこと、作家に対しての出品謝金予算が国際芸術祭と比較して10分の1程度しか準備できなかったことなど、企画面・運営面において多々反省点は残るかたちとなった。

### ③ 特別展「平安のやきもの—その姿、うつろいゆく」

平安時代のやきものについて、本県が一翼を担った緑釉・灰釉の二大陶器と、その系譜を引く国産陶器に焦点をあてた。関連する須恵器や金属器、中国陶磁を交えて展観し、400年にわたる重層的なデザインの移り変わりを紹介した。

会期	10月29日(土)～令和5年1月15日(日)
開館日数	60日
会場	本館1階第1・第2展示室
主催	愛知県陶磁美術館、中日新聞社
後援	愛知県教育委員会、愛知高速交通株式会社(リニモ)
その他担当	文化庁「ARTS for the future! 2」補助対象事業 学芸員 大西 遼、田畑 潤
出品件数	152件
観覧者数	4,103人
図録等	図録(A4変型判 144頁) ポスターB2版、B3版、チラシA4版



A4 チラシ

#### 関連行事

##### ◇記念講演会「猿投—古代の青瓷と白瓷」

11月27日(日) 13:30-15:00 本館地下1階講堂  
講師：井上喜久男氏(元愛知県陶磁資料館館長補佐)

##### ◇記念講演会「三彩から緑釉陶器・白色土器へ—平安京を彩ったやきもの」

12月18日(日) 13:30-15:00 本館地下1階講堂  
講師：高橋照彦氏(大阪大学大学院人文学研究科教授)

##### ◇制作体験「花の器—陰刻花文」

11月19日(土) 10:00-16:00 本館1階第1展示室、茶室「陶翠庵」、陶芸館  
内容：特別展観覧、陶片鑑賞、梅本氏作品・テストピース鑑賞、梅本氏制作実演、制作

11月26日(土) 13:30-15:30 陶芸館

内容：文様を考える、文様を彫る

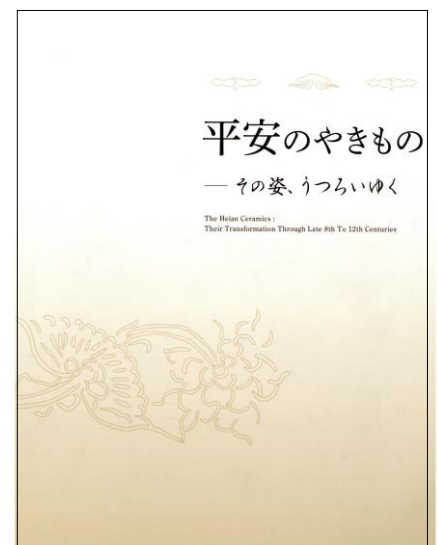
講師：梅本孝征氏(愛知県立芸術大学 教授)

担当：陶芸指導員 岩渕 寛、宮下 陽

学芸員 大西 遼、田畑 潤

報告展示(参加者作品含む)

12月20日(火)～令和5年1月15日(日) 本館1階ロビー



図録表紙

##### ◇連続講座&ギャラリートーク

「平安のやきものの幕開け」 講師：大西 遼

11月12日(土)、11月20日(日) \*両日とも同様の内容

「平安時代における中国のやきもの」 講師：田畑 潤

12月3日(土)、12月10日(土) \*両日とも同様の内容

「中国陶磁への憧れ、その行方」 講師：大西 遼

12月17日(土)、12月24日(土) \*両日とも同様の内容

「仏教の移ろいの中で」 講師：大西 遼

令和5年1月7日(土)、1月14日(土) \*両日とも同様の内容

各日とも 13:30-15:00 本館地下1階講堂

◇朝日カルチャーセンター講座

「うつろいゆく平安のやきもの400年の魅力」

(講義) 11月9日(水) 10:30-12:00 朝日カルチャーセンター名古屋教室

(鑑賞) 11月16日(水) 10:30-12:00 愛知県陶磁美術館

◇中日文化センター講座

「平安人の愛したやきもの—400年のうつろいから平安史をたどる」

(講義) 11月17日(木) 10:30-12:00 栄中日文化センター

(鑑賞) 11月30日(水) 10:30-12:00 愛知県陶磁美術館

主要関連記事

◇新聞

平木友見子「陶磁器の魅力存分に 平安のやきもの変遷紹介 瀬戸で特別展 世相思想に焦点」  
(中日新聞 11月18日)

大西 遼「平安のやきもの 上 重要文化財 緑釉四脚壺」(中日新聞 11月23日)

大西 遼「平安のやきもの 下 県指定文化財 牡丹文経筒外容器」(中日新聞 11月24日)

「美博ノート 愛知県陶磁美術館「平安のやきもの その姿、うつろいゆく」灰釉花文飛雲文浄瓶」(朝日新聞 11月29日)

「平安のやきもの、美のうつろい 愛知県陶磁美術館」(『陶業時報』1919号 12月1日)

「美博ノート 愛知県陶磁美術館「平安のやきもの その姿、うつろいゆく」 緑釉羽釜・風炉」  
(朝日新聞 12月6日)

「時代を代表する陶器、一堂に 愛知県陶磁美術館で「平安のやきもの」展」(中部経済新聞 12月6日)

「美博ノート 愛知県陶磁美術館「平安のやきもの その姿、うつろいゆく」牡丹文経筒外容  
(朝日新聞 12月13日)

◇雑誌

大西 遼「たより 愛知県陶磁美術館「平安のやきもの展」」(『考古学研究』274号 9月30日)

大西 遼「平安のやきもの その姿、うつろいゆく」(『陶説』832号 10月1日)

大西 遼「愛知県陶磁美術館 特別展「平安のやきもの—その姿、うつろいゆく」」(『JAPPI NEWSLETTER』11月1日刊行)

「三河湾を挟んだ二つの古窯の栄枯盛衰」(『目の眼』555号 11月15日)

大西 遼「今月観たい名品 緑釉羽釜・風炉」(『月刊なごみ』517号 11月28日)

「特別展 平安のやきもの—その姿、うつろいゆく」(『小さな蕾』653号 12月1日)

◇ウェブサイト

「骨壺を茶道具にリメイク!? 信長の弟・織田有楽の茶道が自由すぎる!」(和楽web 令和5年 1月13日から掲載)

定性評価—自己評価—

本展は、中世初期も含めて平安時代の施釉陶器系のやきものに焦点を当てた展覧会で、関連する中国陶磁や金属器を合わせて大々的な展示を意図した。書籍等では中国陶磁や金属器との関連性が紹介されていても、実物として豊富に見比べる展覧会は少なく、アンケートでも好評を得た。

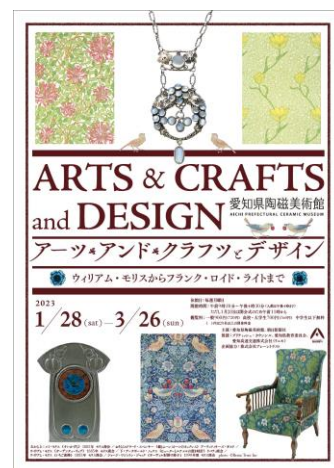
古代の展示だと、残存度の問題から陶片や復元の多い資料を含めた展示になりがちだが、今回は鑑賞に耐えうる残存率・優品重視で作品選定を行い、考古学に関心のある層以外も、古代のやきもの世界に踏み入りやすいよう意図した。パネル・キャプション等は、文章による情報過多が起きないよう意識し、展示では見えない裏面や断面の実測図、図解パネルを合わせて展示し、視覚的に作品への理解が深まるよう意図した。アンケートでも、以上のような展示演出への好評を得た。

本展は新聞や専門誌で比較的大きく取り上げられることが多く、業界やメディアからの関心は高かった。また、計算上来館者7.8人に一人の割合で購入と図録の売り上げ率が高く、本展の内容への関心の高さもうかがわれた。アンケートでは来館者の3割程が関東や関西在住で、比較的県外からの関心も得られた。

#### ④ 特別展「アーツ・アンド・クラフツとデザイン ーウィリアム・モリスからフランク・ロイド・ライトまでー」

19世紀後半にイギリスで興り、産業革命以降の機械化によって失われた手仕事を取り戻し、生活と芸術の一体化を目指したアーツ・アンド・クラフツ運動の多様性と広がり、イギリスとアメリカのテキスタイル、壁紙、家具、タイル、ガラス、アクセサリーなど約150点を通じて紹介した。

会期	令和5年1月28日(土)ー3月26日(日)
開館日数	50日
会場	本館1階第1・第2・第8展示室
主催	愛知県陶磁美術館、朝日新聞社
後援	ブリティッシュ・カウンシル、愛知県教育委員会、愛知高速交通株式会社(リニモ)
監修	藤田治彦(大阪大学名誉教授)
企画協力	株式会社ブレントラスト
担当	学芸課長 大槻倫子、学芸員 佐久間真子・植田直子
出品件数	147件
観覧者数	16,092人
図録等	図録(B5判、168頁) 執筆 藤田治彦「アーツ・アンド・クラフツとデザイン ウィリアム・モリスからフランク・ロイド・ライトまで」・ 作品解説・コラム・主要作家/巡回会場学芸員による共同執筆 発行 「アーツ・アンド・クラフツとデザイン ウィリアム・モリスからフランク・ロイド・ライトまで」カタログ制作実行委員会 ポスターB2版、チラシA4版



A4 チラシ



図録表紙

#### ◇同時開催 特別展示「アーツ&クラフツの陶芸」

会期：令和5年1月28日(土)ー3月26日(日)

会場：本館1階第8展示室

内容：国立研究開発法人 産業技術総合研究所所蔵の近代陶磁コレクション(愛知県陶磁美術館寄託)から、アーツ&クラフツ運動の影響によって展開したイギリスとアメリカのアート・ポットリー(美術陶磁)26件を紹介。

#### 関連事業

##### ◇記念講演会「モリスとド・モーガンのタイル」

令和5年2月12日(日)13:30ー15:00

会場：本館地下1階講堂

講師：吉村典子氏(宮城学院女子大学 教授)

参加者数：145名

##### ◇ミニ講座+ギャラリートーク

開催日時：①令和5年2月5日(日)②令和5年3月5日(日)

各日13:30ー14:30

講師：①植田直子、②大槻倫子

会場：本館地下講堂、1階第1・第2・第8展示室

参加者数：①65名、②75名

- ◇体験講座「ティーアドバイザーに学ぶヴィクトリア時代の紅茶文化」  
内容：展覧会テーマと同時代の紅茶文化を学び、美味しい紅茶の淹れ方を実習  
講師：森川 隆氏（日本紅茶協会認定ティーアドバイザー/紅茶館M's Tearoom 主宰）  
日時：令和5年2月23日（木・祝）  
①午前の部：10:00-12:00  
②午後の部：13:15-15:15  
参加者数：①15名、②15名 合計30名

- ◇ワークショップ「自然の美しさに心を馳せるータイルに和と洋の動物を描く」  
内容：展示鑑賞し東洋と西洋の動植物の表現を学んだ後に、タイルに美しい自然を描く。  
講師：石川理恵氏（陶芸家）  
日時：令和5年3月11日（土）13:00-16:00  
会場：本館特別展会場・陶芸館第2実習室  
担当：学芸員 佐久間真子、植田直子、陶芸指導員 高阪美由  
参加者数：20名

#### 主要関連記事

- ◇テレビ  
「まるまる◎あいち」（メ〜テレ 令和5年2月12日、16日放映）
- ◇ラジオ  
「DAY DREAM MAGIC」（FM AICHI 令和5年2月7日放送）
- ◇新聞  
「生活に美を作品多彩 瀬戸で「アーツ・アンド・クラフツとデザイン」展」  
（朝日新聞愛知県版 令和5年1月29日朝刊、Web版）  
「アーツ・アンド・クラフツとデザイン展開幕」（中日ホームニュース 令和5年2月10日）
- ◇雑誌等  
『小さな蕾』2023年3月号（株式会社創樹社美術出版）  
『東海ウォーカー』冬号（KADOKAWA 10月27日）  
『目の眼』2023年2月号（株式会社目の眼）  
大槻倫子 展覧会紹介（日本陶磁器産業振興協会『JAPPI NEWSLETTER』No.285 令和5年2月1日）  
井上隆生（東海の陶芸展）「アーツ・アンド・クラフツとデザイン ウィリアム・モリスからフランク・ロイド・ライトまで」（日本陶磁協会『陶説』837号 令和5年4月1日）
- ◇インターネット、SNS  
FASHION PRESS/British Culture in Japan/美術展ナビ/ライフデザインズ/スフマート/日刊  
KELLY/美術館・博物館情報サイトアートアジェンダ 鑑賞レポート/AichiNow

#### 定性評価ー自己評価ー

アーツ・アンド・クラフツ運動をテーマとした展覧会は従来から人気が高いテーマである。今回の展覧会は、中心人物のウィリアム・モリスの作品だけではなく、同運動の広がりや多様性を紹介する観点から、壁紙、テキスタイル、本装丁、陶磁、ガラス、金工、家具、建築など、様々な分野の作品が出品され充実した内容であった。しかし陶磁分野がタイルのみの展示であったため、当館会場のみのオリジナル展示として特別展示「アーツ&クラフツの陶芸」を特別展会場内で同時開催し、陶磁器分野の展示を補うことで、陶磁器専門美術館ならではの巡回会場とすることができた。

展示については、各素材が持つ魅力を引き出すことを心掛け、作品はできるだけ四方向から見ることが出来る展示手法をとった。しかし当館の設備が染色や絵画などの照度調節に対応できなかったことから、細部が見えず鑑賞しにくい、解説パネルが読みづらいとの声が多く寄せられた。この点については今後の検討課題である。また会期中限定で関連グッズを販売するミュージアムショップを誘致し、展覧会鑑賞に加えて来館者に楽しみを提供することができた。

本展の開催目的は集客に貢献すること、初来館の若年層の獲得等であったが、実際の開催状況やアンケート結果、関連行事の応募状況からみて、目的はほぼ達成できたと考える。

## (2) 常設展示・特集展示等

### ① 日本と世界のやきもの

基幹展示とトピック展示で大別して構成している。

基幹展示は、名品部門と通史部門を設置。世界各地の古陶磁について、前者は単体展示、後者は集合展示の資料配置で展示紹介している。

名品部門は、所蔵品から選りすぐった優品を紹介する提示型展示（鑑賞型展示）としている。

通史部門は、完器による概説展示と、古窯陶磁資料による収蔵的展示からなる二元展示としている。前者は所蔵資料を中心とした、日本、韓国、中国等の地域別、時代順の展示である。後者は全国の調査研究機関等から借用した、窯跡から出土した陶片資料の展示である。

令和4年3月から第3展示室東側にハンズオン・レプリカ体験コーナー「8Kで文化財 ふれる・まわせる名茶碗」を設置した（コンテンツ制作：独立行政法人国立文化財機構文化財活用センター、制作協力：九州国立博物館・当館）。

第3展示室の特集展示コーナーでは、「茶器済済」を開催した。また第5展示室の特集陳列コーナーでは、「呂宋」（4月1日～12月4日）「伊万里の変形小皿」（12月6日～令和5年3月19日）「青磁の色はなぜいろいろ」（令和5年3月21日～）を開催した。

会 期	4月1日(金)－令和5年3月31日(金)
開館日数	306日
会 場	本館2階 第3－第6展示室
出品件数	名品部門 38件 通史部門及びトピック展示 日本ゾーン 176件 古窯陶片資料 1,267件 外国ゾーン 中国陶磁 116件 韓国陶磁 32件 その他外国陶磁 120件
観覧者数	14,661人



名品部門(第3展示室・西室)



日本のやきもの(第3展示室・東室)



世界のやきもの(第6展示室)

### ② 現代の陶芸 いきもの×やきもの

本展では、現代陶芸におけるいきものの表現に着目し、当館コレクションからその魅力を紹介した。また、あわせて近年収蔵された作品も展示した。

会 期	4月1日(金)－7月5日(火) 10月11日(火)－令和5年3月31日(金)
開館日数	220日
会 場	本館地下1階 第7展示室
出品件数	25件
担 当	学芸員 入澤聖明
観覧者数	10,905人



現代の陶芸(第7展示室)

### ③ 特集展示「茶器済済」<sup>ちやくきさいさい</sup>

常設展「日本と世界のやきもの」において、茶の湯と煎茶道具取り合わせコーナーを設けることによって、両茶文化をより効果的に紹介した。日本には茶の湯と煎茶の茶文化があり、それぞれの茶事を彩る茶器は季節や場に合わせ様々な取り合わせがみられる。両茶文化の取り合わせについて、やきものを中心に取り上げ、季節ごとのしつらえやテーマ性を持たせて紹介することにより、両茶文化の新たな魅力を引き出すことを目的としている。

会 期	4月1日(金)～令和5年3月31日(金)
出品件数	25件
担 当	学芸員 田畑 潤、宮川菜々子



### ④ 特集陳列「呂宋 近世瀬戸の艶やかなやきもの」<sup>るす</sup>

18世紀後半に瀬戸において生産された、緑釉を器の全面に施した特徴的なやきものを特集した。この地域ではこうしたやきものは「呂宋」と称されていたことや、浮世絵などにも登場していることから江戸をはじめとした都心部で愛好されていたことなどもパネルで紹介した。

会 期	4月1日(金)～12月4日(日)
出品件数	8件
担 当	学芸員 佐久間真子



### ⑤ 特集陳列「丸だけじゃない、江戸時代の食を彩るおしゃれなうつわ 伊万里の変形小皿」

伊万里の変形小皿を「小さくてかわいい」「おしゃれなうつわ」という視点から紹介した。現代の私たちの目からみてもおしゃれな小皿が、江戸時代に作られていたことを知ってもらい、なかでも「糸切成形」という変形皿の成形技法に注目して作品を取り上げた。通常のロクロ成形とは異なる工程と特徴の説明を併せて展示することで、動植物などをかたどった形の面白さを、つくる過程を知ることからも楽しめるような展示を行った。

会 期	12月6日(火)～令和5年3月19日(日)
出品件数	8件
担 当	学芸員 小川咲良



### ⑥ 特集陳列「青磁の色はなぜいろいろ」

定義の広い「青磁」というやきものの疑問を、色の違いに注目して答えることをテーマとして開催した。青磁＝青色ではないこと、長い歴史の中で色が変わってきた背景を知ったうえで、色を比較してもらうことを目的とし、時代・地域の異なる中国・韓国・日本の青磁を取り上げた。解説パネルでは、青磁の色が様々ある理由と、展示の最後にはコラムとして用語のややこしさについての疑問にも答える内容とした。

会 期	令和5年3月21日(祝)～6月18日(日)
出品件数	8件
担 当	学芸員 小川咲良



### ⑦ 陶製狛犬展示「リ・デザイン・狛犬」

展示は、令和3年度に引き続き現代陶芸魅力発信事業の一環として開催し、令和4年度はこの展示を活かした「狛犬とめぐるナイトミュージアム」の主会場としても活用した。（詳細は、57頁を参照）

会 期	4月1日(金)ー令和5年3月31日(金)
会 場	本館1階ロビー
出品件数	80件
担 当	学芸員 佐久間真子



### ⑧ 特集展示「もっと伝えたい 愛知のやきもの やきもの王国・愛知によろこそ」

特別展「ホモ・ファーベルの断片」(7月16日ー10月2日)の会期中、会場となった南館常設展示の観覧ができなくなったため、展示の一部を本館2階通路に移設しデジタル版展示を行った。南館1階のテーマである「愛知のやきもの「今」」にそって作品を選出し、瀬戸、常滑、高浜周辺、名古屋周辺における伝統的なやきもの他、ファインセラミックス等も陳列した。

会 期	7月8日(金)ー10月2日(日)
会 場	本館2階廊下
出品件数	32件
担 当	学芸員 鮫島由佳、学芸課長 大槻倫子



## (3) テーマ展

### ① 「〈織部を焼こう〉の軌跡ー復元古窯による実験焼成の成果ー」

「織部を焼こう」と題し、加藤清之氏(陶芸家・瀬戸)を講師として、過去16回にわたり実施した復元古窯(連房式登窯)での薪窯焼成の成果について、実験焼成の資料と参加者の作品をもとに展示紹介した。

会 期	4月9日(土)ー5月15日(日)
開催日数	32日
会 場	本館1階 第8展示室
出品件数	32件
担 当	学芸員 大西 遼、陶芸指導員 岩渕 寛
観覧者数	1,412人

#### 関連行事

##### ◇「窯場トーク」

4月24日(日) 13:30ー15:00

会場：本館1階 第8展示室

講師：加藤清之氏(陶芸家・瀬戸)

愛知県陶磁美術館  
セラミウム

テーマ展  
「織部を焼こう」の軌跡  
復元古窯による実験焼成の成果

本館 第8 展示室

令和4年4月24日(日) 13:30-15:00  
会場 グラマ展「織部を焼こうの軌跡」会場  
講師 加藤清之氏(陶芸家・瀬戸)

令和4年4月9日(土)ー5月15日(日)  
観覧料 一般:400円 高・大生:300円  
会費員 協のうっわ、その見、こだわりの観覧券でご覧いただけます。

## ② テーマ展「近代陶磁の技と美に迫るⅠ 初代諏訪蘇山 没後百年記念展

### 初代蘇山の遺した石膏型を次代へ」

明治期を代表する製陶家で帝室技芸員にも任命された初代諏訪蘇山の作品、制作に用いた石膏型（デジタル復元プロジェクト成果品、AR含む）、資料を展示し、その技と美の世界を紹介した。

会 期	5月21日（土）－6月26日（日）
開催日数	32日
会 場	本館1階 第8展示室
主 催	愛知県陶磁美術館
共 催	国立大学法人京都工芸繊維大学 KYOTO Design Lab
特別協力	四代諏訪蘇山
協 力	諏訪蘇山研究会
出品件数	73件
担 当	館長 佐藤一信
観覧者数	1,446人



#### 関連行事

- ◇ワークショップ「型起こしワークショップ 蘇山の鯉に挑戦」  
日時：6月4日（土）10:30－11:45  
会場：展示説明室  
参加者数：10人
- ◇記念対談「初代諏訪蘇山の足跡と想いを辿る 諏訪家資料を中心に」  
四代諏訪蘇山氏×佐藤一信（館長）  
日時：6月4日（土）13:30－15:00  
会場：本館地下講堂  
参加者数：51人
- ◇デジタル復元プロセス解説  
講師：井上智博氏（京都工芸繊維大学 KYOTO Design Lab）  
日時：6月4日（土）15:00－15:30  
参加者数：51人
- ◇ギャラリートーク  
日時：6月11日（土）、25日（土） 各日 13:30－14:30  
参加者数合計：22人
- ◇新聞記事  
「九谷焼秘伝の釉薬帳」（中日新聞夕刊 6月21日）

## （4）ロビー展示

### ① 瀬戸・常滑作家コーナー

瀬戸陶芸協会並びに常滑陶芸作家協会の協力のもと、瀬戸・常滑で活躍する地元作家を紹介した。展示作品は、半年毎に全て入れ替えた。

[前期](瀬戸)加藤錦三、棚橋淳、谷口幸二、藤本磨弥  
(常滑)平野祐一、中野敦得、中川貴了、水上勝夫

[後期](瀬戸)梅村知弘、春日井鋼介、加藤令吉、太田公典  
(常滑)水野真澄、水野陽景、水野静仙、村越風月

会 期	4月1日（金）－令和5年3月31日（金）
開館日数	306日
会 場	本館地下1階 講堂前ホール
出品件数	25件
観覧者数	14,661人

## 2 南館展示

### (1) 常設展示

#### 「もっと伝えたい、愛知のやきもの」

当館が所在する愛知県における、陶磁器生産の現在と歴史について展示紹介している。

#### 「愛知のやきもの「今」」 (南館1階展示室)

瀬戸、常滑、高浜周辺、名古屋周辺における各陶産地で作られるやきものの「今」について、「街、人、やきもの」をテーマに紹介。また、展示室中央部分で3回のテーマ展を開催した(11頁参照)。

#### 「愛知のやきもの1万年」 (南館2階展示室)

通史展示部門とトピック展示部門を設置。前者では原始から近世にかけての愛知県の陶磁史を遺跡出土資料や伝世資料によって紹介。後者では、愛知用水関連資料及び古陶磁鑑賞の展示コーナーを設けて紹介した。

※協力：愛知県埋蔵文化財調査センター、  
あいち朝日遺跡ミュージアム、  
公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団  
愛知県埋蔵文化財センター

会 期	4月1日(金)－6月25日(土) 10月19日(水)－令和5年3月31日(金)
開館日数	209日
会 場	南館1階及び2階展示室
出品件数	1階展示室 132件、2階展示室 228件
観覧者数	9,488人



南館1階展示室



南館2階展示室

### (2) テーマ展

#### ① 「瀬戸ノベルティのウイスキーボトルとビアマグコレクション」 (酒のうつわクロニクル)」

企画展「酒のうつわーその美、こだわり…」にちなみ、関連展示<酒のうつわクロニクル>として洋酒の器を展示した。第1章では、1950年代から北米地域に盛んに輸出された瀬戸ノベルティのウイスキーボトルの造形の楽しさを紹介。第2章では世界各地の名窯や各国を代表する陶芸家が伝統的技法やデザインを用いて制作した<キリン・ビアマグコレクション>を紹介した。

会 期	3月29日(火)－6月25日(日)
開館日数	77日
会 場	南館1階展示室 展示室中央
出品件数	46件
担 当	学芸課長 大槻倫子、学芸員 鮫島由佳
観覧者数	1,627人
展示構成	I <アメリカを魅了した陶磁器製ウイスキーボトル> II <世界の名窯によるビアマグ・コレクション>



展示の様子

## ②「瀬戸ノベルティ de フラワーガーデン」

1960年代から1990年代にかけて北米で人気を博した花モチーフの瀬戸ノベルティを紹介。瀬戸ノベルティを使って「天使のローズガーデン」「森の中でお花をつんで」「トロピカル・フラワーガーデン」など様々なシーンを演出展示した。



会 期	10月19日(水)－12月25日(日)
開館日数	59日
会 場	南館1階展示室 展示室中央
出品件数	67件
担 当	学芸課長 大槻倫子、学芸員 鮫島由佳
観覧者数	957人

## ③「名古屋絵付って何？その① 凸盛り&油溶き技法」

かつて海外輸出向けの陶磁器生産の一大拠点があつた名古屋において、瀬戸や美濃製の素地に上絵付けして陶磁器を完成させた<名古屋絵付け>にスポットをあてた。数ある名古屋絵付けの技法の中から、クリーム状の絵の具「台白」を使い浮き文様を描く<凸盛り>と、油で溶いた絵の具で上絵付けをする<油溶き技法>に注目した。



会 期	令和5年1月5日(木)－4月2日(日)
開館日数	76日
会 場	南館1階展示室 展示室中央
出品件数	26件
担 当	学芸課長 大槻倫子、学芸員 鮫島由佳
観覧者数	4,694人
展示構成	I <華やかな浮き文様 凸盛り> II <一筆で描き出すグラデーションー油溶き技法> III <名古屋絵付けの今 凸盛り&油溶き技法>
出品作家	荒川勝巳、杉山ひとみ、安藤栄子

### ◇関連ワークショップ

#### 「春を描く 油溶き技法による上絵付」

「名古屋絵付」の代表的な技法の一つ、「油溶き技法による上絵付」の制作体験を行った。

出展作家である講師とともに展示を観覧し、その魅力と奥深さにも触れた。

日時：令和5年1月15日(日)13:30－16:00

会場：南館ロビー、南館テーマ展示会場

講師：安藤栄子氏(名古屋市/陶磁器上絵付け1級技能士、陶磁器デザイナー)

担当：陶芸指導員 岩瀬 寛、学芸課長 大槻倫子、学芸員 鮫島由佳

参加人数：15名

### 3 館外展示

#### ① 愛知県美術館・愛知県陶磁美術館

##### 令和4年度 移動美術館「もじもえもじも」

例年、愛知県美術館と当館は、県内市町村と連携して館外作品展を開催している。令和4年度は、会場館である西尾市岩瀬文庫が書籍の博物館であることにちなみ、文字や書物をキーワードとして三館が所蔵する絵画・版画、考古資料・工芸、立体造形、古典籍を展示紹介した。

会期	9月17日(土)～11月27日(日)
開館日数	64日
会場	西尾市岩瀬文庫 企画展示室
主催	愛知県美術館、愛知県陶磁美術館、西尾市岩瀬文庫
出品件数	県美術館17件、当館14件、岩瀬文庫14点
当館担当	主任学芸員 小川裕紀、学芸員 鮫島由佳
観覧者数	5,653人



A4 チラシ



子ども向け「やきものガイド」

#### ② サテライト展示「民藝運動とやきもの」

愛知芸術文化センター地下1階フォーラムにおいて、所蔵品によるサテライト展示を行っている。令和4年度は「民藝運動とやきもの」をテーマに作品を紹介した。

会期	4月1日(金)～令和5年3月31日(金)
開館日数	306日
会場	愛知芸術文化センター地下1階
協力	愛知県美術館
出品件数	5件



#### ③ 愛知用水関連資料等特別展示

4月から11月までは昨年度に引き続き折戸38号窯、12月から令和5年3月までは折戸39号窯の出土資料を紹介した。(愛知用水関連資料：愛知用水建設に関連して愛知県教育委員会が昭和30年から37年にかけて調査を行った、用水流域の主要な古窯跡から出土した陶片資料)

会期	4月1日(金)～令和5年3月31日(金)
開館日数	365日
会場	愛知用水総管理所1階中庭西側ホール
主催	愛知県陶磁美術館
協力	独立行政法人水資源機構 愛知用水総管理所
出品件数	折戸38号窯/4件、折戸39号窯/5件



#### 4 共催展示

本館1階第8展示室を、当館主催展示で用いない期間において、ギャラリーとして県民等に貸し出し、陶磁文化及び陶磁器産業の振興に寄与する展覧会を開催する機会を提供している。

令和4年度は以下の展覧会について当館が共催し、当館所蔵資料の出品、陳列補助、教育・普及事業への協力等を行った。

##### ① 令和4年度公益財団法人瀬戸市文化振興財団

##### 企画展「戦時下のせとやきー近代後期の瀬戸窯と美濃窯ー」

会期	11月5日(土)ー12月18日(日)	
開催日数	38日	
会場	本館1階ギャラリー(第8展示室)	
主催	公益財団法人 瀬戸市文化振興財団	
共催	愛知県陶磁美術館	
展示点数	536件	
歴史講演会	「陶磁器産業から陶芸へ」12月21日(日) 立花 昭氏(岐阜県現代陶芸美術館)	参加者数:40人
展示説明会	12月11日(日) 岡本直久氏(公益財団法人瀬戸市文化振興財団)	参加者数:10人
入場者数	1,316人	

##### ② 日本工芸会東海支部「東海伝統工芸の今ー第53回東海伝統工芸展よりー」

会期	令和5年1月17日(火)ー1月22日(日)	
開催日数	6日	
会場	本館1階ギャラリー(第8展示室)	
主催	公益社団法人日本工芸会東海支部	
共催	愛知県陶磁美術館	
展示点数	70件	
出品作家によるギャラリートーク	1月21日(土) 聞き手:入澤聖明(学芸員)	参加者数:7人
	1月22日(日) 聞き手:伊藤嘉章(総長)	参加者数:21人
入場者数	369人	



広報用バナー



ギャラリートークの様子

## 5 所蔵資料

資料の収集については、資料委員会開催要領及び収集方針に基づき、資料委員による協議を経て実施している。資料情報については、クラウド型収蔵品管理システム「I. B. MUSEUM SaaS」を用いて管理を行っている。※サイズは cm 表記

### (1) 資料収集

#### ① 購入資料 (7件)

青磁陽刻霊芝文荒磯盃洗はじめ計7件を美術品等取得基金により購入した。



1 青磁陽刻霊芝文荒磯盃洗  
三田焼または王地山焼 1点  
高 15.2 口径 21.8×27.0  
底径 15.2  
江戸時代後期(19世紀)  
A-7402



2 青磁魚文茶詩線彫器  
初代尾形周平 1点  
高 15.2 口径 21.8×27.0  
底径 15.2  
文政6(1823)年  
A-7403



3 ツチ・ビト―輪―  
横田典子 1点  
高 155.0 幅 95.0 奥行 45.0  
令和3(2021)年  
A-7404



4 染付鉢「酔芙蓉」  
小形こず恵 1点  
高 20.7 口径 39.0 底径 9.8  
令和3(2021)年  
A-7405



5 春霞  
水野教雄 1点  
高 52.1 幅 44.3  
令和3(2021)年  
A-7406



6 交差するかたち  
長江重和 1点  
高 61.4 幅 45.0  
平成30(2018)年  
A-7407



7 共鳴するかたち  
長江重和 1点  
高 63.5 幅 46.0  
令和2(2020)年  
A-7408

② 寄附資料（6件）



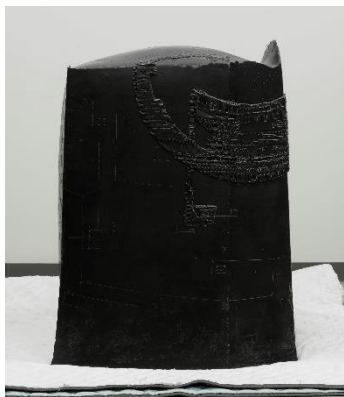
1 色絵金彩花文デミタスカップ&ソーサー  
日本陶器株式会社 6客  
カップ：口径6.3 高5.7 底径3.9 幅8.0  
ソーサー：口径12.1 高1.9 底径7.4  
昭和6(1931)～昭和16(1941)年  
野村維男氏寄贈  
A-7397



2 幼児用小便器 (U-401R)  
崔宰熏/株式会社 LIXIL 1点  
高54.5 幅31.5 奥行29.0  
平成22(2010)年から生産  
崔宰熏氏寄贈  
A-7398



3 多目的流し (S-17)  
崔宰熏/株式会社 LIXIL 1点  
高28.0 幅44.0 奥行40.0  
平成11(1999)年から生産  
崔宰熏氏寄贈  
A-7399



4 甲  
亀井勝 1点  
高82.8 幅62.5 奥行45.6  
昭和48(1973)年  
内山けい子氏寄贈  
A-7400



5 無題  
亀井勝 1点  
縦36.0 横30.0 厚3.5  
昭和48(1973)年頃  
山内けい子氏寄贈  
A-7401



6-1 ノベルティデザイン画 56点  
(花、昆虫、魚)のうち  
アサガオ  
光和陶器株式会社  
縦27.0 横38.0  
昭和60(1985)年  
川原春子氏寄贈  
E-0070-1



6-3 ノベルティデザイン画  
56点(花、昆虫、魚)の  
うちアジサイと蝶  
光和陶器株式会社  
縦29.2 横19.6  
昭和46(1971)年  
川原春子氏寄贈  
E-0070-3



6-5 ノベルティデザイン画  
56点(花、昆虫、魚)の  
うちカトレア  
光和陶器株式会社  
縦38.0 横26.9  
平成2(1990)年  
川原春子氏寄贈  
E-0070-5



6-11 ノベルティデザイン画  
56点(花、昆虫、魚)の  
うちクレマチスとジャノ  
メチョウ  
光和陶器株式会社  
縦29.7 横21.1  
制作年不明  
川原春子氏寄贈  
E-0070-11



6-13 ノベルティデザイン画  
56点(花、昆虫、魚)の  
うちゴクラクチョウカ  
光和陶器株式会社  
縦37.4 横27.0  
昭和59(1984)年  
川原春子氏寄贈  
E-0070-13



6-19 ノベルティデザイン画  
56点(花、昆虫、魚)の  
うちチューリップとスズ  
ラン  
光和陶器株式会社  
縦25.1 横34.0  
昭和60(1985)年  
川原春子氏寄贈  
E-0070-19



6-21 ノベルティデザイン画  
56点(花、昆虫、魚)の  
うちデンドロビウム  
光和陶器株式会社  
縦38.0 横26.8  
平成2(1990)年  
川原春子氏寄贈  
E-0070



6-22 ノベルティデザイン画  
56点(花、昆虫、魚)の  
うちハイビスカスとチョウ  
光和陶器株式会社  
縦38.0 横26.9  
平成2(1990)年  
川原春子氏寄贈  
E-0070-22



6-36 ノベルティデザイン画  
56点(花、昆虫、魚)の  
うちドイツアヤメ、アヤ  
メとメイフラワー  
光和陶器株式会社  
縦24.9 横34.0  
制作年不詳  
川原春子氏寄贈  
E-0070-36



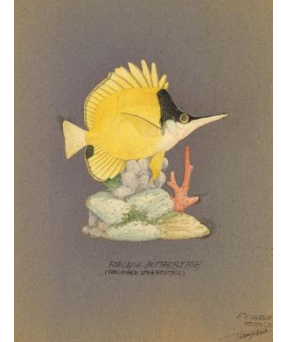
6-38 ノベルティデザイン画  
56点(花、昆虫、魚)の  
うちバラやチューリップ  
などのブーケ  
光和陶器株式会社  
縦35.3 横24.9  
1960-70年代  
川原春子氏寄贈  
E-0070-38



6-44 ノベルティデザイン画  
56点(花、昆虫、魚)の  
うちチョウと花  
光和陶器株式会社  
縦19.1 横13.7  
昭和56(1981)年  
川原春子氏寄贈  
E-0070-44



6-50 ノベルティデザイン画  
56点(花、昆虫、魚)の  
うちゴマダラカミキリ  
光和陶器株式会社  
縦27.1 横19.1  
平成3(1991)年  
川原春子氏寄贈  
E-0070-50



6-51 ノベルティデザイン画  
56点(花、昆虫、魚)の  
うちチョウチョウウオと  
珊瑚 海藻  
光和陶器株式会社  
縦30.1 横22.8  
昭和55(1980)年  
川原春子氏寄贈  
E-0070-51



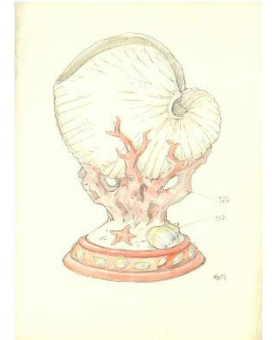
6-53 ノベルティデザイン画  
56点(花、昆虫、魚)の  
うちエンゼルフィッシュ  
2匹と海藻  
光和陶器株式会社  
縦38.2 横26.9  
昭和55(1980)年  
川原春子氏寄贈  
E-0070-53



6-54 ノベルティデザイン画  
56点(花、昆虫、魚)の  
うちムナジロハギ(パウダ  
ーブルークロハギ)  
光和陶器株式会社  
縦38.3 横27.0  
昭和55(1980)年  
川原春子氏寄贈  
E-0070-54



6-55 ノベルティデザイン画  
56点(花、昆虫、魚)の  
うち錦鯉  
光和陶器株式会社  
縦40.0 横29.7  
平成4(1992)年  
川原春子氏寄贈  
E-0070-55



6-56 ノベルティデザイン画  
56点(花、昆虫、魚)の  
うちマキガイとサンゴ  
光和陶器株式会社  
縦38.2 横27.1  
年代不詳  
川原春子氏寄贈  
E-0070-56

### ③ 資料収集状況及び計画

(令和5年3月31日現在)

区 分	既収集資料点数			収 集 計 画	
	総点数	購入点数	受贈点数		
日 本 陶 磁	縄 文 時 代	63	49	14	縄文時代6期の各期の特徴的な資料及び造形的に優れた名品。
	弥 生 時 代	25	20	5	弥生時代前期・中期・後期を代表する資料及びパレススタイルの土器群。
	古 墳 時 代	100	78	22	土師器・埴輪及び須恵器。
	奈 良 時 代	102	67	35	土師器・須恵器・奈良三彩及び瓦。
	平安時代前期～後期	86	36	50	猿投窯をはじめとする各地の須恵器・青瓷・白瓷。
	平安時代末期～ 鎌倉・室町時代	513	283	230	渥美・常滑・瀬戸・珠洲・越前・信楽・丹波・備前等の中世窯製品。
	桃 山 時 代	120	80	40	瀬戸黒・黄瀬戸・志野・織部・伊賀・備前・唐津等の茶陶類。
	江 戸 時 代	1,169	384	785	瀬戸・美濃・常滑・萬古や名古屋等の東海地方の諸窯。有田等の肥前陶磁、仁清・乾山等の京焼をはじめとする日本各地の製品。
	近 現 代 陶 磁	1,404	126	1,278	近代陶芸の基礎を築いた明治期の名工たちの作品。現代陶芸作家の作品及び著名公募展優秀作品。
	近現代産業陶磁	1,369	131	1,238	明治期の輸出陶磁器類及び窯業の近代化を物語る資料。ファインセラミックス及び現代陶磁器産業の製品。
	小 計	4,951	1,254	3,697	
外 国 陶 磁	中 国 陶 磁	880	62	818	日本の陶磁器の源流である中国・朝鮮半島の陶磁器及び世界各地の資料。
	韓国・東南アジア陶磁	287	53	234	
	中 近 東 陶 磁	196	19	177	
	ヨーロッパ陶磁	93	6	87	
	その他の外国陶磁	759	0	759	
	近 現 代 陶 磁	68	41	27	
	近現代産業陶磁	166	48	118	
	小 計	2,449	229	2,220	
関 連 資 料	910	12	898	ガラス・七宝などの窯業製品及び制作工程の資料や民俗資料。	
合 計	8,310	1,495	6,815		
内令和4年度収集資料点数	13	7	6	内所蔵陶磁資料・学芸課管理番号 A-7202～A-7396	

※「鎌倉・室町時代」の受贈点数には、国から譲渡された埋蔵文化財50点を含む。

※「近現代陶磁」及び「近現代産業陶磁」の受領点数には、本県会計局(前出納事務局)から区分替えされた資料8点を含む。

※近現代陶磁の受贈点数は、貸出中における亡失(平成17年3月)のため、1点少なくなっている。

#### ④ 所蔵指定文化財

指定区分/種別	指定名称	員数	指定年月日	収集区分/年度
国・重要文化財/工芸品	猿投灰釉多口瓶	1口	S50(1975).6.12	寄贈 H5(1993)年度
国・重要文化財/工芸品	渥美灰釉芦鷺文三耳壺	1口	S51(1976).6.5	寄贈 S54(1979)年度
国・重要文化財/工芸品	陶製五輪塔	1基	H7(1995).6.15	購入 H3(1991)年度
国・重要美術品/工芸品 愛知県指定文化財/工芸品	鉄釉巴文瓶子	1口	S10(1935).5.10 S59(1984).2.27	購入 S53(1978)年度
愛知県指定文化財/工芸品	陶製牡丹文経筒外容器	1口	S59(1984).2.27	購入 S49(1974)年度
愛知県指定文化財/工芸品	猿投灰釉短頸壺	1口	S59(1984).2.27	購入 S53(1978)年度
愛知県指定文化財/考古資料	猿投灰釉短頸壺及び平瓶	各1口	S59(1984).2.27	寄贈 S56(1981)年度
愛知県指定文化財/有形民俗文化財	陶製狛犬コレクション	210 躯	S59(1984).3.30	寄贈・購入 S51(1976)年度 他
愛知県指定文化財/工芸品	猿投灰釉手付長頸瓶	1口	R3(2021).8.6	寄贈 H31(2019)年度
愛知県指定文化財/工芸品	猿投灰釉長頸瓶	1口	R3(2021).8.6	購入 H20(2008)年度

#### ⑤ 愛知用水関連資料および南山8-9号窯資料

資料名称	内 訳	数 量	概 要
愛知用水関連資料 一括	完形資料	118件119点	昭和30年から37年にかけて、愛知用水建設に関連して、愛知県教育委員会が名古屋大学に委託して発掘調査を行った古窯跡の出土文化財
	重要陶片資料	33件190点	
	一般陶片資料	99件5,455箱	
南山8・9号窯資料 一括	重要陶片資料	134点	平成3年に、当館大駐車場の造成工事に関連して、当館が発掘調査を行った古窯跡の出土文化財
	一般陶片資料	257箱	

#### ⑥ 文化財指定等

当館の下記資料が、11月29日付け「重要考古資料に関する懇談会」（事務局：文化庁文化財第一課）において、緊急に整理、保存処置を講じなければならない「重要考古資料」として選定された。

- ・「愛知用水関連資料」のうち、猿投山西南麓古窯跡群（猿投窯）の出土資料

特に「初期檜崎編年」における標式窯資料

（愛知用水関連資料：愛知用水建設に関連して愛知県教育委員会が昭和30年から37年にかけて調査を行った、用水流域の主要な古窯跡から出土した陶片資料）

(2) 資料活用

① 所蔵資料の貸出

No.	貸出期間	資料名称	備品 No	点数	借用者	展覧会等の名称 ／会場
1	R4. 3. 30－ R5. 3. 31	灰釉平碗	A-1529	計 8 件	愛知県 政策企画局	愛知県知事公館 内で展示
2		染付孔雀牡丹文鉢	A-0974			
3		紅白梅茶碗	A-0031			
4		志野平水指	A-2728			
5		双耳瓶子	A-1526			
6		織部写茶碗	A-0828			
7		赤絵帆船図皿	A-2519			
8		志野鶴の絵茶碗	A-0015			
9	R4. 3. 15－ R5. 3. 31	天目茶碗	A-1767	計 7 件	愛知県 議会事務局	愛知県議長室内 で展示
10		御深井陰刻牡丹唐草文 角形香炉	A-1351			
11		赤絵魚藻文鉢	A-2537			
12		染付丸文牛図火入	A-3465			
13		絵志野平茶碗	A-0005			
14		黄瀬戸茶碗	A-0019			
15		朱泥茶注	A-5435			
16	R4. 3. 13－ R5. 3. 31	天目茶碗	愛知用水 関連資料	計 27 件	瀬戸市	常設展 「瀬戸焼の歩 み」 瀬戸蔵ミュージ アム
17		平底末広碗				
18		折縁小皿				
19		底卸目皿				
20		折縁深皿				
21		袴腰香炉				
22		筒型香炉				
23		柄付片口				
24		仏供				
25		長頸水注				
26		片口水瓶				
27		四耳壺				
28		梅瓶				
29		杯 B (有高台)				
30		はそう				
31		はそう				
32		平瓶				
33		椀				
34		小型椀				
35		深椀				
36		皿				
37		折縁皿				
38		長頸瓶				
39		広口瓶				
40		高杯				
41		大型壺				
42		片口鉢				
43	R4. 3. 31－ R5. 3. 31	青瓷素地 椀蓋	愛知用水 関連資料	計 12 件	みよし市歴史民 俗資料館	常設展「みよしの 古窯」
44		青瓷素地 大椀				
45		青瓷素地 中椀				
46		青瓷素地 皿				

No.	貸出期間	資料名称	備品 No	点数	借用者	展覧会等の名称 ／会場
47	(前頁から続き)	青瓷素地 皿				
48		青瓷素地 輪花広縁段 皿				
49		青瓷素地 高盤				
50		青瓷素地 手付瓶				
51		青瓷素地 四足壺				
52		青瓷素地 大型突帯鉢				
53		青瓷素地 陶枕				
54		白瓷 大椀				
55	R4. 5. 28－ R5. 3. 31	鈴木貴洋「昔のでんわ」		計 1 件	愛知県 政策企画局	愛知県知事公館 内で展示
56	R4. 6. 25－11. 2	鯉江良二 「チェルノブイリ・シ リーズ」	A-2411	計 9 件	国際芸術祭 「あいち 2022」 組織委員会	国際芸術祭「あい ち 2022」／ INAX ライブミュ ージアム窯のあ る広場・資料館
57	R4. 9. 5－12. 28	灰釉四耳短頸壺	A-1651	計 10 件	備前市立備前焼 ミュージアム	企画展「逞しの 壺、美しの壺」
58		三筋壺	A-1013			
59		灰釉四耳壺	A-1520			
60		灰釉牡丹文瓶子	A-1572			
61		鉄釉巴文瓶子	A-0889			
62		仏像鈕蓋付経筒外容器	A-1333			
63		樹文三耳壺	A-0002			
64		檜垣文壺	A-1338			
65		櫛目文瓶子	A-2215			
66		櫛目文壺	A-1565			
67	R4. 8. 30－12. 26	青磁象嵌雲鶴文鉢	Y-0399- 119	計 17 件	滋賀県立陶芸の 森	特別展「静中動： 韓国のスピリッ トをたどるー開 かれた陶のアー ト」
68		青磁象嵌瓢形水注・ 承盤	Y-0399- 97			
69		青磁半陽子刻蓮花文長 頸瓶	Y-0399- 116			
70		青磁象嵌雲鶴文梅瓶	Y-0455 -864			
71		青磁象嵌蒲柳水禽文鉢	Y-0455 -857			
72		硬質陶器瓜形梅瓶	A-2783			
73		欲望	A-3860			
74		鉄沙龍文壺	A-4127			
75		粉青刷毛目碗	A-4132			
76		鉄沙桶 一対	A-4154			
77		白磁瓶	A-4196			
78		白磁盒	A-4213			
79		粉青粉引碗	A-4253			
80		白磁桶	A-4261			
81		無題	A-4415			
82		粉青沙器粉引盃	A-4929			
83		白磁盃	A-4933			
84	R4. 9. 22－12. 6	菊花文三耳壺	Y-0528	計 3 件	兵庫県立考古博 物館	特別展「丹波焼誕 生-はじまりの謎 を探る-」
85		灰釉芦鷺文三耳壺	A-1094			
86		灰釉蓮弁文壺	A-1203			

No.	貸出期間	資料名称	備品 No	点数	借用者	展覧会等の名称 ／会場
87	R4. 11. 1－12. 19	トチ押え	A-0798	計 22 件	(公財)瀬戸市文 化振興財団	瀬戸市文化振興 財団企画展 「戦時下のせと やき」/ 愛知県陶磁美術 館 ギャラリー
88		磁製轆轤	A-1434			
89		磁製トチ押え	A-2050			
90		ノベルティ 「子供人形」	A-3343			
91		白磁画付花瓶	A-5708			
92		風景画砂糖入	A-5712			
93		白磁金蝕ティーセット	A-5707			
94		白磁角形額皿	A-5709			
95		白磁スープ皿	A-5710			
96		白磁パン皿	A-5711			
97		スープ皿	A-5112- 1			
98		デミカップ	A-5112- 4			
99		デミソーサー	A-5112- 5			
100		デミポット	A-5112- 7			
101		バター入れ	A-5112- 8			
102		パン皿	A-5112- 9			
103		塩入れ	A-5112- 12			
104		果物皿	A-5112- 13			
105		菓子皿 (小)	A-5112- 14			
106		菓子皿 (大)	A-5112- 15			
107	紅茶 6 人具 (ティー皿)	A-5112- 18				
108	紅茶 6 人具 (ティー碗)	A-5112- 20				
109	R4. 11. 25－ R5. 3. 8	エッグセット	Y-0455- 121	計 21 件	瀬戸市	企画展「白雲陶器 —純白軽量なる 新陶器—」/ 瀬戸蔵ミュージ アム
110		インクスタンド	Y-0455- 180			
111		鹿装飾燭台	Y-0455- 191			
112		白雲陶器皿・各種	Y-0455- 989			
113		ケーキ皿	Y-0455- 1049			
114		パン皿	Y-0455- 1055			
115		パン皿	Y-0455- 1064			
116		果物セット	Y-455- 1178			
117		染付デスクセット	Y-0455- 1576			

No.	貸出期間	資料名称	備品 No	点数	借用者	展覧会等の名称 ／会場
118	(前頁から続き)	燭台	Y-0455-1677			
119		白雲陶器ランプスタンド	Y-0455-1934			
120		燭台付花器	Y-0455-2065			
121		煙草入	Y-0455-2209			
122		灰皿	Y-0455-2215			
123		白雲陶器鷺灰皿	Y-0455-2222			
124		灰皿	Y-0455-2233			
125		更紗模様菓子器	Y-0455-2260			
126		白雲陶器菓子器	Y-0455-2265			
127		白雲陶器灰皿	Y-0455-2272			
128		白雲陶器塔形煙草入	Y-0455-2332			
129		白雲陶器灰皿	Y-0455-2335			
130	R5. 1. 17－ R7. 3. 31	色絵草子の筥	A-1649	計 7 件	(公財)菊池美術 財団 菊池寛実記 念 智美術館	「河本五郎 反骨 の陶芸」展
131		色絵龍文花器	A-1700			
132		藍亭幻相器	A-1701			
133		染付歌垣祝瓶	A-1702			
134		陶壺	A-4645			
135		魚紋陶盤	A-5194			
136		白磁桶－三島由紀夫自 決の時－	A-5195			
137	R5. 2. 18－6. 18	菊花文三耳壺	Y-0528	計 1 件	兵庫陶芸美術館 丹波新聞社	テーマ展「丹波焼 の世界 season7」
138	R5. 3. 23－6. 25	陶七宝大壺	A-1093	計 6 件	愛知県美術館、 メ～テレ	企画展「明治の視 覚表象」
139		磁胎七宝花蝶文長頸瓶	A-2445			
140		虎置物	A-2250			
141		陽刻上絵金彩花鳥図花瓶	A-2485			
142		染付ティーセット	A-0750			
143		白磁彫刻画花瓶	A-5205			

※寄託資料等、当館保管資料を含む。

② 所蔵資料の写真撮影等

No.	掲載等 年月日	資料名称	備品 No	利用 方法	点数	申請者／ 掲載者	掲載誌等の 名称
1	R5. 3. 31	七曲窯跡出土 播座茶入	A-2660	掲載	計 1 件	内田昌太郎 (筑波大学 大学院)	瀬戸市埋蔵文化財センター 『穴山窯跡発掘調査報告書』
2		孫右衛門窯跡出土 播座茶入	愛知用水関連 資料		計 2 件		
3		七曲窯跡出土播 座茶入	A-2660	掲載	計 1 件	内田昌太郎 (筑波大学 大学院)	茶の湯文化学会 『茶の湯文化学』
4		孫右衛門窯跡出土 播座茶入	愛知用水関連 資料		計 2 件		
5	R5. 3. 15	猿投窯 東山 50 号窯跡出土	愛知用水関連 資料	実測 撮影	計 1 件	足達悠紀 (九州大学 大学院)	
6	R5. 3. 8 撮影	尾北窯 篠岡 2 号窯 跡出土 (当館保管)		撮影 掲載	計 3 件	酒井清治 (駒澤大学 名誉教授)	論文「府中市 出土の土管」 (仮称)
7		猿投窯 岩崎 77 号窯 跡出土 (当館保管)					
8		猿投窯 岩崎 41 号窯 跡出土 (愛知用水関 連資料)	愛知用水関連 資料				
9	R5. 3 月－ R6. 3. 31	IG-67 号窯 出土資 料 (当館保管)		撮影 掲載	計 2 件	刈谷市歴史 博物館	企画展「井ヶ 谷古窯展—い にしへの刈谷 のものづくり —」に関する 解説広報印刷 物
10		IG-78 号窯 出土資 料 (当館保管)					
11	R5. 3. 21 放映	禁煙の名人	A-6913	放映	計 1 件	(株)ネクサ ス	テレビ東京 「開運！なん でも鑑定団」
12	R5. 3. 20 発行	鬼桶水指	A-0248	掲載	計 1 件	(公財)出光 美術館	『出光美術館 館報』
13	R5. 2 月下旬	縄文土器 深鉢	A-2214	掲載	計 8 件	(株)メトロ ポリタンブ レス	『必携茶の湯 やきものハン ドブック』 (2010 年里 文出版刊行) の新装改訂版
14		弥生土器 壺	A-2023				
15		須恵器 平瓶	A-1869				
16		常滑 小甕	A-1770				
17		瀬戸 天目茶碗	A-1763				
18		伊賀 花入	A-1771				
19		志野山水文鉢	A-1846				
20		織部香合	A-2468				
21	R4. 11. 15 掲載	重要文化財 五輪塔形経筒外容器	A-2241	掲載	計 11 件	(株)目の 眼	『目の眼』 令和4年12月 号
22		大甕	A-0401				
23		重要文化財 灰釉芦鷺文三耳壺	A-1094				
24		陶片	A-1236				

No.	掲載等 年月日	資料名称	備品 No	利用 方法	点数	申請者／ 掲載者	掲載誌等の 名称
25	(前頁から続き)	短頸壺	A-1235				
26		三筋壺	A-1013				
27		瓶子	A-1523				
28		甕	A-1737				
29		三口大平鉢	A-1081				
30		片口鉢	A-1326				
31		灰釉袈裟襷文三耳壺	A-2254				
32	R4. 12. 4 掲載	須恵器 蓋	愛知用水関連 資料  全て猿投井ヶ 谷 67 号窯跡出 土資料	撮影 掲載	計 46 件	刈谷市歴史 博物館	考古学フォー ラム 2022 (そ の 2)「古代猿 投窯における 井ヶ谷古窯址 群を考える」 資料集
33		須恵器 蓋					
34		須恵器 蓋					
35		須恵器 蓋					
36		須恵器 蓋					
37		須恵器 無台杯					
38		須恵器 無台椀					
39		須恵器 無台椀					
40		須恵器 無台椀					
41		須恵器 無台椀					
42		須恵器 有台杯					
43		須恵器 有台杯					
44		須恵器 有台杯					
45		須恵器 有台盤					
46		須恵器 高盤					
47		須恵器 短頸鉢					
48		須恵器 短頸鉢					
49		須恵器 鉄鉢					
50		須恵器 ハソウ					
51		須恵器 大型浅鉢					
52		須恵器 すり鉢					
53		須恵器 長頸瓶					
54		須恵器 壺蓋					
55		須恵器 壺蓋					
56		須恵器 壺蓋					
57		須恵器 短頸壺					
58		須恵器 短頸壺					
59		須恵器 把手付鍋					
60		須恵器 甕					
61		須恵器 甕					
62		須恵器 甌					
63		須恵器 獣足					
64	須恵器 円面硯						
65	須恵器 窯道具						
66	須恵器 瓦塔						
67	須恵器 瓦塔						
68	灰釉陶器 椀						
69	灰釉陶器 椀						
70	灰釉陶器 段皿						
71	灰釉陶器 水瓶						
72	灰釉陶器 長頸瓶						

No.	掲載等 年月日	資料名称	備品 No	利用 方法	点数	申請者／ 掲載者	掲載誌等の 名称
73	(前頁から続き)	灰釉陶器 長頸瓶					
74		灰釉陶器 長頸瓶					
75		灰釉陶器 短頸壺					
76		灰釉陶器 瓶					
77		灰釉陶器 平瓶					
78	R4. 7. 31 掲載	甕	A-1737	撮影 掲載	計 13 件	中世土器研 究会	中世土器研究 会編『新版 概説中世の土 器・陶磁器』 (真陽社刊) 巻頭図版
79		甕	A-0233				
80		小甕	A-1230				
81		三筋壺	A-1013				
82		灰釉蓮弁文壺	A-1440				
83		短頸壺	A-1235				
84		灰釉瓶子	A-0690				
85		灰釉四耳壺	A-1520				
86		片口鉢	A-1657				
87		灰釉四足盤	A-1406				
88		灰釉平碗	A-1529				
89		天目茶碗	A-1418				
90		鉄釉印花文三足香炉	A-2661				
91	R4. 6. 14 撮影	孫右衛門窯跡出土資 料 一括	愛知用水関 連資料	実見 撮影	計 1 件	内田昌太郎 (筑波大学 大学院)	論文執筆のため
92	R4. 12 月撮影 R5. 1. 6 掲載	黒笹 13 号窯出土 緑釉素地・灰釉陶器	愛知用水関 連資料	撮影 計測 掲載	計 5 件	谷津愛奈 (東北大学 大学院)	「多賀城跡の 施釉陶器を通 して陸奥国と 他地域の検 討」(仮称)
93		黒笹 14 号窯出土 緑釉素地・灰釉陶器					
94		黒笹 15 号窯出土緑釉 素地・灰釉陶器					
95		黒笹 90 号窯出土 緑釉素地・灰釉陶器					
96		篠岡 5 号窯出土 緑釉陶器・素地					
97	R5. 1. 8-3. 26 掲示	灰釉手付瓶	A-1328	掲示	計 1 件	名取市歴史 民俗資料館	企画展「令和 3 年度発掘調 査報告展」
98	R5. 1. 30 発行	琴を弾く男子	A-2315	掲載	計 1 件	(株)育鵬社	(株)育鵬社 出版『聖徳太 子は暗殺され た』
99	R4. 12. 6 放映	櫛目文瓶子	A-2215	放映	計 1 件	(株)ネクサ ス	テレビ東京 「開運！なん でも鑑定団」
100	R4. 10. 11 放映	伊賀「花入」 16 世紀 桃山時代	A-1771	放映	計 1 件	(株)ネクサ ス	テレビ東京 「開運！なん でも鑑定団」
101	R4. 11. 1 放映	志野山水文鉢	A-1846	放映	計 2 件	(株)ネクサ ス	テレビ東京 「開運！なん でも鑑定団」
102		黒織部茶碗	A-2827				
103	R4. 10 月下旬 発行	色絵秋草文瓶	A-1631	掲載	計 8 件	編集室 青 人社	(株)パイ イ ンターナショ ナル『日本の 家紋とデザイ ン』
104		木具写紅葉蒔絵平棗	A-2484				
105		色絵・染付棕櫚葉文皿	A-2318				
106		色絵金彩花蝶文瓢形 徳利	A-1746				
107		染付兎図手桶水指	A-1698				

No.	掲載等 年月日	資料名称	備品 No	利用 方法	点数	申請者/ 掲載者	掲載誌等の 名称
108	(前頁から続き)	色絵龍虎図輪花皿	A-2242				
109		染付扇窓絵重箱	A-3475				
110		色絵金銀菱繫文茶碗	A-2678				
111	R4. 10. 1 掲載	猿投「灰釉多口瓶」	A-2287	掲載	計 1 件	(株)おかし ん総研	岡崎信用金庫 「経済月報」 10月号「猿投 窯」コラム
112	R4. 9. 16 掲載	鯉江良二 「NO CERNOBYL」	A-3923	掲載	計 2 件	中日新聞社	中日新聞連載 記事「美のあ りか」特別版
113		鯉江良二「チェルノブ イリ・シリーズ」	A-2411				
114	R4. 9. 30 掲載	黒織部茶碗	A-2827	掲載	計 1 件	(株)かみゆ	中央公論新社 『人物日本史』(仮)上巻
115	R4. 9. 13 放映	マイセン 「梅樹竹虎図大皿」	A-2260	放映	計 1 件	(株)ネクサ ス	テレビ東京 「開運!なん でも鑑定団」
116	R4. 8. 31 発行	猿投「灰釉多口瓶」	A-2287	掲載	計 1 件	(株)エイジ ヤ	(株)JTB パプ リッシング 『愛知の教科 書』
117	R4. 8 月上旬 掲載	猿投「灰釉短頸壺」	A-0888	掲載	計 3 件	(株)スタル カ	芸術新聞社 『陶芸の美』
118		猿投「灰釉多口瓶」	A-2287				
119		備前「楡目文壺」	A-1565				
120	R4. 7 月撮影 R4. 10 月掲載	丹波「菊花文三耳壺」	Y-0528	撮影 掲載	計 3 件	兵庫県立考 古博物館	兵庫県立考古 博物館特別展 「丹波焼誕生 —はじまりの 謎を探る—」 教育・普及・広 報印刷物
121		渥美「灰釉芦鷺文三耳 壺」	A-1094				
122		渥美「灰釉蓮弁文壺」	A-1203				
123	R4. 6. 25 撮影	青釉蛭手腕	A-3240	撮影 掲載	計 5 件	チョウブン セイ (愛知県立 芸術大学大 学院)	博士論文「蛭 手についての 研究のための 調査(仮称)」
124	R5. 3. 31 掲載	青釉透彫列点文鉢	A-2105				
125		白釉透彫列点文鉢	A-2123				
126		白釉藍彩透彫列点文 鉢	A-2119				
127		白釉透彫列点文鉢	A-2122				
128	R4. 12. 1 掲載	灰陶井戸	A-4322	掲載	計 1 件	喜多藍 (青山学院 大学)	『武氏祠画像 石拓本—古代 中国の祥瑞と 説話—(仮)展 図録』
129	R4. 6. 19 — 8. 28	縄文土器 円筒深鉢	A-1222	掲載	計 1 件	沼畑優	「国宝・縄文 レプリカ展」
130	R4. 5. 30 撮影	緑褐釉爐	A-4331	撮影 放映	計 7 件	(株)ドキュ メンタリー ジャパン	NHK E テレ 「キュレータ ーバトル」
131	R4. 7. 17 放映	緑釉爐	A-4332				
132		灰陶猪圈	A-4307				
133		緑釉作坊	A-4305				
134		緑釉作坊	A-4306				
135		灰陶井戸	A-4322				
136		玉蟬	H-0039				

No.	掲載等 年月日	資料名称	備品 No	利用 方法	点数	申請者／ 掲載者	掲載誌等の 名称
137	R4. 6. 1 掲載	信楽「鬼桶水指」	A-0248	掲載	計 3 件	畑中英二 (京都市立 芸術大学教 授)	『京都市立芸 術大学美術学 部総合芸術学 科畑中研究室 調査研究報告 6』
138		信楽「鬼桶水指」	A-2384				
139		信楽「耳付水指」	A-4734				
140	R4. 4. 23 掲載	白磁俵形壺	A-4239	掲載	計 9 件	豊橋市中央 図書館	令和 4 年度 「司文庫展」 展示掲載
141		青磁貼花蓮花香炉	A-2672				
142		色絵木葉文深鉢	A-1007				
143		染錦間垣花籠文大皿	A-0208				
144		染付祥瑞写山水文八 角火入	A-0753				
145		朱泥茶銚	A-2621				
146		マイセン 「ブルーオニオンテ ーブルセット」	A-1502				
147		ウエッジウッド 「ジャスパーウエア ティーセット」	A-1758				
148		ロイヤル・コペンハ ーゲン「クーリング サーバー<アイス・ ドーム>」	A-5703				
149	R4. 4. 15 掲載	染付山水図大花瓶	A-0124	掲載	計 1 件	名古屋市科 学館	「学芸員 now」コーナ ー掲載
150	R4. 5. 1 掲載	壺	A-1671	掲載	計 10 件	(株)誠文堂 新光社	陶工房 BOOKS 『やきもの基 本用語辞典』
151		鉄絵葦文向付	A-1413				
152		色絵金銀菱繫文茶碗	A-2678				
153		染付楼閣山水図徳利	A-0163				
154		金襴手文房具図花生	A-0331				
155		壺	A-1548				
156		染付山水図大花瓶	A-0124				
157		壺	A-0410				
158		三筋壺	A-1013				
159		織部角向付	A-1573				

※寄託資料等、当館保管資料を含む。

## 6 調査・研究

当館の活動の基礎となる収集、展示、教育・普及等に関する調査・研究を行った。

### (1) 研究紀要

『愛知県陶磁美術館 研究紀要 27』を当館公式 WEB ページ上で刊行した。

論文名	掲載頁	学芸員
愛知県下の窯業遺跡出土資料に関する基礎的調査報告VI —猿投窯井ヶ谷地区・東山地区出土資料の考古学的調査	1-20 頁	大西 遼 河野あすか(刈谷市歴史博物館)
資料紹介 大島国康「陶磁水滴コレクション」	21-157 頁	小川裕紀

### (2) 研究論文等

論文名等	掲載物	発行	学芸員
「初代諏訪蘇山展開催に際して—石膏型・新史料紹介—」	『陶説』第 828 号	日本陶磁協会 R4. 5 月	佐 藤
「土と紡ぐ物語」	『中部美術縁起』	馬場俊吉編 名古屋画廊発行 R4. 6. 13	佐 藤
「初代諏訪蘇山の陶磁制作について 置物、石膏型、釉下彩、青磁を中心に」	展覧会図録『没後百年 初代諏訪蘇山』	石川県九谷焼美術館 R4. 9. 3	佐 藤
・コラム 「アーツ・アンド・クラフツのタイル」 ・作品解説 ウィリアム・ド・モーガン 「バラと格子」など3点	展覧会図録『アーツ・アンド・クラフツとデザイン ウィリアム・モリスからフランク・ロイド・ライトまで』	「アーツ・アンド・クラフツとデザイン ウィリアム・モリスからフランク・ロイド・ライトまで」カタログ制作委員会	大 槻
特別展「アーツ・アンド・クラフツとデザイン ウィリアム・モリスからフランク・ロイド・ライトまで」	『JAPPI NEWSLETTER』No.285	日本陶磁器産業振興協会 R5. 2. 1	大 槻
(共編著) 「文字も絵も磁も」	展覧会図録『移動美術館 2022 もじもえもじも』	西尾市岩瀬文庫 R4. 9. 17	小 川
「平安時代における中国陶磁 —「茶碗」「花」と越州窯青磁—」	展覧会図録『平安のやきもの—その姿、うつろいゆく』	愛知県陶磁美術館 R4. 10. 29	田 畑
「ホモ・ファーベルの断片」によせて	展覧会図録『ホモ・ファーベルの断片—人ともものづくりの未来—』	愛知県陶磁美術館 R4. 8 月	入 澤
「ホモ・ファーベルの断片 —人ともものづくりの未来—」	『陶説』第 831 号	日本陶磁協会 R4. 9 月	入 澤
「ホモ・ファーベルの断片 —人ともものづくりの未来—」	『炎芸術』第 151 号	阿部出版 R4. 8 月	入 澤
小形こず恵「造形と絵付で、染付の新たな地平を拓く」	『炎芸術』第 153 号	阿部出版 R5. 2 月	入 澤

論文名等	掲 載 物	発 行	学芸員
国際芸術祭「あいち2022」連携企画事業「ホモ・ファーベルの断片ー人とのづくりの未来ー」	『JAPPI NEWSLETTER』No.279	日本陶磁器産業振興協会 R4.8月	入 澤
73 中田ナオト 松藤孝一	展覧会リーフレット	瀬戸市新世紀工芸館 R4.6月	入 澤
「平安のやきもの400年のうつろい」	展覧会図録『平安のやきものーその姿、うつろいゆく』	愛知県陶磁美術館 R4.10月	大 西
「平安のやきものーその姿、うつろいゆく」	『陶説』第832号	日本陶磁協会 R4.10月	大 西
「愛知県陶磁美術館 特別展「平安のやきものーその姿、うつろいゆく」」	『JAPPI NEWSLETTER』	日本陶磁器産業振興協会 R4.11月	大 西
「今月観たい名品 緑釉羽釜・風炉」	『月刊なごみ』517号	淡交社 R4.11月	大 西
「猿投窯における井ヶ谷地区について」	『考古学フォーラム定例会2022(その2)古代猿投窯における井ヶ谷古窯跡群を考える 資料集』	考古学フォーラム R4.12月	大 西
「最近出土の陶磁トピックス(2021年1月~12月)(3)東海地方」	『東洋陶磁学会会報』第98号	東洋陶磁学会 R5.1月	大 西
「第5章 副葬品 12 須恵器」	『豊橋市寺西1号墳の研究(1)報告編ー愛大史学第32号別冊ー』	愛知大学文学部歴史地理学科 R5.3月	大 西
「第6章 考察 7 須恵器の編年的な位置づけと器種構成の評価」	『豊橋市寺西1号墳の研究(2)論考編』	愛知大学総合郷土研究所 R5.3月	大 西
作品解説 ウォルター・クレイン 「夏」「孔雀」/C・F・A ヴォイジー 「小鳥」『ステューディオ誌』創刊号 チャールズ・ロバート・アシュビー 「蓋付マフィン銀皿」 など11点	展覧会図録『アーツ・アンド・クラフツとデザイン ウィリアム・モリスからフランク・ロイド・ライトまで』	「アーツ・アンド・クラフツとデザイン ウィリアム・モリスからフランク・ロイド・ライトまで」カタログ制作委員会	植 田

### (3) 研究発表等

発 表 名 等	発 表 日	場 所	学芸員
「京都市陶磁器試験場と小森忍 日本近代陶磁における釉薬研究の歩み」 (NPO やきもの文化と芸術振興協会2022年度やきもの大学)	7月2日	愛知県陶磁美術館講堂	佐 藤
「陶磁文化に触れる」 (ものづくり文化講義)	7月21日	愛知工業大学	佐 藤
記念講演会「初代 諏訪蘇山について」	10月15日	石川県九谷焼美術館	佐 藤

発表名等	発表日	場所	学芸員
「博物館展示論」(講義全15回及び課題講評並びに成績評価)	9月23日－ 令和5年2月15日	中部大学	小川
令和4年度考古学セミナー 「あいちの考古学2022」ポスターセッション 「犬山焼調査報告－近代犬山焼の窯元について」(青木修・井上あゆこ・中野耕司・鈴木智恵の各氏との共同発表)	10月22日 －23日	名古屋市博物館展示説明室及び講堂	佐久間
講演「煎茶と茶の湯における青銅器と文人趣味」(煎茶道賣茶流第115回教授者会)	令和5年3月26日	浄元寺	田畑
東洋陶磁学会 第49回大会 近・現代陶芸 「瀬戸・美濃を中心とした中部圏の陶芸事情」	6月12日	石川県立美術館	入澤
「耳目を集めた古代愛知の陶器づくり－平安時代を中心に」(ニワ里カレッジ)	12月10日	青塚古墳ガイドンス施設	大西

#### (4) 審査員、委員等

内容	実施日	場所	学芸員
東京国立近代美術館美術作品評価	11月14日	国立工芸館	佐藤
岐阜県現代陶芸美術館作品評価	11月24日	岐阜県現代陶芸美術館	佐藤
兵庫陶芸美術館収蔵品収集価格評価	11月20日	兵庫陶芸美術館	大槻
滋賀県立陶芸の森陶芸館陶芸作品等価格評価	令和5年1月26日	滋賀県立陶芸の森	大槻
瀬戸市新世紀工芸館研修生・修了生作品展講評会	令和5年2月17日	瀬戸市新世紀工芸館	入澤

## 7 教育・普及事業

多様な魅力を有する陶磁文化について理解を深めるため、講演会や講座、ワークショップ等を開催した。また、学校教育や地域団体との連携事業に取り組んだ。

### (1) 学校連携事業

#### ① 展示見学・作陶体験受け入れ（月別受け入れ状況）

展示見学(解説)・作陶体験を利用した学校数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
展示解説		1			1		1	1		1	2	2	9校
作陶体験	1	5	3	6		4	8	8	3	4	4	2	48校
展示解説と作陶体験	1	2			1	2	6	6	2	6	7	1	34校
展示見学と作陶体験			2		1	3		1				1	8校
展示見学					1					1		1	3校
小学校 52校 中学校 8校 高校 19校 大学 12校 幼稚園・保育園 9校 その他 2校													102校

#### ② 学校団体向けプログラム

「ワクワクやきもの体験 知る・見る・つくる、そして感じる」

展示鑑賞・学芸員による解説と作陶体験を組み合わせた学校団体向け特別プログラム。小中学校の愛知の産業や図工・美術の授業に対応した「特別プログラム」を用意し、学校団体利用の増加を促した。WEBページよりダウンロード可能とし、E-mailもしくはFAXにて受付を行っている。

特別プログラム	対応する授業	利用校数
使って楽しいやきもの	愛知の産業・図工（4・5年生）	21校
瀬戸染付の伝統模様を描いてみよう	愛知の産業（4・5年生）	4校
願いをこめて瀬戸こま犬をつくろう	愛知の産業・歴史（4・5年生）	4校
立ち上がれ！ねんど	図工・美術（4・5年生）	-
落書き印花皿	図工・美術（4・5年生）	7校



学校団体向けプログラム パンフレット

### ③ 博物館実習の受け入れ

大学における学芸員課程の教学に協力するため、申し出のあった大学・学生について、当館学芸員が館内で実習指導を行った。

参加大学：愛知淑徳大学、愛知県立大学、愛知県立芸術大学、京都女子大学、京都先端科学大学、四国大学、中京大学、名古屋造形大学、北海道大学、三重大学 各1名、計10人

実施日	実 習 内 容
7月21日(木)	ガイダンス、施設・展示企画概説、施設見学、資料取扱実習、広報宣伝概説
7月22日(金)	陶磁史講義、資料調査
7月23日(土)	展示資料管理、イベント補助、資料撮影実習
7月24日(日)	展示・教育普及事業案の中間報告(演習)、資料撮影・調査実習
7月25日(月)	展示替作業、広報宣伝関連業務
7月27日(水)	展示・教育事業案の発表(演習)、広報宣伝記事発表、講評

\*各日とも時間は9:00-17:00。7月26日(火)は、実習は休日

### ④ インターンシップ（職場体験、職場訪問）の受け入れ

県内の中学校、高等学校、大学の職場体験学習を支援・協力するため体験実習を行った。

実 施 日	参 加 校	参加者数
7月28日(木)、29日(金)	聖霊高等学校	2人
9月2日(金)、4日(日)、 6日(火)-8日(木)	愛知大学、愛知県立大学大学院	2人
10月27日(木)	瀬戸市立幡山中学校	2人
11月1日(火)、2日(水)	瀬戸市立水無瀬中学校	2人
令和5年1月12日(木)、13日(金)	長久手市立長久手中学校	2人
令和5年3月23日(木)、24日(金)	椋山女学園高等学校	2人

### ⑤ 愛知県立瀬戸つばき特別支援学校

近隣施設の愛知県立瀬戸つばき特別支援学校・高等部の職場体験学習を支援・協力するため、陶芸館で受け入れを行った。

内 容	実 施 期 間	参加者数
陶芸館業務の補助	6月2日(木)-10月13日(木) (全10日)	1人
	11月10日(木)-令和5年3月16日(木) (全14日)	1人

### ⑥ 出張授業「学校出前講座」

やきものを通して我が国と地域の歴史と文化、芸術の理解を深め、親しみや誇り、美を感じ取る心を育むことをねらいとし、当館保有の陶磁資料等を実物教材として用い、県内小学校において実施校教員と当館学芸員が連携して、学級毎に体験型の授業を実施している。

「愛知のやきもの」：4年社会科「県内の特色ある地域」の「伝統的な工業」関連

実施日	実 施 校	参加者数
令和5年2月3日(金)	名古屋市立引山小学校 第4学年2学級	38人
令和5年2月8日(水)	名古屋市立北一社小学校 第4学年2学級	63人

## (2) 地域の大学との連携

### ① 大学講義（愛知県立芸術大学）

愛知県立芸術大学の美術教育に協力するため、当館職員が大学で講義を行った。

講師：岩淵 寛（陶芸指導員）

担当科目：修士総合研究Ⅱ 履修登録者 3名

実施日	講 義 内 容
令和5年1月19日(木)	愛知県陶磁美術館・陶芸館でのワークショップの企画・運営

## ② パートナーシップ 実績

大学生等が陶磁文化に親しみ、当館が行う事業への理解を深めてもらうことを目的とした制度。参加大学等の学生や教職員が、当館の展覧会を自由に観覧することができ、また当館を利用した研究活動等を実施することができる。大学等は観覧料を後払いで負担する。

参加校	利用者数
愛知医科大学、愛知学院大学、愛知教育大学、愛知県立芸術大学 愛知県立大学、愛知工業大学、金城学院大学、中京大学、中部大学 東海学園大学、名古屋外国語大学、名古屋学院大学、名古屋学芸大学、 名古屋経営短期大学、名古屋工業大学、名古屋産業大学 名古屋造形大学、名古屋大学、名城大学、愛知高等学校 名城大学附属高等学校 (計 19 大学、2 高等学校、令和 5 年 3 月 31 日現在)	学生 839 人 教職員 125 人  計 964 人

利用日	主な教育・研究的利用	人数
6 月 11 日 (土)	中部大学 学芸員課程「博物館実習」事前指導	24 人
7 月 21 日 (木) -27 日 (水)	愛知県立芸術大学、愛知県立大学、中京大学、 名古屋造形大学 学芸員課程「博物館実習」館園実習	各 1 人
12 月 7 日 (水)	愛知県立大学 学芸員課程「博物館実習」事前指導	24 人
12 月 21 日 (水)	愛知県立大学 留学支援室	21 人

## (3) 館内実施講座

展覧会の理解を深めるため、講演会、講座、ワークショップなどを開催している。

### ① 企画展「酒のうつわーその美、こだわり…」

行事名	実施日	参加者数
酒のうつわトーク	6/12(日)	97 人
担当学芸員によるスペシャルギャラリーツアー	4/30(土)、5/ 7(土) 5/21(土)、6/18(土)	計 85 人
ワークショップ「土くらべ・のみくらべ」	5/8(日)、6/5(日)	60 人

※詳細は 6-7 頁を参照

### ② 特別展「ホモ・ファーベルの断片ー人ともものづくりの未来ー」

行事名	実施日	参加者数
記念シンポジウム	7/16(土)	130 人
出品作家による対談「伊藤慶二×加藤清之」	9/17(土)	42 人
いけばな実演「使うを通してつくる」	7/23(土)	49 人
出品作家によるアーティストトーク	8/27(土)、9/10(土)	計 15 人
担当学芸員によるスライドトーク	8/11(木祝)、13(土) 9/11(日)、18(日) 10/2(日)	計 36 人
中日文化センター講座「東海の現代陶芸の今を見る・知る 愛知県陶磁美術館特別展 ホモ・ファーベルの断片ー人ともものづくりの未来ー」展から	8/30(火)、9/6(火)	8 人
ワークショップ「観賞と体感ー移動する静物」	8/11(木祝)、13(土)、 27(土) 9/11(日)、24(土)	計 42 人
ワークショップ「かたちに描くー陶板×フレスコ画ー」	7/31(日)、8/21(日)	計 59 人

※詳細は 8-9 頁を参照

③ 特別展「平安のやきもの—その姿、うつろいゆく」

行 事 名	実 施 日	参加者数
記念講演会「猿投—古代の青瓷と白瓷」	11/27(日)	64人
記念講演会「三彩から緑釉陶器・白色土器へ—平安京を彩ったやきもの」	12/18(日)	50人
制作体験「花の器—陰刻花文」	11/19(土)、26(土)	計 32人
連続講座&ギャラリートーク「平安のやきものの幕開け」	11/12(日)、20(日)	計 37人
連続講座&ギャラリートーク「平安時代における中国のやきもの」	12/3(日)、10(土)	計 64人
連続講座&ギャラリートーク「中国陶磁への憧れ、その行方」	12/17(土)、24(土)	計 45人
連続講座&ギャラリートーク「仏教の移ろいの中で」	1/7(土)、14(土)	計 80人

※詳細は10-11頁を参照

④ 特別展「アーツ・アンド・クラフツとデザイン」

行 事 名	実 施 日	参加者数
記念講演会「モリスとド・モーガンのタイル」	2/12(日)	145人
ミニ講座+ギャラリートーク	2/5(日)、3/5(日)	計 140人
体験講座「ティーアドバイザーに学ぶヴィクトリア時代の紅茶文化」	2/23(木・祝)	30人
ワークショップ「自然の美しさに心を馳せる—タイルに和と洋の動物を描く」	3/11(土)	20人

※詳細は12-13頁を参照

⑤ テーマ展「〈織部を焼こう〉の軌跡」

行 事 名	実 施 日	参加者数
窯場トーク	4/24(日)	25人

※詳細は16頁を参照

⑥ テーマ展「近代陶磁の技と美に迫る 初代諏訪蘇山」

行 事 名	実 施 日	参加者数
ワークショップ「型起こしワークショップ 蘇山の鯉に挑戦」	6/4(土)	10人
記念対談 「初代諏訪蘇山の足跡と思いを辿る 諏訪家資料を中心に」		51人
デジタル復元プロセス解説		51人
ギャラリートーク	6/11(土)、6/25(土)	計 22人

※詳細は17頁を参照

#### (4) 館外実施講座・講義

##### ① 移動美術館 2022「もじもえもじも」講座

行事名	実施日	参加者数
記念講演会Ⅰ「文字と美術—愛知県美術館の作品を中心に」	9/17(土)	30人
記念講演会Ⅱ「館蔵現代陶芸作品にみる文字表現」	10/1(土)	30人
展示解説	9/24(土) 10/8(土)、15(土)	計50人
古文書講座「昔の“文字”を読んでみよう!」	11/5(土)	40人

##### ② カルチャーセンター協力講座

名古屋市所在のカルチャーセンターと協力して講義と展示鑑賞を組み合わせた講座を実施した。

行事名	実施日	会場	講師
「酒のうつわ」 その美に酔いしれる	5/11(水)	朝日カルチャーセンター名古屋教室	学芸員 宮川菜々子
	5/18(水)	愛知県陶磁美術館	
身近なあなたの守護獣 「狛犬」を知る	5/25(水)	栄中日文化センター	学芸員 佐久間真子
	6/1(水)	愛知県陶磁美術館	
「東海の現代陶芸の今 を見る・知る 愛知県陶 磁美術館特別展 ホモ・ ファーベルの断片—人 とものづくりの未来—」 展から	8/30(火)	栄中日文化センター	学芸員 入澤聖明
	9/6(火)	愛知県陶磁美術館	
「うつろいゆく平安の やきもの400年の魅力」	11/9(水)	朝日カルチャーセンター名古屋教室	学芸員 大西 遼
	11/16(水)	愛知県陶磁美術館	
「平安人の愛したやき もの—400年のうつろ いから平安史をたどる」	11/17(木)	栄中日文化センター	学芸員 大西 遼
	11/30(水)	愛知県陶磁美術館	
「六つの名碗から茶の 湯の展開に迫る」	11/29(火)	朝日カルチャーセンター名古屋教室	総長 伊藤嘉章
	12/6(火)	愛知県陶磁美術館	
「アーツ&クラフツに みる心豊かな暮らしの ためのデザイン」	3/10(金)	朝日カルチャーセンター名古屋教室	学芸課長 大槻倫子
	3/17(金)	愛知県陶磁美術館	

##### ③ 愛知県児童総合センター連携プログラム

子どもと大人が児童館と美術館を自在に行き来し、アートを通じてともにのびのびと育つことを目的に、愛知県児童総合センターと連携プログラムを行った。

行事名	実施日	会場	講師	参加者
土どろウォーキング	5/29(日)	愛知県児童総合センター・ 愛知県陶磁美術館	館長 佐藤一信	24人
あなをほる	6/4(土)、5(日)	愛知県児童総合センター・ 愛知県陶磁美術館	館長 佐藤一信	36人
土をやく	つくる	10/30(日)	愛知県児童総合センター	22人
	やく	11/27(日)		23人
	みる	12/4(日)		20人

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため人数制限を行った。

#### ④ あいち海上の森センターとの連携講座

「海上の森アカデミー里山暮らしコース」のうち、陶磁の体験学習について当館が担当した。

行事名	実施日	会場	主催	講師	参加者数
制作と展示見学	11/20(日)	愛知県陶磁美術館	あいち海上の森センター	館長 佐藤一信	12人
焼成	12/17(土) - 18(日)	海上の森サテライト会場		館長 佐藤一信	24人



児童総合センター「土をやく」制作品



あいち海上の森センター「やきもの」焼成

#### (5) ボランティア

##### ① ボランティア活動

県民に広く生涯学習の場を提供するとともに、観覧者への学習活動を支援するため、「愛知県陶磁美術館ボランティア」を設置している。

(令和5年3月31日現在、延べ登録者数・計97人)

種別	活動概要	活動日	主な活動場	登録者数
展示解説ボランティア	常設展「日本と世界のやきもの」展示解説。 (設立：平成11年)	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため活動休止	本館2階展示室	39人
ガイドボランティア	窯業原料等を用いて、やきものの魅力等をガイドする。 (設立：平成23年)	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため活動休止	本館玄関ロビー	18人
発送等ボランティア	広報印刷物の郵便発送(帳合、封入等)を補助する。 (設立：平成23年)	月2回程度、水曜日の午前	本館会議室	18人
環境整備ボランティア	園内の除草、花木の施肥作業を行う。 (設立：平成29年)	主に5月-11月の月1回、月曜日の午前	茶畑「愛陶茶園」	22人

##### ② ボランティア研修

「愛知県陶磁美術館ボランティア」の活動を支援するため、主に当館学芸員が講師として研修会を開催している。また、県民の学習機会を拡大するため、受講者を当館ボランティアに限定せず、公開講座として実施してきた。しかし令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部を除き一般への公開講座としては実施しなかった。

行事名	実施日	会場	講師等
令和4年度オリエンテーションテーマ展「〈織部を焼こう〉の軌跡-復元古窯による実験焼成の成果-」ギャラリートーク	4/15(金)	講堂 第8展示室	陶芸指導員 岩渕 寛

行事名	実施日	会場	講師等
企画展「酒のうつわーその美、こだわり…」ギャラリートーク	5/20 (金)	第1・第2 展示室	学芸課長 大槻倫子
テーマ展 近代陶磁の技と美に迫るⅠ「初代 諏訪蘇山ー初代蘇山の遺した石膏型を次代へー」ギャラリートーク	6/10 (金)	第8展示室	館長 佐藤一信
特別展「ホモ・ファーベルの断片ー人ともものづくりの未来ー」ギャラリートーク	7/29 (金)	本館、南館他	学芸員 入澤聖明
伊万里焼の染付・色絵・色釉	8/5 (金)	講堂	学芸員 小川咲良
美術館の教育普及について	9/23 (金・祝)	講堂	学芸員 鮫島由佳
あなたの身近な守護獣「狛犬」にせまる	10/21 (金)	講堂	学芸員 佐久間真子
特別展「平安のやきものーその姿、うつろいゆく」連続講座&ギャラリートーク ～担当学芸員による平安のやきものへのいざない～	①11/12(土)、20(日) ②12/3(土)、10(土) ③12/17(土)、24(土) ④1/7(土)、14(土)	講堂	①③④ 学芸員 大西 遼 ②学芸員 田畑 潤
特別展「アーツ・アンド・クラフツとデザインーウィリアム・モリスからフランク・ロイド・ライトまで」ギャラリートーク	2/3 (金)	講堂、第1・ 2・8展示室	学芸員 植田直子
一般教養としての 博物館展示原論	3/17 (金)	講堂	主任学芸員 小川裕紀

## (6) 図書室

陶磁史、考古学、展覧会図録を中心とする図書等を所蔵。学芸員等の調査研究のために利用すると共に、研究を目的とする希望者に一般開放を行った。

### 図書資料 収集状況

令和4年度	購入図書	寄 贈 図 書		合 計
		寄付受入	交換図書他	
冊 数	0 冊	0 冊	820 冊	820 冊
累 計	1,849 冊	11,721 冊	51,271 冊	64,841 冊

## 8 地域連携

### (1) 愛知県内

#### ① 瀬戸市との連携事業

陶祖・藤四郎を祀る陶彦社の祭礼「陶祖まつり」において、瀬戸市まるっとミュージアム課と連携し、館蔵品の狛犬展示とこま犬作りワークショップを実施した。

行事名	実施日	会場	講師	参加者数
愛知県陶磁美術館所蔵 こま犬展	4月16日(土)	瀬戸蔵1階ホール	—	—
こま犬作り ワークショップ	4月17日(日)	瀬戸蔵2階 イベントスペース	当館陶芸指導員 及び学芸員	19人

※焼成後の作品引取は当館陶芸館

#### ② 特定非営利活動法人やきもの文化と芸術振興協会との連携事業

##### ②-1 「やきもの大学」

講義内容	実施日	会場	講師	参加者数
話しきれない 東南アジア陶磁の魅力	6/5(日)	講堂	矢島律子氏 (鶴見大学教授)	24人
京都陶磁器試験所と小森忍を中心に	7/2(土)	講堂	当館館長 佐藤一信	31人
瀬戸のやきものと中国陶磁	8/20(土)	講堂	森達也氏(沖縄県立 芸術大学教授)	41人
荒川豊蔵と桃山茶陶	10/30(日)	講堂	加藤圭子氏(荒川豊蔵 資料館主任学芸員)	36人
古代の陶器—変動する技と文化	1/8(日)	講堂	当館学芸員 大西遼	37人
国立工芸館とそのコレクション— 陶芸を中心に—	1/28(土)	講堂	唐澤昌宏氏 (国立工芸館館長)	39人

##### ②-2 「茶摘み体験&美術館展示見学」、

##### 「愛陶茶園の抹茶を楽しむ会&美術館展示見学」

特定非営利活動法人やきもの文化と芸術振興協会の主催(当館共催)により、陶磁と茶の歴史との関係を学ぶ機会として実施した。

行事名	実施日	会場	内容	参加者数
茶摘み体験&美術 館展示見学	5/14(土)	愛陶茶園 及び本館	当館敷地内の茶畑「愛陶茶園」における新茶の収穫、当館内の展示の見学	48人
抹茶を楽しむ会& 美術館展示見学	11/5(土)	本館休憩室	茶摘み体験で収穫した茶葉を加工した抹茶の喫茶と、当館内の展示見学	14人



### ③ 第11回愛知県茶会への協力

愛知県茶会とは、お茶の消費拡大及び茶文化の振興を図るために愛知県が主催する茶会である。知事が席主をつとめ、農業水産局（園芸農産課）が担当している。

招待客への呈茶に供するため、主に瀬戸、常滑、美濃の作家から愛知県陶磁美術館・茶室「陶翠庵」に寄贈された茶碗50点を県に貸し出し、陶磁美術館事業のアピールを行った。

行事名	実施日	会場	主催	協力	参加者数
愛知県茶会	10/23(日)	愛知県公館	愛知県	茶道松尾流	約260人

### ④ 瀬戸いけばな協会との連携

特別展、企画展のオープンに合わせて、同協会の会員に生け込みを依頼し、展示室入口前等に「お迎え花」を設置した。花器は、陶芸作家の加藤清之氏の作品を用いた。



企画展「酒のうつわ」  
草月流 早川花林 氏



特別展「ホモ・ファーベルの断片」  
清秀流 尾藤秀華 氏



特別展「平安のやさもの」  
則天流 横山城雲 氏



特別展「アーツ・アンド・クラフツとデザイン」  
石田流 西山紀翠 氏

### ⑤ 体感！しだみ古墳群ミュージアムとの協同企画

体感！しだみ古墳群ミュージアム（名古屋市守山区）と協同し、同館を象徴する埴輪に関連したワークショップ等を行った。

行事名	実施日	会場	参加者数
お庭に埴輪プロジェクト	1/22(日)、 2/5(日)、3/5(日)	本館常設展示室、古窯館、 陶芸館	26人
祈りのかたち ハニコマづくり	3/4(土)、3/18(土)	本館／体感！しだみ古墳群 ミュージアム	計 39人

※詳細は 56-57 頁を参照

### ⑥ 愛知やきものヒストリー2022

愛知のやきものを扱う施設（参加 20 館）が協力し、来館者に対して愛知のやきものに親しむ機会を提供した（平成 28 年度以降 6 度目の開催）。今回は「やきものの使い方」に焦点を当てて各館のやきもの一品を展示紹介し、それに合わせたやきものスタンプラリー（新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、スタンプをシールで代用、景品付き）を行った。

行事名	実施日	会場	主催	参加者数
愛知やきものヒストリー 2022	7/16(土)－ 9/4(日)	県内博物館施設 計 20 館	参加館	愛知のやきもの賞 107人 3館賞 516人 ※賞該当者数のみ
[当館実施分] 一品展示「平安時代のタ イムカプセルー経筒外容 器」		常設展「日本と世界の やきもの」通史部門・日 本ゾーン（本館第3展 示室・東室）	当館	93人 ※スタンプ（シール） シート利用者数（当館 での参加者数）

### ⑦ 考古学フォーラム定例会 2022(その2)

#### 「古代猿投窯における井ヶ谷古窯跡群を考える」

当館と考古学フォーラム、三河考古学談話会の共催により、古代猿投窯の中でも井ヶ谷地区（井ヶ谷古窯跡群）に焦点を当てた研究会を実施した。

行事名	実施日	会場	参加者数
○永井邦仁（考古学フォーラム） 「東海道駅路の成立と古代境川流域の動向」 ○河野あすか（刈谷市歴史博物館） 「井ヶ谷古窯跡群について」 ○大西 遼（愛知県陶磁美術館） 「猿投窯における井ヶ谷地区について」	12/4(日)	地下1階講堂	38人

### ⑧ 愛知県博物館協会

愛知県内に所在する博物館施設が、相互の連絡協力を密にし、事業の振興を図ることを目的として昭和 39 年に設立された。令和 4 年 4 月現在の加盟館は、計 118 館である。

令和 4 年度は、当館が会長館及び事務局を務め、当館長が会長、当館職員が事務局及び実行委員として運営を行った。主な事業として、理事会・総会をはじめ、記念講演会や各種研修、ホームページ運営や印刷物（協会報『愛知の博物館』、『おでかけガイド』）の発行、非常時連絡訓練等を行った。また東海地区博物館連絡協議会の愛知県事務局を務め、東海三県博物館協会研究交流会（主催：岐阜県博物館協会）に参加した。

## (2) 広域

### ① 陶磁ネットワーク会議

公立の陶磁専門館がネットワークを組み、協働することを目的として平成20年に設立された。毎年1回、連絡会議を開催して情報交換等を行っている。

令和4年度は監事館・佐賀県立九州陶磁文化館において「SNSを利用した広報」をテーマに会議が開催された。

加盟館：愛知県陶磁美術館、茨城県陶芸美術館、岐阜県現代陶芸美術館  
佐賀県立九州陶磁文化館、滋賀県立陶芸の森、兵庫陶芸美術館、福井県陶芸館  
山口県立萩美術館・浦上記念館

### ② 東海地区博物館連絡協議会・日本博物館協会東海支部

愛知県、神奈川県、岐阜県、静岡県、山梨県の博物館及びこれに類する施設が、会員相互の連絡や、博物館事業の振興を図ることを目的とし、日本博物館協会東海支部を兼ねている。令和4年度は、当館が理事を務め、理事会・総会・研修会に出席した。

<理事会及び総会>

開催日：7月28日（木）

会場：静岡市民文化会館

<研修会>見学

開催日：7月28日（木）

会場：静岡市歴史博物館

### ③ 東海三県博物館協会

愛知県博物館協会、岐阜県博物館協会、三重県博物館協会の加盟館が連携や交流することを目的とする。令和4年度は、当館が愛知県博物館協会の理事長館として本協会の愛知県事務局を務め、研究交流会に参加した。

<研究交流会>

「博物館資源のデジタルデータベース化の現状と今後」

開催日：12月7日（水）

会場：セラミックパーク MINO イベントホール（岐阜県）

### ④ その他の当館が加盟する博物館関連団体

全国美術館連絡協議会

## 9 陶芸館

陶芸館では、陶芸指導員の指導により、利用者が希望に応じて自由に作陶体験できる陶芸実習（通年）や、陶芸館の自主事業として陶芸教室（秋季～冬季）、復元古窯焼成に伴うイベントや特別展・企画展の内容に則したワークショップなどを実施した。

なお、利用者が制作（成形・絵付）した作品の乾燥・素焼・施釉・本焼は、非常勤職員を含めた陶芸指導員が、館内の窯炉などを用いて行った。

### （1）事業内容

#### ○ 実習内容

作陶：利用者の希望と経験により、自由に制作（成形）を行う（作品の大きさに制限あり）。  
絵付：予め制作された素焼きの皿・湯呑に絵付を行う。

#### ○ 説明及び指導

陶芸館開館中の9:30から14:30までの間で、30分ごとに、作陶の初心者を対象とした説明会を開催。また、陶芸指導員が実習室に常時在室し、利用者の要望に応じて指導を行っている。

#### ○ 利用者定員

作陶（電動ロクロを除く）・絵付：164人、  
電動ロクロ：18人  
※現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため上記定員の半数程度としている。  
（作陶82人、電動ロクロ10人）

#### ○ 利用時間

9:30～16:30  
（受付開始：9:15、初心者向け最終説明会：14:30）

#### ○ インターネットでの事前予約

##### ・オンライン予約（19人までの利用）

Cubic by STORES 予約サイトを利用。10:30～12:30、13:30～15:30で各回30人。  
（STORES 予約サイトへは陶磁美術館 WEB ページから移動できる）  
※令和5年1月から3枠に増設（9:30～11:30、11:30～13:30、13:30～15:30）

##### ・団体予約（20人以上）

団体予約申込書をWEB ページからダウンロードし、メールかFAXで送付。予約の可否を当館から返信する。

学校団体用：学校団体向け特別プログラム用申込用紙  
その他団体用：一般団体用申込書

#### ○ 利用料金

（令和5年3月31日現在）

区分	内容	料金	
		一般	中学生以下
実習室 使用料	2時間まで	300円 (240円)	150円 (120円)
	4時間まで	600円 (480円)	300円 (240円)
	7時間まで	900円 (720円)	450円 (360円)
焼成料	作陶（粘土1kg毎）	300円	
	絵付（1個毎）	300円	

※（ ）内は20名以上の団体料金。

※粘土や絵付素材などについては、陶芸館内の売店で別途販売。

## ○ 学校団体向け特別プログラム

「ワクワクやきもの体験 知る・見る・つくる、そして感じる」

展示鑑賞・学芸員による解説と、作陶体験を組み合わせた学校団体向け特別プログラム。小中学校の愛知の産業や図工・美術の授業に対応した「特別プログラム」を用意し、学校団体利用の増加を促した。また、従来の作陶・絵付けのみの体験は「基本プログラム」とした。

専用の申込用紙を制作し、WEB ページからダウンロード可能とし、E-mail もしくは FAX にて受付を行っている。詳細は 39 頁を参照。

## (2) 定例事業

### ① 「はじめての陶芸館」

令和2年度から開始した、陶芸館の利用促進のための事業。初めて陶芸館を利用する方を対象に、やきもの作りの入り口となるような陶芸体験講座。やきものを全く作ったことがない方でも、手軽に制作を楽しめる「簡単」な作り方で、「使える」器や「陶人形」を制作する陶芸体験を開催した。

令和4年度は、毎年好評を得ている「押し付けはみ出せ！落書き印花皿」、「干支」、「やきもののひな人形」などに加え、過去に展覧会関連事業・ワークショップにて開催した、「泥で描く！」、「メイドイン瀬戸の彩文土器を作ろう」、「転写シールでコラージュ」をより分かりやすくした形で開催した。「恐竜をつくろう！」は100名を超える応募があり、再募集をして、多くの方に参加していただいた。また、「薪の窯で焼く！こま犬」、「薪窯で焼く！My ぐい呑み」にて制作した作品は、復元古窯にて焼成した。

テーマ	実施日	参加者数
植木鉢を作ろう	4月17日(日)	44人
押し付けはみ出せ！落書き印花皿	5月22日(日)	49人
泥で描く！	6月12日(日)	33人
恐竜をつくろう！	7月10日(日)	86人
恐竜をつくろう！再募集	7月24日(日)	31人
メイドイン瀬戸の彩文土器	8月14日(日)	50人
薪の窯で焼く！こま犬	9月25日(日)	58人
薪窯で焼く！My ぐい呑み	10月9日(日)	67人
干支「卯」	11月13日(日)	18人
節分「福笑う、笑い鬼」	12月11日(日)	22人
「陶雛」やきものの雛人形	令和5年1月8日(日)	46人
転写シールでコラージュ	令和5年2月12日(日)	9人
五月人形「兜」	令和5年3月12日(日)	25人

4/17 (日) 植木鉢をつくろう

5/22 (日) 落書き印花皿

11/13 (日) 干支「卯」 うさぎ

12/11 (日) 節分「福笑う、笑い鬼」

6/12 (日) 泥で描く！

7/10 (日) 恐竜をつくろう

2/12 (日) 転写シールでコラージュ

3/12 (日) 五月人形「兜」

簡単！だけど、けっこう本格派  
**はじめての陶芸館**  
陶磁美術館オリジナルの特別な作陶体験をお手軽に！

参加者募集！  
ご家族で、友人とも  
もちろんお一人でも

簡単！だけど、けっこう本格派  
**はじめての陶芸館**  
陶磁美術館オリジナルの特別な作陶体験をお手軽に！

参加者募集！

つくりかたはとってもシンプル！

つくりかたはとってもシンプル！

1/8 (日) 陶雛 やきもののひな人形

はじめての陶芸館 チラシ

## ② 第 37 回陶芸教室

今年度で 37 回目を迎える陶芸教室は、昭和 61 年の陶芸館の開館以来、継続開催している。やきもの作りの技術を様々な角度から習得できるよう多様なコースを設け、陶芸指導員が基礎から丁寧に指導し、陶芸文化の普及を担っている。

各コースともステップアップする講座となっており、少人数制の形式を取り個々のレベルに合わせた内容で今年度も開講した。

さらに、各分野担当学芸員の解説を聞きながら、常設展・特別展・特別鑑賞を行った

### ②-1 初級コース

やきもの作りが初めての方、初心者の方が対象。紐作り、タタラ作りなど、成形技法の基礎を身につけるコース。鉢、花入れ、カップ&ソーサーを制作。花入れづくりでは、本体を逆さまにして口作りをすることで形を構成する際のバランス感覚を学んだ。

開講日：7月15日（金）、22日（金）、29日（金）  
8月5日（金）、12日（金）、19日（金）、26日（金）

担当：陶芸指導員 東 直生  
参加人数：午前 3 人、午後 7 人  
受講料：7,000 円

### ②-2 中級コース

色粘土を使った象嵌技法で、カップや花器に自由に模様を描いた。筆塗とは違った均一な面や、はっきりとした輪郭で表現した。

開講日：令和5年2月2日（木）、9日（木）、16日（木）、23日（木）  
3月2日（木）、9日（木）、16日（木）、23日（木）

担当：陶芸指導員 清水美香子  
参加人数：午前 9 人、午後 5 人  
受講料：3,450 円

### ②-3 上級コース

板作り技法による成形、及び土練り（菊練り）ができる方で、練り込み技法を習得したい方が対象のコース。時間と根気を必要としたが、達成感を感じられる楽しい講座となった。

開講日：11月3日（木・祝）、10日（木）、17日（木）、24日（木）  
12月1日（木）、8日（木）、15日（木）、22日（木）  
令和5年1月5日（木）、12日（木）

担当：陶芸指導員 近藤ひとみ  
参加人数：午前 15 人、午後 14 人  
受講料：10,750 円

### ②-4 ろくろ初心者コース

電動ろくろの初心者の方のためのコース。基本的な道具の使い方、制作の基礎を学び、ご飯茶碗を制作した。

開講日：7月12日（火）、19日（火）、26日（火）  
8月2日（火）、9日（火）、16日（火）、23日（火）、30日（火）  
9月6日（火）、13日（火）

担当：陶芸指導員 吉田庄吾  
参加人数：午前 10 人、午後 10 人  
受講料：5,950 円

### ②-5 ろくろ応用コース

電動ろくろの技術をすでに習得している方が対象の教室。5 客組の五寸皿を作り、鉄絵の技法で装飾をした。

開講日：令和5年2月3日（金）、10日（金）、17日（金）、24日（金）  
3月3日（金）、10日（金）、17日（金）、24日（金）

担当：陶芸指導員 岩瀬 寛  
参加人数：午前 7 人、午後 5 人  
受講料：5,600 円

### ③ アーティスト in 陶芸館

「アーティスト in 陶芸館」は、瀬戸・常滑や東海地方で活躍する陶芸家や現代美術家等を講師として招聘し、参加者との交流を深めながら楽しくやきものづくりの体験、講師の持つ特別な技術を体感することを目的としている。

令和4年度は、様々なアーティストの技術や経験から生まれる個性豊かな「表現方法」に焦点を当て、参加者と講師がコミュニケーションをとりながら、その時間の中でしか生まれない魅力的な体験を行う講座を開催した。

#### ③-1 クロッキーからやきものへ土に人を描くー

短い時間でモデルを観察し、その時感じた動きや線・量・空間などの情報を描くことを「クロッキー」という。講師の藤本磨弥氏は「クロッキー」を基に「女性」を描いた作品を生み出す。美術モデルを招聘し、講師の指導の下「人物クロッキー」を行った。その後、クロッキーにて得られた情報を基に、「化粧土」を塗布した粘土の板に「掻き落とし」の技法で「人」を描き、表現する体験を行った。

開講日：5月15日（日）

会場：陶芸館第2実習室

講師：藤本磨弥氏（豊田市）、美術モデル：中西優紀氏

担当：陶芸指導員 岩渕 寛

参加人数：21人

#### ③-2 七輪でやきものを焼こう

常滑の土でかたちをつくり、フライパンを使った「素焼き」と「七輪」を使う焼成技法の体験を行う2回連続講座。「七輪」を使って焼成を行うため、「窯」の中で焼き上げるのとは違った表情を得られた。高温で焼成できるため、固く焼き締まり、高火度の釉薬も溶かすことができるので「炎」の中で土や釉薬が変化する様子を間近に観察することができた。

講師によるスライドレクチャーも行い、講師が制作のために使用している「穴窯」の築窯時の様子のお話を聞く時間も設けた。

開講日：7月17日（日）・8月7日（日）の2日間

会場：陶芸館第2実習室・第2焼成室前広場

講師：水上勝夫氏（常滑市）

担当：陶芸指導員 岩渕 寛、吉田庄吾

参加人数：17人

#### ③-3 思考をえがく、インスタレーションをつくろう

講師は、複数のものの集まりをひとつの構成、インスタレーションにする作家（美術家）・古橋まどか氏。1月に発表された制作では、体重に等しい重さの庭土をやきもの焼き物にした。その過程で湧き上がってきたのが、陶磁に用いる土を、胎土と呼ぶのはなぜ？土と身体はどんな関係にあるの？という思いだった。

古窯館や、関連する出土資料の展示を講師と見学した後、参加者が持参した自身やご家族の出生に関する資料（へその緒等）、写真などを基に、古橋氏との対話を通して、土と自然、身体との関係性を探り、インスタレーションを試作した。

開講日：9月18日（日）

会場：陶芸館第2実習室、古窯館、本館第3展示室

講師：古橋まどか氏（名古屋市）

担当：陶芸指導員 岩渕 寛

参加人数：5人

### ③-4 変面ーへんめんー

講師の石山駿氏の代表シリーズの一つ「面相シリーズ」に使われている技法を使った制作体験を行った。粘土で様々な形状のパーツを無作為に作り出し、「福笑い」の要領で構成し、変な顔「変面」を制作した。ベースになる「顔」は折り紙のように粘土板をたたむ方法で制作し、思わず吹き出してしまうような変な顔を見つけていった。また1970年代頃の制作の様子や、瀬戸窯業高校などでの後進への指導など、講師がどのような関わりの中で「やきもの」を制作されてきたのかをお聞きする時間も設けた。

開講日：11月20日（日）

会場：陶芸館第2実習室

講師：石山 駿氏（瀬戸市）

担当：陶芸指導員 岩渕 寛、学芸員 入澤聖明

参加人数：11人

### ③-5 春を描く 油溶き技法による上絵付

講師に陶磁器上絵付け1級技能士、陶磁器デザイナーの安藤栄子氏をお招きし、「名古屋絵付」の代表的な技法の一つ、「油溶き技法による上絵付」の制作体験を行った。参加者は「春」をテーマに、講師に特徴のある絵具や道具の使い方をレクチャーしていただきながら制作した。

南館で開催した「名古屋絵付って何？ー凸盛り&油溶き技法」の関連事業として開催。

開講日：令和5年1月15日（日）

会場：南館ロビー・テーマ展示会場

講師：安藤栄子氏（名古屋市）

担当：陶芸指導員 岩渕 寛、学芸課長 大槻倫子、学芸員 鮫島由佳

参加人数：15人

### ③-6 日展と瀬戸

講師は瀬戸を代表する陶芸家の一人、瀬戸・赤津の名窯「背戸窯」の二十二代当主の加藤令吉氏。活動の中心となる「日展」では、特選2回を含む数度の受賞、審査員を歴任し、長きに渡り深くかかわりながら出品を続けている。

「背戸窯」へ訪問し、アトリエやギャラリーを見学し、どのように「日展と瀬戸」に関わりながら制作、出品を続けてきたのかを、講師の作品を鑑賞しながらお話ししていただいた。会の最後には、瀬戸赤津地域で焼かれた施釉瓦「赤津瓦」の葺かれた「雲興寺」に移動し拝観を行った。「瀬戸」を熟知し、技術や知識を未来へ継承する役割を担う講師の制作現場でお話を聞くことができる貴重な機会となった。

開講日：令和5年3月19日（日）

会場：背戸窯（加藤令吉氏工房）

講師：加藤令吉氏（瀬戸市）

担当：陶芸指導員 岩渕 寛、宮下 陽、学芸員 入澤聖明

参加人数：14人

### ④ 復元古窯焼成

当館では、復元古窯2基（室町時代の大窯と江戸時代の連房式登窯）の窯体保存と学術研究の観点から試験焼成を行っている。多くの方に参加していただけるような講座や窯場トークなどのイベントを開催し、焼成で得られたデータは一般公開を行っている。

今年度は、本館ロビーでの狛犬展示「リ・デザイン・狛犬」の開始に合わせ、「陶製狛犬」の焼成を「連房式登窯」を使用し行った。「薪の窯で狛犬を焼こう」をメインイベントに、特別講座「瀬戸の陶製狛犬に迫る」、豊明市との協力出張陶芸館「やきものの狛犬をつくろう！in 豊明」を豊明市大蔵池公園・陶芸の館にて開催した。さらには「薪の窯で焼く！こま犬」を「はじめての陶芸館」にて開催し、計194名、242体の「陶製狛犬」を焼成した。

完成した「陶製狛犬」は「リ・デザイン・狛犬+」と題して、本館ロビーにて展示公開を行った。

#### ④-1 薪の窯で狛犬を焼こう

連房式登窯を使用し、瀬戸美濃地域特有のやきものの一つ「陶製狛犬」の焼成を行った。当館学芸員が歴史、意匠から特徴を解説し、参加者による自由な発想で、作陶・絵付けが行われた。瀬戸地方で産出される白い土で1体、または2体（獅子と狛犬）制作し、絵付けに「呉須・鬼板」、釉薬は陶芸館で使用している9種類の釉薬のほか、「灰釉・鉄釉」瀬戸の伝統的な釉薬も用意し選択できることとした。

今回は「より多くの方に、当館の復元古窯焼成に参加していただく」を実現するために、大人から小さなお子様まで制作が楽しめる、「狛犬制作」に新たに取り組んだ。その結果、新しい参加者の獲得や、家族での参加が増え、また焼成や報告展示にも多くの方に参加していただくことができた。今後の目指す方向性の一つとして、新たな復元古窯の活用方法を見いだすことができた。

内 容	実 施 日	参加者数
解説と作陶	9月30日（金）－10月2日（日）	79人
絵付と施釉	10月21日（金）－10月23日（日）	79人
窯入れ	10月24日（月）－10月28日（金）	延べ60人程度
火入れ式	11月5日（土）	16人
焼 成	11月5日（土）－11月7日（月）	延べ200人程度
窯場トーク	11月6日（日）	19人
窯起し	11月14日（月）	20人
作品展示	11月22日（火）－12月18日（日）	－

担 当：陶芸指導員 岩渕 寛、吉田庄吾、清水美香子

主任学芸員 小川裕紀、学芸員 小川咲良

※窯場トーク：学芸員 大西 遼

#### ④-2 特別講座「瀬戸の陶製狛犬に迫る－知る・見る・つくる・そして、飾る－」

本館1階ロビーでの「リ・デザイン・狛犬」展示開始を記念して、特別講座「瀬戸の陶製狛犬に迫る」を開催した。より精度の高い「狛犬」を制作することを目的とし、参加者は「狛犬」を知る、見る過程を経験した上で、成形、絵付け、施釉を自身で体験した。

当館学芸員の解説や、「瀬戸・深川神社」を訪問し、宝物殿にて重要文化財の「狛犬」等の特別鑑賞も行った。知る・見る・作る・そして、飾ることを5回に分けて実践し、密度の濃い内容の講座を、講師・参加者と共に作り上げた。

受講者は「リ・デザイン・狛犬+」として完成した「狛犬」を、本館ロビーにて学芸員と共に展示する作業を行い、「飾る」体験を行った。

内 容	実 施 日	講師・担当	参加者数
勉強会「瀬戸の陶製狛犬とは」	7月23日（土）	主任学芸員 小川裕紀	14人
瀬戸・深川神社宝物殿見学	8月27日（土）	二宮あづさ氏（深川神社宮司）	14人
狛犬の制作（作陶）	9月24日（土）	学芸員 佐久間真子 陶芸指導員 岩渕 寛 清水美香子	14人
狛犬の制作（絵付・施釉）	10月15日（土）		14人
リ・デザイン・狛犬+（展示）	11月22日（火）		8人

#### ④-3 出張陶芸館「やきものの狛犬を作ろう！in 豊明」

豊明市生涯学習課と連携し、「やきものの狛犬を作ろう！in 豊明」を開催した。当館陶芸指導員が豊明市「大蔵池公園 陶芸の館」に赴き、「狛犬」制作の制作体験を行った。制作した「狛犬」は復元古窯にて焼成し、「リ・デザイン・狛犬+」として本館ロビーにて展示した。

開講日：9月17日（土）

会場：大蔵池公園 陶芸の館（豊明市）

担当：荒川博子氏（豊明市生涯学習課生涯学習係）

陶芸指導員 岩渕 寛、清水美香子

参加人数：午前16人、午後19人

#### ④-4 リ・デザイン・狛犬+

復元古窯にて焼成した「狛犬」を、狛犬展示「リ・デザイン・狛犬」に隣接させ、当館所蔵の古い狛犬と令和の時代につくられた狛犬を比較できるように展示した。

公開日：11月22日（火）～12月18日（日）

会場：本館1階正面玄関ロビー

担当：学芸員 佐久間真子、陶芸指導員 岩渕 寛

展示総数：242体

狛犬制作参加者総数：194人

#### ⑤ 展覧会連携事業

行事名	展覧会名	実施日	参加者数
ワークショップ「土くらべ、のみくらべ」	企画展「酒のうつわ」	5月8日（日） 6月5日（日）	22人
ワークショップ「かたちに描くー陶板×フレスコ画」	特別展「ホモ・ファーベルの断片」	7月31日（日） 8月21日（日）	30人
制作体験「花の器 - 陰刻花文 -」	特別展「平安のやきもの」	11月19日（土）、 26日（土）	16人
ワークショップ「自然の美しさに心を馳せる」	特別展「アーツ・アンド・クラフツとデザイン」	3月11日（土）	20人

※詳細は6-13頁を参照

#### （3） 地域連携

##### ① 体感！しだみ古墳群ミュージアムとの協同企画「お庭に埴輪プロジェクト」

古代の焼物の歴史を学びながら、オリジナル埴輪を作って、個々の家庭の庭やベランダに飾る企画。体感！しだみ古墳群ミュージアムと当館の資料や施設、職員が交流しながら、古墳時代のやきものを中心に、陶磁文化を地域の人たちに伝えることを目的とする。

第1回は当館にて古墳時代のやきものを中心に当館学芸員とともに鑑賞し、館敷地内にて土を採取して簡易に精土を行った。第2回は、体感！しだみ古墳群ミュージアムにて埴輪の制作を行った。参加者は個々にオリジナリティ溢れる埴輪を作り上げた。第2回は、埴輪に着色。完成した埴輪は体感！しだみ古墳群ミュージアムにて焼成を行った。

第1回「土の採取」

日時：令和5年1月22日（日）10:00-15:00

会場：本館常設展、古窯館、陶芸館、陶芸館周辺

第2回「埴輪の成形」・第3回「色づけ」

日時：令和5年2月5日（日）、3月5日（日）各日とも10:00-15:00

会場：体感！しだみ古墳群ミュージアムとその周辺

担当：服部哲也氏（NPO法人古代瀬波の里・文化遺産ネットワーク副理事長）

学芸員 佐久間真子、大西 遼

陶芸指導員 岩渕 寛、青井すみれ

参加人数：26人

## 10 現代陶芸魅力発信事業

令和3年度から令和5年度末まで実施する「現代陶芸魅力発信事業」は、前述の陶製狛犬の移設展示や若手作家の現代陶芸作品展示を行い、それらを活用した教育普及活動を実施し、特に若年層に向けて広く陶磁作品の魅力をするものである。

令和4年度は本事業の2年目にあたる。本事業のうち陶製狛犬を題材にした取り組みである「リ・デザイン・狛犬プロジェクト」の掲げる、「陶製狛犬の魅力を“より多くの人に”、“よりしっかりと”、“より驚きとともに”感じていただきたい」という三つのねらいをさらに達成すべく、①狛犬とめぐるナイトミュージアムとその関連事業、及び②陶製狛犬の制作体験を実施した。

### ① 「狛犬とめぐるナイトミュージアム」とその関連事業

令和3年度に当館本館1階ロビーにおいて展示披露した陶製狛犬コレクション展示は、当館の新たなランドマークとなった。この魅力を、若年層や家族連れに向けて一層周知させるために、近年注目を集める演出方法であるプロジェクションマッピングの制作と上映、およびナイトミュージアムを組み合わせたイベントを開催した。

#### 「狛犬とめぐるナイトミュージアム」

イベント監修クリエイターとして河村陽介氏（NODE-Lab）を迎え、中部大学コミュニケーション学科河村ゼミ並びに名古屋産業大学河村ゼミの協力を得て、本館1階ロビー狛犬展示とその周辺において、大型のプロジェクションマッピング作品を制作し上映した。また、同時に本館2階常設展示各所において、小型のプロジェクションマッピングを用いた演出を行い、参加者が歩いて演出を見学するとともに、学芸員の解説を楽しめる内容とした。

日 時	8月26日（金）、27日（土）、28日（日） 各日とも 19:00—20:30
会 場	本館1階ロビー狛犬展示と周辺、 本館2階常設展示
参加者数	8月26日（金）43人 27日（土）77人 28日（日）40人 ※27日（土）は、18:00から「瀬戸子供太鼓こまいぬ座」の演奏会を合わせて実施



参加者募集チラシ

#### 「狛犬とめぐるナイトミュージアム」記録映像制作と公開

上記のイベントを動画記録し、見応えある記録映像作品として編集したうえで公開した。

公開日	12月7日（水）
公開媒体	愛知県陶磁美術館公式 YouTube 「愛陶チャンネル」 愛知県陶磁美術館公式 Twitter 及び Instagram

## ② 狛犬制作体験事業

当館の学芸員と陶芸指導員が共同して、当館ならではの陶製狛犬の制作体験事業を複数立案し実施した。若年層に向けて親しみやすいテーマで、あるいは陶芸ファンに向けて深掘りしたテーマでといったように多様なテーマ設定を行うため、復元古窯焼成、特別展、近隣施設等とのコラボレーション企画という形をとった。

### ②-1 特別講座「瀬戸の陶製狛犬に迫る」

日 時	①「瀬戸の陶製狛犬とは」(講義) 7月23日(土)13:30-15:30 ②深川神社宝物殿見学(見学) 8月27日(土)13:30-15:30 ③狛犬の制作(作陶) 9月24日(土)10:30-15:30 ④狛犬の制作(絵付・施釉) 10月15日(土)13:30-15:30 ⑤リ・デザイン・狛犬+(展示) 11月22日(火)-12月18日(日)
会 場	①陶芸館 ②深川神社(瀬戸市) ③④陶芸館 ⑤本館1階ロビー
講 師	①主任学芸員 小川裕紀 ②二宮あづさ氏(深川神社) ③④⑤陶芸指導員 岩渕 寛
参加人数	①22人 ②23人 ③24人 ④24人 ⑤24人



参加者募集チラシ

### ②-2 愛知県陶磁美術館×体感！しだみ古墳群ミュージアム「祈りのかたち ハニコマづくり」

体感！しだみ古墳群ミュージアムとのコラボレーション企画として実施した。埴輪と狛犬は、作られた時代も土や焼き方も異なるものの、「人々の祈りを託されたやきもの=祈りのかたち」という共通点がある。これらをまとめて「ハニコマ」と愛称をつけて呼びつつ、とくに家族連れや若年層が楽しみながら学べるイベントとした。

実施日	①狛犬の見学 令和5年3月4日(土) ②古墳群見学&ハニコマづくり 令和5年3月18日(土)
会 場	①愛知県陶磁美術館本館 ②体感！しだみ古墳群ミュージアム
講 師	①学芸員 佐久間真子、鮫島由佳 ②服部哲也氏、中野耕司氏(NPO 法人古代瀬波の里・文化遺産ネットワーク) 陶芸指導員 岩渕 寛、清水美香子
参加人数	①18人 ②21人



参加者募集チラシ

## ②-3 「自然の美しさに心を馳せる—タイルに和と洋の動物を描く」

特別展「アーツ・アンド・クラフツとデザイン」とのコラボレーション企画。特別展で展示紹介されている様々な西洋の動植物モチーフと、中国や朝鮮半島から伝わった東洋の動物の表現が反映されている陶製狛犬の対比に注目した。

当館学芸員及び陶芸家の講師の案内のもと各展示を觀賞し、タイルに化粧土を用いて絵付けを行い、自然の美しさに心を馳せた自分なりの表現で描き、楽しむ内容とした。

実施日	3月11日(土) 13:00-16:00
会場	本館、陶芸館
講師	石川理恵氏(陶芸家)
参加人数	20人



講師作品

## 11 魅力向上推進事業

### 大型サイン設置

通行する車両からの視認性を向上させ、認知度を高めることを目的として、陶磁美術館の入り口である県道209号(愛・地球博記念公園瀬戸線)沿いに、大型サイン(陶磁美術館の名称・ロゴ等)を設置した。令和3年度に策定した“分かりやすく、見るだけでワクワクする、質の高い案内表示”として、新たなデザインプランを効果的に披露・周知した。



県道209号沿いに設置した大型サイン

## 12 広報・宣伝活動

当館では、「愛知県陶磁美術館条例」で掲げられた陶磁文化の振興等の目的を達成するため、県内外の多くの人々に館の魅力を伝え、来館を呼び込むべく広報宣伝業務を行っている。職員による公式 SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）アカウントの運営をはじめ、オンライン上での広報手法を取り入れるなど、各種取り組みを実施した。

### (1) 陶磁美術館魅力発信事業：陶磁美術館公式 SNS の運営

「陶磁美術館 SNS アクションプラン」に基づき、陶磁美術館公式 SNS（Twitter・Instagram・Facebook・YouTube）の運営を行った。

#### 陶磁美術館公式 SNS の概要

媒体名	運用体制（令和 3 年 1 月以降）
Twitter（平成 30 年度開始）	休館日を除く毎日 1 度投稿。（臨時投稿も可） 館職員 24 名、文化芸術課職員 1 名による交代制。
Instagram（平成 30 年度開始）	3 日に 1 度投稿（臨時投稿も可） 職員 10 名による交代制。 令和 3 年度から広告も出稿（下記 12 (3) 参照）
Facebook（平成 24 年度開始）	Instagram と連動させ同時投稿を行う。
YouTube（平成 24 年度開始）	広報宣伝ツールとしてではなく、主に陶芸館事業における動画教材の公開ツールとして活用。

※開設当初は、平成 23 年度実施の広報委託事業「やきもの PR 隊」の公式 Facebook 及び YouTube として運用開始。その後活動終了に伴い当館公式へ移行。

### (2) 広報印刷物の製作及び設置依頼

東海地域を中心に日本全国の美術館・博物館や、図書館等の文化施設、観光施設、イベントなどにポスター、チラシを送付し、設置以来を行った。主要な広報先などを随時整理し、より効果的な発送計画を立てるなどの工夫を行っている。

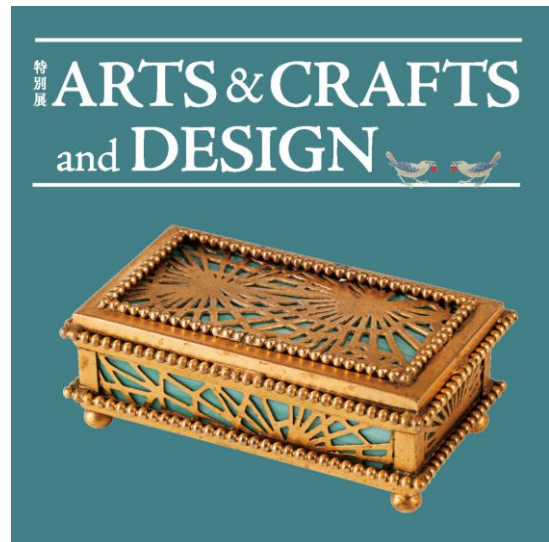
### (3) 公式 WEB ページの運営

愛知県陶磁美術館の施設案内、所蔵品紹介、展覧会、イベント情報などを掲載し、利用者に向けて、適時に情報提供を行った。また、Coubic by STORES による陶芸体験予約を開始した。

### (4) プレスリリース掲載サイトの利用

#### Instagram 広告の概要

広報テーマ	配信期間
企画展「酒のうつわーその美、こだわり…」	4 月 1 日（金）－6 月 30 日（木）
特別展「ホモ・ファーベルの断片ー人とのづくりの未来ー」	6 月 26 日（日）－9 月 26 日（月）
特別展「平安のやきものーその美、うつろいゆく」	10 月 9 日（日）－12 月 9 日（金）
特別展「アーツ・アンド・クラフツとデザインーウィリアム・モリスからフランク・ロイド・ライトまで」	令和 5 年 1 月 8 日（日）－3 月 8 日（水）



Instagram 広告 (左: 「酒のうつわ」 右「アーツ・アンド・クラフツとデザイン」)

### PRTIMES 出稿の概要

広報テーマ	配信日
国際芸術祭「あいち 2022」連携企画事業 「ホモ・ファーベルの断片—人とのものづくりの未来—」	7月7日(木)
特別展「アーツ・アンド・クラフツとデザイン—ウィリアム・モリスからフランク・ロイド・ライトまで」	令和5年1月23日(月)

### (5) その他の有料広告

媒体名	掲出内容
リニモ駅構内広告	特別展及び企画展の B1・B2 版ポスターを藤が丘、長久手古戦場、愛・地球博記念公園、陶磁資料館南、八草の 5 駅に掲出。
リニモ車内放送	陶磁資料館南での下車アナウンスの際に、施設情報を放送。
ナゴヤアートニュース 掲載	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4-5月号: 企画展「酒のうつわ」展</li> <li>・6-7月号: ホモ・ファーベルの断片展</li> <li>・8-9月号: ホモ・ファーベルの断片展</li> <li>・10-11月号: 平安のやきもの展</li> <li>・12-1月号、2-3月号: アーツ・アンド・クラフツとデザイン展</li> </ul>
ラジオサンキュー 放送及び出演	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別展、企画展、各種イベントの紹介(毎週水曜日1分枠)</li> <li>・毎月第4木曜日の生放送出演</li> </ul>

## 13 事業活性化の取組

### (1) 陶磁美術館の活性化計画（令和3年度～5年度）

平成30（2018）年度、平成31/令和元（2019）年度と「陶磁美術館の活性化」が「しなやか県庁創造プログラム推進プロジェクトチーム」における重点項目となった。

そこで検討した「SNSを活用した効果的な情報発信」「陶芸館の利用促進」「展示事業の充実」の三つの取組を主な柱として、これを具体化し、施設の活性化に取り組むため、「行動目標」と「数値目標」からなる計画を策定した。

### (2) 令和4年度の「取組」及び「行動目標」

#### ① 取組1 SNSを活用した効果的な情報発信

##### 行動目標1 魅力発信検討会議の実施

- ・魅力発信検討会議において専門家から提案されたアクションプランに基づき、陶磁美術館全体の魅力をSNSツールの特性に応じた内容で効果的に発信。（令和2年度から）

#### ② 取組2 陶芸館の利用促進

##### 行動目標2 団体割引制度や後払い制度の実施

- ・施設利用料の改定、団体利用における割引制度を導入（令和3年4月から）
- ・旅行会社の後払い制度（陶芸館クーポン）を導入（令和3年4月から）

##### 行動目標3 オンライン予約制度の検討

- ・作陶体験のインターネット予約申込みを実施（令和2年度から）
- ・上記予約枠を拡大（令和3年4月から）

##### 行動目標4 手軽な作陶コースの開設

- ・初心者向けの「はじめての陶芸館」を開設し、毎月開催している。（令和2年度から）

#### ③ 取組3 展示事業の充実等

##### 行動目標5 現代陶芸魅力発信事業の実施

- ・本館ロビーに設置した狛犬インスタレーション展示と本館ロビー全体に映像を照射して、光と音の演出でプロジェクションマッピングをナイトミュージアム開催に合わせて実施した。（令和4年8月）
- ・狛犬インスタレーション展示に関連した、エドευケーター等による鑑賞指導や作陶指導を合わせたイベントを実施した。（8月～令和5年3月）



プロジェクションマッピングの様子

### 行動目標 6 魅力向上推進事業の実施

- ・敷地内外・施設内の案内表示の統一的なデザイン及び設置場所を令和3年度に検討。
- ・案内表示デザインプランに基づき、案内表示を設置している。（令和4年度は、県道209号線沿いの西側入口付近に8メートルの高さの案内看板を設置）

### 行動目標 7 南館展示内容等の検討

- ・南館1階の＜愛知のやきもの＞展示をリニューアルし、産業陶磁の一部を本館に移設。

### 行動目標 8 常設展示の見直し

- ・本館の常設展示内容について、より魅力的な内容となるよう見直し検討をする。（令和3年度から）

## (3) 評価基準

取組	評価基準（数値目標）	令和4年度	令和3年度	令和2年度
① SNS等を活用した効果的な情報発信	インスタグラムフォロワー数 （令和5年度：1,500人）	3,787人	2,612人	1,405人
	ツイッターフォロワー数 （令和5年度：1,200人）	2,359人	1,707人	1,115人
② 陶芸館の利用促進	陶芸館の団体利用者数 （令和5年度：6,600人）	4,954人	7,669人	3,674人
	陶芸館関連イベントの開催数 （令和5年度：20回/年）	30回	32回	9回
③ 展示事業の充実	来館者数 （10万人/年）	76,674人	81,282人	49,468人
	展覧会アンケートによる満足度調査（90%以上）	85.2%	89.0%	86.8%

## 14 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について

令和4年度は、「陶磁美術館の新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に基づき、館内の対策を実施した。令和5年3月31日現在の概要は、以下の通りである。

### (1) 館内の対策

- ① 受付等適所に手指消毒設備を設置する。
- ② 受付カウンター、ソファ、階段手すり、ロッカー、トイレなど手が触れる箇所の清掃、消毒。
- ③ 浄水器の使用を停止する。
- ④ 受付(観覧券購入列)の間隔を一定距離確保するため、1m程度空けて並ぶ位置表示を設ける。
- ⑤ ロビー等に設置するソファは、間隔を広げて設置する。長椅子などについては、間隔を空けて座るように紙面貼付する。
- ⑥ 各展示室は密集しないように人と人との間隔を確保するように注意を促して、収容定員の範囲内で許可する。
- ⑦ 展示室内の展示ケース、パネル等に手を触れないように注意案内を表示する。
- ⑧ 展示説明室の利用は、ラウンジを併せて94名(展示説明室54名、ラウンジ40名)とする。地下講堂は、人と人との間隔を確保するため、収容定員の6割程度とする。  
(定員218名中130名程度)
- ⑨ 本館・南館・西館・陶芸館(屋外を除く)での飲食は、展示説明室に限り許可する。
- ⑩ 展示室内、ロビーなど館内での大声での会話を控えるよう案内表示し注意を促す。
- ⑪ 看視員は、上記⑤から⑩について、随時看視し、必要に応じて来館者に協力をお願いする。
- ⑫ 図書室の閲覧を許可する。許可時に3密(密閉・密集・密接)とならないよう周知する。
- ⑬ 陶芸館実習室での受入れは3密とならないよう定員の半数程度とし、人数制限内で当日の受入れも可とする。
- ⑭ 陶芸館では館内の換気の徹底を行うとともに、ロビー及び実習室内(机、ろくろ)の消毒を行う。
- ⑮ 陶芸館での食事は禁止するが、熱中症対策等を考慮し、お茶等の飲用は許可する。

### (2) 職員及び館内従事者の主な対策

- ① スタッフのマスク着用は個人の主体的な選択を尊重し、着用は個人の判断とする。ただし、陶芸体験指導やギャラリートーク等、対面で会話を行う際の職員はマスク着用とする。
- ② 出勤前に毎日検温し、各自で記録する。

### (3) 来館者への対応

WEBページ及び館内の掲示板等に、次のとおり来館者向けの注意案内を行う。

皆様に安心してご覧いただけるよう、ご理解とご協力くださいますようお願いいたします。

- 発熱、咳等風邪症状のあるお客様は入館をご遠慮ください。
- 多人数での来館は分散入室などをお願いする場合があります。  
(団体でのご利用は事前に館までご相談ください)
- 発熱、咳等風邪症状のあるお客様は入館をご遠慮ください。
- 館内(展示説明室・ラウンジを除く)での飲食を禁止いたします。
- 展示室内では、展示ケースやパネル等にお手を触れないようご注意ください。
- 展示室内を始めロビーなどでは、ソーシャルディスタンスに気をつけ、会話はなるべくお控えください。
- お客様ご自身でご来館日時の記録をお願いいたします。  
当館職員に感染者が発生しクラスターが確認された際は、またご来館者の感染が確認できた場合には、当館WEBページでお知らせいたします。
- 陶芸館の利用は予約システム([https://coubic.com/aitou\\_tougeikan](https://coubic.com/aitou_tougeikan))又は当日の受付となります。  
電話による予約は受け付けていません。学校団体による受付詳細は、  
[https://www.pref.aichi.jp/touji/use\\_guidance/dantai\\_yoyaku.html](https://www.pref.aichi.jp/touji/use_guidance/dantai_yoyaku.html) をご覧ください。

### Ⅲ 参考資料

#### 1 組織及び事務分掌

##### (1) 組織

愛知県行政組織規則（抜粋）

（陶磁美術館）

第 19 条第 1 項 愛知県陶磁美術館に次の課を置く。

総務課	学芸課
-----	-----

2 前項の各課の分掌事務は、下記のとおりとする。

総務課

- (1) 文書及び公印の管守に関すること。
- (2) 職員の人事及び福利厚生に関すること。
- (3) 予算、会計及びその他庶務に関すること。
- (4) 建物、附属設備及び物品の保全管理に関すること。
- (5) 陶芸実習室及び展示室の利用に関すること。
- (6) その他学芸課の主管に属さないこと。

学芸課

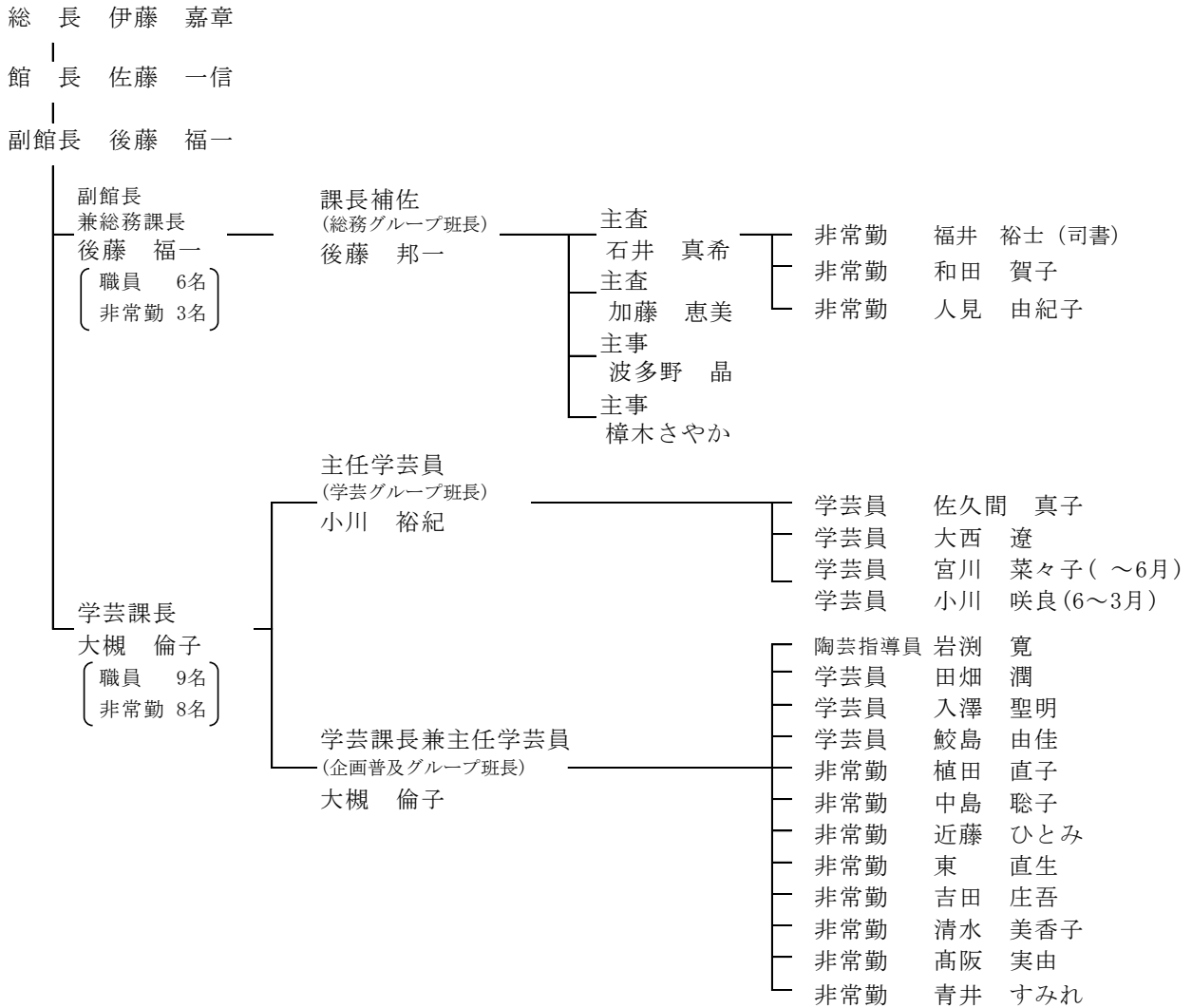
- (1) 陶磁器及び陶磁器に関する資料の収集、保存及び展示に関すること。
- (2) 陶磁器及び陶磁器に関する資料の調査研究に関すること。
- (3) 陶磁器に関する知識の向上及び普及に関すること。
- (4) 陶磁器に関する資料の刊行その他広報に関すること。

##### (2) 職員等定数（令和 4 年度）

職員定数 16 名 現員数 16 名（正規 16）

非常勤職員数 12 名 現員数 12 名（総長を含む）

(3) 組織図 (令和4年度)



2 決算額 (令和4年度)

(単位:千円)

歳 入		歳 出	
陶磁美術館使用料	27,102	職員給与	111,535
観覧料収入	14,975	管理事務費 〔光熱水費 業務委託 施設維持管理費〕	218,514
行政財産使用料	624		
実習室等使用料	11,503		
諸収入	163,681	事業費 〔展覧会開催費 普及啓発事業費〕	81,146
宝くじ収入	152,000		
助成金等収入	11,681		
国庫支出金	7,946	施設設備整備費	78,430
文化振興基金繰入金	1,947		
県債	105,000		
一般財源	183,949		
歳入合計	489,625	歳出合計	489,625

### 3 愛知県陶磁美術館運営会議（令和4年度）

#### （1）会議開催

日 時 令和4年8月2日（火）午後2時～4時  
 出席委員 赤田委員、安藤委員、伊藤（保徳）委員、伊藤（嘉章）委員、太田委員、木藤委員、倉地委員、柴垣委員、柴田委員、高瀬委員、辻委員、中野委員

#### （2）陶磁美術館運営会議開催要領

（目的）

第1条 愛知県陶磁美術館（以下「美術館」という。）の円滑かつ適正な運営に資するため、愛知県陶磁美術館運営会議（以下「運営会議」という。）を開催する。

（構成員）

第2条 運営会議の運営委員は、次の各号に掲げる者とし、愛知県陶磁美術館長（以下「館長」という。）が依頼する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 陶芸作家
- (3) 県関係者
- (4) その他館長が必要と認める者

2 運営委員の任期は2年とし、補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。

（協議事項）

第3条 運営会議は、次の事項について協議する。

- (1) 美術館の運営に関すること。
- (2) 常設展、企画展及び普及活動等に関すること。
- (3) その他必要と認める事項

（座長等）

第4条 運営会議に座長を置く。

2 座長は、愛知県陶磁美術館総長とする。

3 座長は、運営会議を主宰する。

4 座長に事故があるときは、座長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

（顧問）

第5条 運営会議に顧問を置くことができる。

（運営会議）

第6条 運営会議は座長が招集する。

2 運営会議は、原則として公開するものとする。ただし、愛知県情報公開条例（平成12年愛知県条例第19号）第7条に規定する不開示情報が含まれる事項に関して調査検討等を行う場合又は運営会議を公開することにより会議の適正な運営に著しい支障が生ずると認められる場合であつて、座長が運営会議の一部又は全部を公開しない旨を決定したときは、この限りでない。

3 会議録及び会議資料は、5年間保存する。

（事務）

第7条 運営会議の事務は、美術館において処理する。

（その他）

第8条 この要領に定めるもののほか、運営会議に必要な事項は、別に定める。

#### （3）愛知県陶磁美術館運営会議運営委員

（任期 令和3年4月1日～令和5年3月31日）

区 分	氏 名	職 名
学識経験者	柴垣 勇夫	元愛知淑徳大学教授
	長井 千春	愛知県立芸術大学美術学部長
	小林 牧	東京国立博物館名誉館員・客員研究員
陶芸作家	太田 公典	瀬戸陶芸協会前会長
	柴田 正明	常滑陶芸作家協会会長
	安藤 工	公益財団法人美濃陶芸協会会長
県関係者	おおたけ りえ	愛知県議会県民環境委員会委員長
	伊藤 嘉章	愛知県陶磁美術館総長
その他館長が必要と認める者	伊藤 保徳	瀬戸市長
	高瀬 健一	一般社団法人愛知県観光協会 元国内誘客宣伝部長
	辻 孝二郎	INAX ライブミュージアム元館長
	中野 昭雄	愛知県陶磁器工業協同組合理事長
	赤田 由起江	愛西市佐屋中学校校長（小中学校長会推薦）

※運営委員の氏名は令和4年6月1日現在

#### 4 愛知県陶磁美術館資料委員会（令和4年度）

##### （1）会議開催

日 時 令和4年11月28日（月） 午後2時～4時  
出席委員 荒川委員、唐澤委員、竹内委員、長井委員

##### （2）資料収集の方針及び関連例規

###### ①方針

日本陶磁史の全体像を系統的に理解できるよう、全国の主要な窯業地の陶磁作品、海外の代表的な窯業地の陶磁作品、国内外の現代陶芸、陶磁器産業資料及び窯業関連資料の収集を図ることを基本方針とし、当面の収集目標を次のとおりとしている。

###### ア 日本陶磁の優品

日本陶磁史において、画期をなす時代の美術的、歴史的に優れた作品の収集に努める。特にこの地域で花開いた猿投窯、瀬戸・渥美・常滑窯を中心に、古代・中世の重要文化財級の優品並びに桃山時代のバラエティに富んだ茶陶の優品、近世の名工や近代・現代の人間国宝等の代表作の収集に努める。

###### イ 外国陶磁の優品

海外の代表的な窯業地の美術的、歴史的に優れた作品の収集に努める。

###### ウ 現代陶芸作品

国内外を代表する近代・現代の陶芸作品並びに当地域を中心とする中部地方の代表的陶芸作家の作品の収集に努める。

###### エ 陶磁史の基礎的資料

時代別・産地別に特徴を示す日本陶磁並びにこれに関連する外国陶磁資料の収集に努め館蔵品の充実を図る。

###### ②関連例規

- ・ 愛知県陶磁美術館資料委員会開催要領
- ・ 愛知県陶磁美術館資料購入要領
- ・ 美術品等取得基金管理要綱
- ・ 愛知県陶磁美術館資料取扱要領

##### （3）愛知県陶磁美術館資料委員会委員

（任期 令和3年4月1日～令和5年3月31日）

氏 名	職 名
荒川 正明	学習院大学教授
唐澤 昌宏	国立工芸館長
竹内 順一	東京藝術大学名誉教授
出川 哲朗	大阪市立東洋陶磁美術館名誉館長
長井 千春	愛知県立芸術大学美術学部長

## 5 利用者の状況

### (1) 年次別利用者一覧表

(単位：人)

	開館日数 (日)	観覧者	陶芸館	合計	1日平均	累計
昭和53年度	212	53,935		53,935	254	53,935
54年度	292	47,163		47,163	162	101,098
55年度	307	48,867		48,867	159	149,965
56年度	307	49,686		49,686	162	199,651
57年度	306	48,586		48,586	159	248,237
58年度	307	48,108		48,108	157	296,345
59年度	306	49,984		49,984	163	346,329
60年度	305	52,443		52,443	172	398,772
61年度	306	71,882	14,700	86,582	283	485,354
62年度	308	50,287	15,197	65,484	213	550,838
63年度	305	48,046	15,328	63,374	208	614,212
平成元年度	306	53,288	18,781	72,069	236	686,281
2年度	306	44,990	20,745	65,735	215	752,016
3年度	306	40,390	21,465	61,855	202	813,871
4年度	307	39,886	24,643	64,529	210	878,400
5年度	306	27,439	24,413	51,852	169	930,252
6年度	298	77,701	38,983	116,684	392	1,046,936
7年度	307	76,613	51,957	128,570	419	1,175,506
8年度	305	68,831	57,184	126,015	413	1,301,521
9年度	306	58,213	57,725	115,938	379	1,417,459
10年度	307	73,903	53,033	126,936	413	1,544,395
11年度	307	56,076	52,861	108,937	355	1,653,332
12年度	306	43,121	50,644	93,765	306	1,747,097
13年度	306	49,268	44,427	93,695	306	1,840,792
14年度	305	39,898	46,701	86,599	284	1,927,391
15年度	307	43,849	44,030	87,879	286	2,015,270
16年度	308	38,824	36,971	75,795	246	2,091,065
17年度	331	53,294	29,426	82,720	250	2,173,785
18年度	306	41,257	35,534	76,791	251	2,250,576
19年度	308	39,744	35,917	75,661	246	2,326,237
20年度	307	34,782	35,558	70,340	229	2,396,577
21年度	306	37,516	34,464	71,980	235	2,468,557
22年度	306	50,746	35,946	86,692	283	2,555,249
23年度	307	64,859	38,527	103,386	337	2,658,635

	開館日数 (日)	観覧者	陶芸館	合 計	1日平均	累 計
平成24年度	307	60,394	42,281	102,675	334	2,761,310
25年度	305	67,114	41,889	109,003	357	2,870,313
26年度	306	68,702	43,679	112,381	367	2,982,694
27年度	310	50,695	41,350	92,045	297	3,074,739
28年度	306	44,811	34,348	79,159	259	3,153,898
29年度	308	37,173	31,290	68,463	222	3,222,361
30年度	305	46,544	26,900	73,444	241	3,295,805
31年度	307	50,691	25,948	76,639	250	3,372,444
令和 2年度	275	33,615	15,853	49,468	180	3,421,912
3年度	306	60,122	21,160	81,282	266	3,503,194
4年度	306	54,217	22,457	76,674	251	3,579,868
累 計	13,666	2,297,553	1,282,315	3,579,868		

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、4/11～5/17の間（陶芸館は5/31まで）休館

	開館日数 (日)	観覧者	陶芸館	合 計	1日平均	累 計
令和4年 4月	26	2,060	1,393	3,453	133	3,453
5月	27	3,508	2,041	5,549	206	9,002
6月	26	3,392	1,467	4,859	187	13,861
7月	27	3,240	2,356	5,596	207	19,457
8月	26	3,095	2,300	5,395	208	24,852
9月	26	3,232	1,862	5,094	196	29,946
10月	26	2,620	2,187	4,807	185	34,753
11月	26	3,527	2,072	5,599	215	40,352
12月	22	2,771	1,113	3,884	177	44,236
令和5年 1月	23	5,444	1,689	7,133	310	51,369
2月	24	9,246	1,973	11,219	467	62,588
3月	27	12,082	2,004	14,086	522	76,674
令和4年度計	306	54,217	22,457	76,674		

(2) 月別利用者数 (令和4年度)

(単位:人)

区 分	R4年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R5年1月	2月	3月	合 計			
特別展	個人	高・大学生			40	21	12	2	4	4	13	51	98	245		
		一 般			131	313	196	72	164	140	387	1,711	2,207	5,321		
	障害者	高・大学生			0	0	0	0	0	0	0	1	3	4		
		一 般			10	26	24	13	14	19	51	166	227	550		
	団体	高・大学生			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		一 般			0	0	0	0	0	39	20	0	0	59		
	リニモ	高・大学生			3	8	19	0	13	11	18	35	72	179		
		一 般			98	98	119	52	130	94	163	654	1,142	2,550		
	割引者	高・大学生			4	10	10	3	4	1	16	37	72	157		
		一 般			185	335	281	104	265	197	508	1,949	2,252	6,076		
	計	0	0	0	471	811	661	246	594	505	1,176	4,604	6,073	15,141		
	有料観覧者	個人	高・大学生	6	12	5	3								26	
			一 般	161	306	285	55								807	
		障害者	高・大学生	0	1	0	0								1	
一 般			30	16	46	9								101		
団体		高・大学生	0	94	0	0								94		
		一 般	0	22	22	0								44		
リニモ		高・大学生	4	7	5	0								16		
		一 般	97	290	161	32								580		
割引者		高・大学生	2	6	8	1								17		
		一 般	293	519	500	105								1,417		
計		593	1,273	1,032	205	0	0	0	0	0	0	0	0	3,103		
常設展		個人	高・大学生	4	0	3	7	11	2	5	17	5	8	4	5	71
			一 般	82	52	50	148	107	79	277	79	62	156	79	133	1,304
		団体	高・大学生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	一 般		0	0	33	101	0	103	0	20	0	0	34	0	291	
	計	86	52	86	256	118	184	282	116	67	164	117	138	1,666		
クーポン	個人			8					0				15	23		
	団体			0					38				0	38		
	計	0	0	8	0	0	0	0	38	0	0	0	15	61		
パートナーシップ	35	54	91	83	91	55	28	74	83	69	142	159	964			
合計	714	1,379	1,217	1,015	1,020	900	556	822	655	1,409	4,863	6,385	20,935			
無料観覧者	学校行事	小学生	0	86	0	0	0	222	391	358	46	748	454	12	2,317	
		中学生	0	0	0	0	15	0	10	12	0	0	0	0	37	
		高校生	30	0	12	49	59	54	0	0	54	0	65	65	388	
		計	30	86	12	49	74	276	401	370	100	748	519	77	2,742	
	その他	招待券	350	355	632	637	411	764	371	366	341	759	996	2,019	8,001	
		中学生以下	41	95	56	160	226	93	63	31	22	102	220	383	1,492	
		障害者常設展	17	11	14	9	11	4	23	12	72	13	6	12	204	
		企画展観覧者	691	1,148	1,123	770	1,048	915	254	859	726	1,044	2,264	2,832	13,674	
		計	1,099	1,609	1,825	1,576	1,696	1,776	711	1,268	1,161	1,918	3,486	5,246	23,371	
	合計	1,129	1,695	1,837	1,625	1,770	2,052	1,112	1,638	1,261	2,666	4,005	5,323	26,113		
	観覧イベント	217	434	338	600	305	280	952	1,067	855	1,369	378	374	7,169		
	観覧者等合計	2,060	3,508	3,392	3,240	3,095	3,232	2,620	3,527	2,771	5,444	9,246	12,082	54,217		
	陶芸館	中学生以下	中学生以下	293	747	360	563	728	548	898	734	250	870	544	542	7,077
			一 般	915	1,242	1,078	1,560	1,334	1,182	1,088	1,184	809	755	1,087	1,338	13,572
計			1,208	1,989	1,438	2,123	2,062	1,730	1,986	1,918	1,059	1,625	1,631	1,880	20,649	
絵付け		中学生以下	50	26	14	96	139	39	125	84	6	26	251	52	908	
		一 般	116	26	15	137	99	77	76	35	48	38	91	72	830	
		計	166	52	29	233	238	116	201	119	54	64	342	124	1,738	
陶芸館イベント	19	0	0	0	0	16	0	35	0	0	0	0	70			
陶芸館合計	1,393	2,041	1,467	2,356	2,300	1,862	2,187	2,072	1,113	1,689	1,973	2,004	22,457			
総 計	3,453	5,549	4,859	5,596	5,395	5,094	4,807	5,599	3,884	7,133	11,219	14,086	76,674			

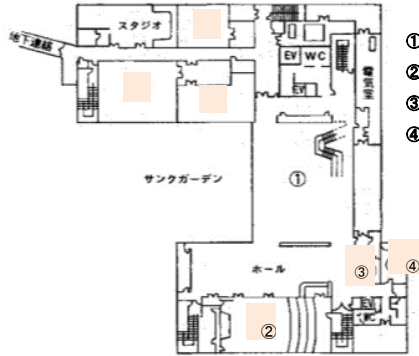
(3) 展覧会別観覧者状況一覧 (特別展・企画展) (平成12年度以降)

年度	展覧会名	会期	開催日数	観覧者数	1日平均
H12	万国博覧会と近代陶芸の黎明	H12.4.8~5.21	38日	7,800人	205人
	加藤舜陶古陶磁コレクション展 —その作品とともに—	H12.5.27~7.9	38	6,444	170
	煎茶とやきもの —江戸・明治の中国趣味—	H12.9.23~11.26	56	10,421	186
13	ドイツ陶芸の100年 —アール・ヌーヴォーから現代作家まで—	H13.4.1~5.20	43	11,082	258
	尾張の茶道具 —瀬戸・常滑の名工たちをめぐって—	H13.9.8~10.28	44	8,135	185
	ルネサンスの精華 マジョリカ名陶展 —イタリア・ファエンツァ国際陶芸博物館所蔵—	H13.11.3~12.24	45	10,103	225
14	アメリカ現代陶芸の系譜 1950-1990 —自由の国のオブジェと器—	H14.4.13~6.30	68	9,396	138
	スイスの陶芸	H14.9.21~11.24	56	7,920	141
	ノベルティ・デザイン —光和陶器・デザインの軌跡—	H15.2.1~3.30	50	6,810	136
15	土と炎の世紀 —ノリタケチャイナと製陶王国の100年史—	H15.4.5~6.8	56	9,019	161
	桃山陶に魅せられた七人の陶芸家 —陶片に学んだ技と美—	H15.6.14~8.24	62	12,175	196
	歴史の風景 —遺跡からのメッセージ—	H15.8.30~11.16	68	7,609	112
16	近代窯業の父 ゴットフリート・ワグネルと万国博覧会展	H16.4.3~6.27	74	6,884	93
	土と炎の芸術 —世界の土器—	H16.7.3~11.7	110	8,909	81
	洛陽の夢 —唐三彩展	H16.11.16~12.23	33	9,400	285
	桃山陶の華麗な世界	H17.3.21~3.31	11	2,432	221
17	ピカソの陶芸 —創造と伝統—	H17.3.21~3.31	11	1,560	142
	桃山陶の華麗な世界	H17.4.1~9.25	178	35,814	201
	ピカソの陶芸 —創造と伝統—	H17.4.1~9.25	178	21,169	119
	土から生み出すかたち 造形の軌跡 加藤清之展	H17.10.29~12.25	50	5,030	101
18	陶器が語る来世の理想郷 中国古代の暮らしと夢 —建築・人・動物—	H18.2.4~3.26	44	6,761	154
	木村定三コレクションの茶陶	H18.4.8~6.18	62	8,870	143
	発掘されたムラと宝 —いにしへの暮らしと技を探る—	H18.6.24~9.24	80	7,372	92
	日本のわざと美 —重要無形文化財とそれを支える人々—	H18.10.7~11.5	26	8,410	323
19	陶磁のこま犬百面相	H18.11.11~H19.1.21	55	6,084	111
	ペルシアのやきもの —8000年の美と伝統—	H19.1.27~3.31	55	8,009	146
	食卓の華 —世界に愛された日本の洋食器100年—	H19.4.7~6.10	56	8,211	147
	うつわ百花繚乱 —尾張の食器文化—	H19.4.7~6.10	92	11,981	130
20	煎茶陶芸の美と伝統 —人間国宝 三代山田常山への道—	H19.10.6~11.25	44	6,818	155
	幻の壺 —本多静雄コレクションの古陶磁—	H19.12.1~H20.2.11	56	5,600	100
	新進陶芸家による「東海現代陶芸の今」	H20.2.16~3.30	38	4,503	119
	窯変の美 —鎌倉・室町の名陶—	H20.4.5~6.1	50	7,757	155
21	李吉秀コレクション —韓国、日本、中国、東南アジアのやきもの—	H20.4.12~6.1	44	6,363	145
	中国古代の建築と暮らし —茂木計一郎コレクション—	H20.6.7~8.17	62	6,032	97
	世界の現代陶芸 —愛知県陶磁資料館コレクション—	H20.8.23~10.19	50	4,906	98
	海のシルクロードの出発点”福建” —沈没船、貿易都市、陶磁器、茶文化—	H20.10.25~H21.1.12	62	7,552	122
22	やきもの収集の旅 —愛知県陶磁資料館コレクションの軌跡—	H21.1.17~3.29	62	6,072	98
	生誕90年 河本五郎展 5人の帝室技芸員陶芸家の作品展	H21.4.4~5.31	50	6,308	126
	美在掌中 中国の小さなやきもの	H21.6.6~7.26	44	5,299	120
	2009 アジア現代陶芸 —アジア(日・中・韓・台湾)の現代陶芸—	H21.8.1~9.27	50	3,347	67
23	志野・黄瀬戸・織部のデザイン/桃山時代のやきものに関する展示	H21.10.3~11.29	50	8,081	162
	ジャパニーズ・デザインの挑戦 産総研に残る試作とコレクション	H21.12.5~H22.3.28	92	7,079	77
	名古屋の楽焼 八事窯 中村道年へのあゆみ	H22.4.3~6.27	74	8,909	120
	1000年前のハローワーク —見て触れて、親子で楽しい愛知の考古学—	H22.7.3~9.26	74	7,131	96
24	帝室技芸員のわざと美 明治の人間国宝 —清風興平・富川香山から板谷波山まで—	H22.10.2~11.28	50	8,047	161
	陶芸家・辻清明の眼 —作品とコレクション—	H22.12.4~H23.1.30	43	4,506	105
	阿蘭陀焼: あこがれのプリントウェア —海を渡ったヨーロッパ陶磁—	H23.2.5~3.27	44	4,930	112
25	古陶の譜 中世のやきもの —六古窯とその周辺—	H23.4.2~5.22	44	5,315	121
	アンデス・メソアメリカ文明展 —古代の暮らしと聖なる動物たち—	H23.5.28~7.31	56	9,218	165
	東海現代陶芸 —思考する新世代—	H23.8.6~10.2	50	5,180	104
	開窯300年 マイセン 西洋磁器の誕生	H23.10.8~12.11	56	13,669	244
日本人の愛した中国陶磁 龍泉窯青磁展	H24.1.21~3.31	61	9,853	162	

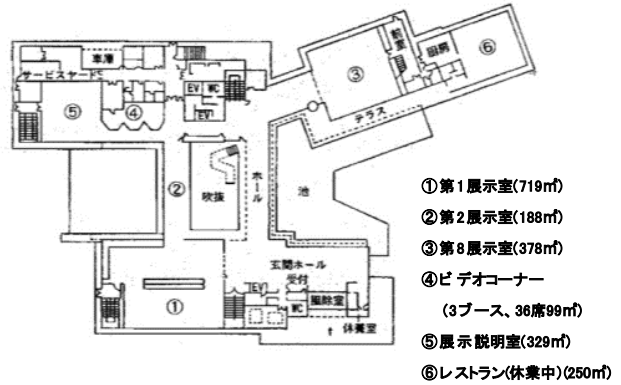
年度	展覧会名	会期	開催日数	観覧者数	1日平均
H24	彫刻を聞き、土を語らせる 西村陽平展／西村陽平が出会った子どもたち展	H24. 4. 7～5. 27	44 日	4,324 人	98 人
	華麗なる美の競演 初期伊万里・柿右衛門・鍋島	H24. 6. 2～7. 22	44	9,825	223
	戦国のあいち 一信長の見た城館・陶磁・世界—	H24. 7. 28～9. 30	56	6,846	122
	アール・デコ 光のエlegance	H24. 10. 6～12. 24	69	10,615	154
	陶家の蒐集と制作 I 清水六兵衛家—京の華やぎ—	H25. 1. 12～3. 24	62	9,366	151
25	茶人のあそび心 形物香合番付の世界	H25. 4. 20～5. 26	32	5,757	180
	—日本・中国・韓国— 陶磁の名品、ここに集う	H25. 6. 1～7. 28	50	11,122	222
	2013アジア現代陶芸 —新世代の交感展	H25. 8. 3～9. 29	50	3,813	76
	泥象 鈴木治の世界	H25. 10. 12～12. 23	63	5,956	95
モダニズムと民藝 北欧のやきもの:1950's-1970's	H26. 1. 11～3. 23	62	11,734	189	
26	桃山・江戸の華やぎ 古唐津・古武雄	H26. 4. 12～6. 15	56	7,792	139
	魅惑の陶製人形～ノベルティ、人物備、はにわ、土人形、フィギュリン～	H26. 6. 21～8. 17	50	9,702	194
	高麗・李朝の工芸 —陶磁器、漆器、金属器—	H26. 8. 23～10. 26	56	8,619	154
	川喜田半泥子物語 —その芸術的生涯—	H26. 11. 1～12. 26	48	8,346	174
	愛知ノート —土・陶・風土・記憶—	H27. 1. 10～3. 15	56	5,072	91
27	耀きの静と動 ポヘミアングラス	H27. 4. 11～5. 24	38	8,289	218
	鯉江良二展 —土に還る それ以前・それ以後—	H27. 6. 6～8. 2	50	4,887	98
	ギリシア陶器:「古典」の誕生 —アッティカ、ローマからセーヴル、ピカソまで—	H27. 8. 8～10. 12	59	6,704	114
	タイル 近代都市の表面	H27. 10. 17～12. 23	58	4,633	80
煎茶 —山本梅逸と尾張・三河の文人文化—	H28. 1. 16～3. 27	62	6,473	104	
28	沖縄の工芸 —琉球ガラス・陶磁器・染織・琉球漆器—	H28. 4. 16～6. 19	56	6,371	114
	弥生への旅 —朝日遺跡 2000年前のキャラヴァンサライ—	H28. 7. 2～8. 28	50	5,084	102
	人が大地と出会うとき	H28. 9. 10～10. 23	38	4,224	111
	くらしをうつす —郷土の土人形展—	H28. 11. 3～12. 4	28	2,101	75
	ヘレンド —皇妃エリザベートが愛したハンガリーの名窯—	H29. 1. 7～3. 26	68	7,914	116
29	瓦万華鏡 ～社会、地域、心をつなぐ～	H29. 4. 15～6. 25	62	4,159	67
	今右衛門の色鍋島	H29. 7. 1～8. 27	50	8,535	171
	2017アジア現代陶芸展	H29. 8. 31～10. 22	46	2,799	61
	染付:青繪(あおえ)の世界	H29. 11. 3～H30. 1. 14	56	4,686	84
30	瀬戸陶芸の黎明	H30. 4. 14～6. 17	56	5,124	92
	知られざる古代の名陶 猿投窯	H30. 6. 30～8. 26	50	5,370	107
	THE YUNOMI 湯のみ茶碗	H30. 9. 1～10. 21	44	3,962	90
	瀬戸—かく焼き繋ぎ	H30. 10. 27～12. 16	44	3,819	87
	愛知県陶磁美術館の受贈外国陶磁コレクション選	H31. 1. 12～3. 24	62	4,026	65
31/ R1	黄金の地と南の海から —東南アジア陶磁コレクション—	H31. 4. 13～R1. 6. 16	57	4,755	83
	インダス文明への道 —栗田功コレクションを中心に—	R1. 6. 29～8. 18	44	5,840	133
	川勝コレクション鐘溪窯 陶工・河井寛次郎展	R1. 8. 24～10. 20	50	6,329	127
	愛知やきものセレクション —県指定文化財の陶磁器—	R1. 11. 2～12. 22	44	3,593	82
	木村定三コレクションの文人趣味と煎茶 —こだわりの遊び—	R2. 1. 11～3. 22	62	4,311	70
R2	異才 辻晋堂の陶彫 —「陶芸であらざる」の造形から—	R2. 5. 19～6. 21	30	2,028	68
	The 備前 —土と炎から生まれる造形美—	R2. 8. 8～9. 27	44	4,634	105
	YAYOI・モダンデザイン —ニッポンの美、ここに始まる—	R2. 10. 10～12. 13	56	4,905	88
	日本陶磁の源・陶邑窯 —猿投窯の前に立ちはだかった巨大な壁—	R3. 1. 9～3. 21	62	4,381	71
3	海を渡った古伊万里 ～ウィーン、ロースドルフ城の悲劇～	R3. 4. 10～6. 13	56	6,689	120
	水滴 小さき陶芸 —大島国康コレクションを中心に—	R3. 6. 26～9. 26	80	5,203	65
	華*花 —四季の花と中国陶磁史—	R3. 10. 9～12. 12	56	6,438	115
	昭和レトロモダン —洋食器とデザイン画	R4. 1. 8～3. 21	63	6,402	101
4	酒のうつわ—その美、こだわり…	R4. 4. 9～7. 3	75	5,191	69
	ホモ・ファーベルの断片—人ともものづくりの未来—	R4. 7. 16～10. 2	68	4,929	72
	平安のやきもの—その姿、うつろいゆく	R4. 10. 29～R5. 1. 15	60	4,103	68
	アーツ・アンド・クラフツとデザイン ウィリアム・モリスからフランク・ロイド・ライトまで	R5. 1. 28～3. 26	50	16,092	322

## 6 施設の規模と配置

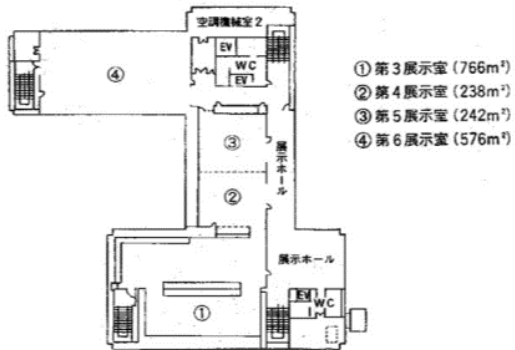
本館 MAIN HALL B1F



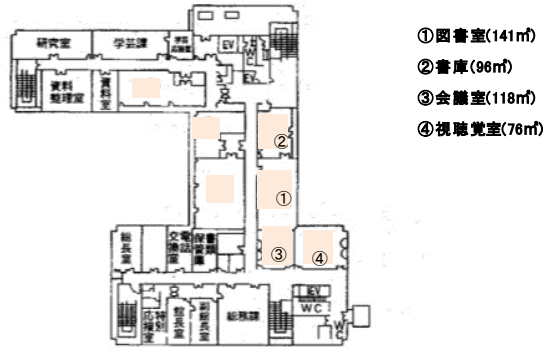
本館 MAIN HALL 1F



本館 MAIN HALL 2F



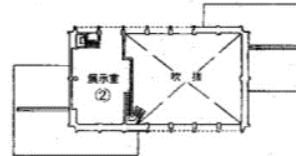
本館 MAIN HALL 3F



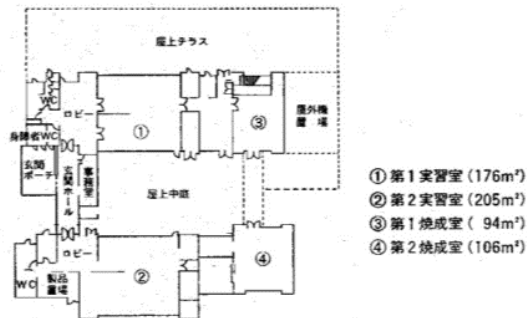
南館 SOUTH HALL 1F



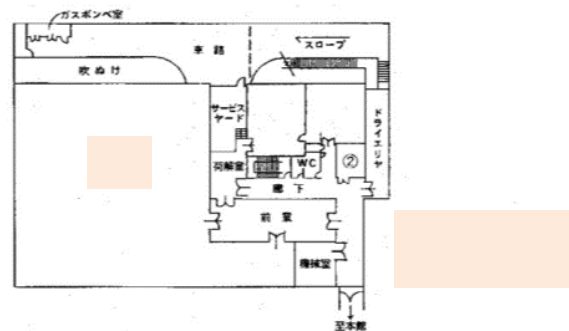
南館 SOUTH HALL 2F



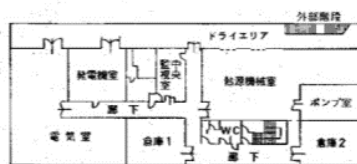
陶芸館 CERAMICS CRAFT STUDIO 1F



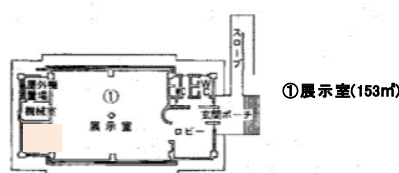
陶芸館 CERAMICS CRAFT STUDIO B1F



陶芸館 CERAMICS CRAFT STUDIO B2F



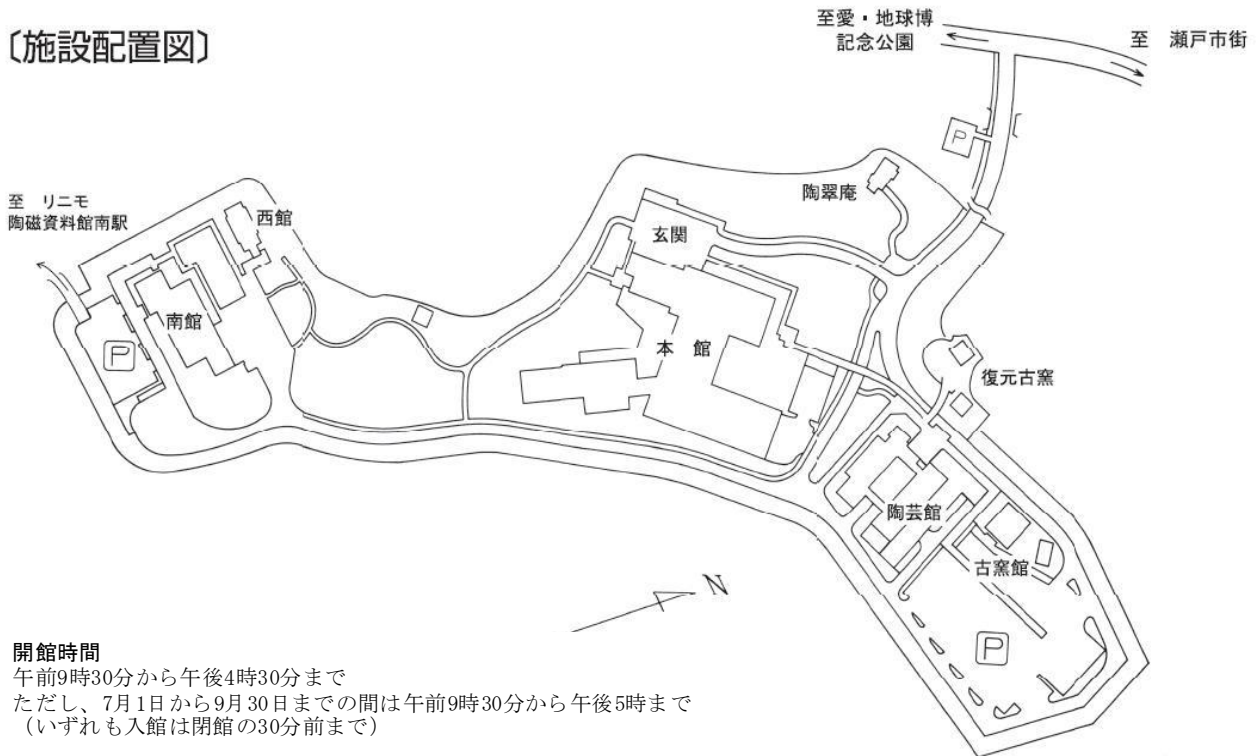
西館 WEST HALL 1F



陶翠庵 TOSUI-AN



## 〔施設配置図〕



### 開館時間

午前9時30分から午後4時30分まで  
 ただし、7月1日から9月30日までの間は午前9時30分から午後5時まで  
 (いずれも入館は閉館の30分前まで)

### 交通機関

リニモ (東部丘陵線) 「陶磁資料館南」 駅下車、徒歩600m  
 自家用車・東名高速道路「名古屋 I C」・名二環「本郷 I C」から  
 瀬戸、長久手、足助方面に約10km  
 ・東名高速道路「日進 J C T」経由、  
 名古屋瀬戸道路「長久手 I C」から足助・瀬戸方面に約5km  
 ・東海環状自動車道「せと赤津 I C」から約7km  
 タクシー 地下鉄東山線・リニモ「藤が丘」駅から約20分  
 名鉄瀬戸線「尾張瀬戸」駅から約15分  
 名鉄バス 名鉄瀬戸線「尾張瀬戸」駅から「愛・地球博記念公園」行き  
 「陶磁美術館」下車 (土・日・休日のみ運行)

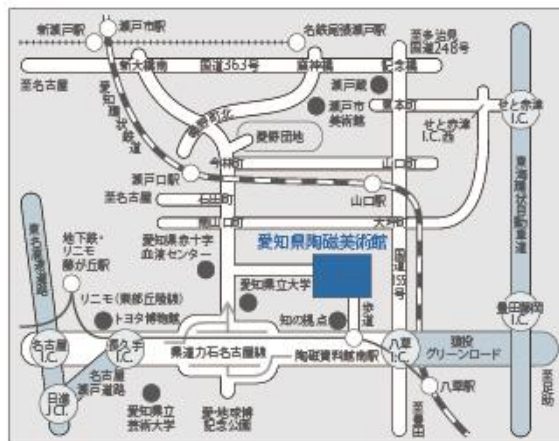
### 休館日

月曜日 (月曜日が休日のときはその直後の平日)  
 12月28日～1月4日

### 観覧料

一般 (個人)	一 般	400円
	高・大学生	300円
	中学生以下	無 料
団体20人以上	一 般	320円
	高・大学生	240円

企画展はその都度定める。



位 置 図

## 7 沿革

昭和 47 年	2 月 10 日	県は、県政 100 年記念事業として基本計画を策定し、具体的建設計画を発表する。建設予定地を瀬戸市大字山口字南山地内に決定する。
	4 月 1 日	愛知県商工部（工業振興課）に「建設係」を設置し、建設事務に当たる。
	6 月 20 日	「愛知県陶磁資料館（仮称）建設会議（構成員 30 人）を設置し、第 1 回会議を開催する。
昭和 48 年	3 月 31 日	瀬戸市大字山口字南山に建設予定地 11 万平方メートル余を買収する。
	6 月 5 日	基本計画を立案・策定する。
昭和 50 年	1 月 22 日	進入路・駐車場造成工事に着工する。
昭和 51 年	1 月 31 日	同上 竣工する。
	12 月 25 日	産業展示棟（南館）建設工事に着工する。
昭和 52 年	4 月 1 日	愛知県陶磁資料館（本館及び付属施設）建設事務が愛知県商工部（工業振興課）から愛知県教育委員会（文化財課）に所管替えとなる。
	12 月 23 日	本館及び付属施設建設工事に着工する。
昭和 53 年	3 月 20 日	産業展示棟（南館）建設工事竣工する。面積 1,620.74 平方メートル。
	3 月 29 日	愛知県陶磁資料館条例（昭和 53 年 3 月 29 日愛知県条例第 7 号）が公布される。
	4 月 1 日	愛知県陶磁資料館（産業展示等）の所管事務が愛知県商工部（工業振興課）から愛知県教育委員会（文化財課）に所管替えとなる。
	5 月 26 日	愛知県陶磁資料館規則（昭和 53 年 5 月 26 日愛知県教育委員会規則第 5 号）が公布される。（昭和 53 年 6 月 1 日施行）
	6 月 1 日	産業展示棟（南館）開館記念式典を挙げる。開館記念特別展「日本の陶磁」同企画展「明治の陶器」開会式
昭和 54 年	3 月 20 日	本館及び付属施設建設工事竣工する。面積 5,703.23 平方メートル。
	3 月 31 日	農地林務部から土地 104,743.00 平方メートルが所管替えとなる。
	4 月 1 日	愛知県陶磁資料館「かい」として発足する。
	7 月 20 日	南館から愛知県青少年公園まで遊歩道竣工する。
	10 月 13 日	本館開館記念式典を挙げる。本館開館記念特別展「東洋の陶磁」開会式
昭和 56 年	3 月 27 日	復元古窯大窯、同 3 連房式登り窯並びに覆屋（面積 99 平方メートル）竣工する。
	11 月 26 日	財団法人東海財団・（株）東海銀行から県民茶室「陶翠庵」の寄贈を受ける。面積 148.23 平方メートル。
昭和 57 年	12 月 4 日	財団法人東海財団から「西館」の寄贈を受ける。面積 232.75 平方メートル。
昭和 58 年	8 月 3 日	皇太子殿下、同妃殿下が当館を御視察になる。
昭和 61 年	3 月 20 日	陶芸実習施設「陶芸館」竣工する。面積 469.74 平方メートル。
	4 月 12 日	陶芸館開館記念式典を挙げる。
昭和 62 年	6 月 11 日	入館者が 50 万人を突破する。
	10 月 9 日	開館 10 周年記念特別展「日本陶磁絵巻」開会式
平成 元年	5 月 31 日	愛知県土地開発基金から土地 60,297.15 平方メートル取得する。
	7 月 1 日	愛知県陶磁資料館拡充整備検討会議設置
平成 2 年	7 月 27 日	皇太子殿下が当館を御視察になる。
	12 月 5 日	増築敷地造成工事（一次）に着工する。

平成 3年	3月 27日	愛知県陶磁資料館規則（昭和 53 年 5 月 26 日愛知県教育委員会規則第 5 号）を廃止する規則が公布される（平成 3 年 4 月 1 日施行）。愛知県陶磁資料館規則（平成 3 年 3 月 27 日愛知県規則第 22 号）が公布される（平成 3 年 4 月 1 日施行）。
	4月 1日	愛知県陶磁資料館の所管事務が愛知県教育委員会（文化財課）から愛知県総務部文化振興局（企画課）に所管替えとなる。
	8月 8日	増築敷地造成工事（二次）に着工する。
	10月 16日	増築工事に着工する。
平成 4年	9月 29日	陶磁資料館古窯上屋（古窯館）建設工事に着工する。
平成 5年	3月 18日	古窯館（南山 8 号窯跡、南山 9 号窯跡）竣工する。面積 344 平方メートル。
	11月 30日	本館、陶芸館増築工事竣工する。面積 12,449.91 平方メートル。
平成 6年	4月 1日	陶芸館増築部分及び古窯館が開館する。
	7月 5日	陶磁資料館完成記念式典を挙げる。完成記念特別企画展「東洋陶磁名品展」内覧会
	7月 6日	本館増築部分が開館する。
	9月 22日	陶磁資料館完成記念特別企画展「国際現代陶芸展」開会式
平成 10年	4月 4日	開館 20 周年記念特別展「耀州窯展」開会式
	10月 3日	開館 20 周年記念特別展「日本の三彩と緑釉」開会式
	10月 11日	入館者が 150 万人を突破する。
平成 12年	4月 1日	陶磁資料館の所管事務が組織再編により愛知県総務部文化振興局（企画課）から愛知県県民生活部（文化学事課）に変更になる。
平成 15年	4月 1日	愛知県教育委員会から博物館法第 29 条に規定する博物館に相当する施設として指定を受ける。
	6月 10日	皇太子殿下が愛知万博会場を御視察の際、当館を御利用になる。
平成 16年	1月 18日	入館者が 200 万人を突破する。
平成 17年	3月 20日	愛知万博記念特別企画展「桃山陶の華麗な世界」・「ピカソの陶芸—創造と伝統—」合同開会式
平成 18年	4月 1日	陶磁資料館の所管事務が組織再編により愛知県県民生活部文化学事課から愛知県県民生活部文化芸術課に変更になる。
平成 20年	4月 5日	開館 30 周年記念特別企画展「窯変の美」開会式
	10月 25日	開館 30 周年記念「陶磁フェスティバル」、特別企画展「海のシルクロードの出発点“福建”」開会式
平成 22年	7月 3日	本館 2 階常設展・南館常設展リニューアルオープン。「にぎわい創出プロジェクト事業」を実施する。
	8月 13日	入館者が 250 万人を突破する。
平成 24年	12月 21日	愛知県陶磁資料館を愛知県陶磁美術館に改正する条例（平成 24 年 12 月 21 日愛知県条例第 76 号）の一部を改正する条例が公布される（平成 25 年 6 月 1 日施行）。
平成 25年	5月 1日	愛知高速交通「陶磁資料館南駅」へのアクセス遊歩道土地 3,105.12 平方メートルが産業労働部（産業科学技術課）から県民生活部（文化芸術課）に所管替えとなる。
	5月 31日	愛知県陶磁資料館規則を愛知県陶磁美術館規則に改正する規則が公布される。（平成 25 年 5 月 31 日愛知県規則第 33 号、平成 25 年 6 月 1 日施行）。
	6月 1日	開館 35 周年「愛知県陶磁美術館」新名称記念式典を挙げる。開館 35 周年・新名称記念特別企画展「—日本・中国・韓国—陶磁の名品、ここに集う」開会式
平成 26年	10月 4日	本館常設展示室（第 3 展示室～第 6 展示室）リニューアル開会式。陶磁の名品コーナーを新設する。

- 平成 27 年 5 月 23 日 入館者が 300 万人を突破する。
- 平成 28 年 2 月 27 日 南館常設展リニューアルオープン。
- 平成 30 年 4 月 1 日 愛知県陶磁美術館の所管事務が組織再編により愛知県県民生部（文化芸術課）から愛知県県民文化部（文化芸術課）に変更になる。
- 6 月 30 日 開館 40 周年記念特別企画展「知られざる古代の名陶 猿投窯」開会式
- 10 月 27 日 開館 40 周年記念特別企画展「瀬戸ーかく焼き繋ぎ 江戸時代の本業と新製ー」開会式
- 平成 31 年 4 月 1 日 愛知県陶磁美術館の所管事務が組織再編により愛知県県民文化部（文化芸術課）から愛知県県民文化局文化部（文化芸術課）に変更になる。
- 令和 2 年 4 月 11 日 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、観覧施設は 5 月 17 日まで、陶芸館は 5 月 31 日まで休館。
- 令和 4 年 1 月 5 日 西館に展示されていた狛犬を本館ロビーに移設。狛犬インスタレーション展示として、常設展示の新たな見どころ、撮影スポットとした。
- 3 月 12 日 入館者数が 350 万人を突破する。
- 7 月 16 日 国際芸術祭「あいち 2022」連携企画事業／特別展「ホモ・ファーベルの断片ー人とのづくりの未来ー」開会式